

研究紀要

No.219

十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究

～考えを広げ深める対話の工夫と、学びをつなげる振り返りを通して～

(2か年継続研究 2年次)

十勝教育研究所 協力員研究

他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究

～日常モラルを生かした学習内容と一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して～

(2か年継続研究 1年次)



2025 (令和7) 年2月

序

学習者主体の授業づくりが進められ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組が多くで学校で実践されるようになってきました。

そして授業でのICT機器活用は、授業改善に大きく寄与しています。シンキングツールなどで考えを整理し積極的に友達と交流して学びを深めていく授業、注意集中が高まり子どもが意欲的に活動する授業、学習の流れや子ども個々が扱う情報量が格段に多くなっている授業など多くの成果が見られるようになりました。さらに、アプリで容易に子どもの実態調査を行って授業に生かしたり、発達段階に応じてあえて紙媒体を使ったりするなど、子どもが主語の学びを進める環境づくりに教師が心を砕いている様子も多く見られています。

そして最大の成果は、教師と子どもと一緒に学びを創造していく姿勢が色濃くなってきていることにあるのではないかと感じています。

十勝教育研究所では、今年度、子どもが課題や目的意識を共有し、自己決定をしながら主体的に取り組むために「対話の工夫と学びをつなげる振り返り」に視点を当てた共同研究を進めました。また、特別活動を切り口とした協力員研究では、相手意識をもち、他者と様々に関わりながら、お互いを大切にしていける姿勢や態度育むために、「日常モラルを生かした学習内容と一人一人が意思決定する学習展開の工夫」に視点を当てた研究を行いました。両研究とも、授業実践を中心とした省察的実践検証として、4名の先生に授業提供をいただきながら進めることができました。

そして、ここに2つの成果をまとめた研究紀要No.219を発刊する運びとなりました。成果は、現場からの声に応え、ホームページでも公開しております。

何かと忙しい中、授業の提供をいただいた先生方、2つの研究の推進に当たりお力添えをいただいた研究員の皆様、関係機関の皆様に感謝とお礼を申し上げ、研究紀要発刊の言葉といたします。

十勝教育研究所長
十勝管内教育研究所連絡協議会長

山田 洋

令和7年2月

目 次

序 十勝教育研究所長 山田 洋
十勝管内教育研究所連絡協議会長

十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究

～考えを広げ深める対話の工夫と、学びをつなげる振り返りを通して～

I 研究の概要	2
II 研究の視点と内容	6
III 授業実践（小学校）	12
IV 授業実践（中学校）	22
V 参考資料	32
VI 研究のまとめ	40
VII 共同研究員紹介／参考・引用文献	42

十勝教育研究所 協力員研究

他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究

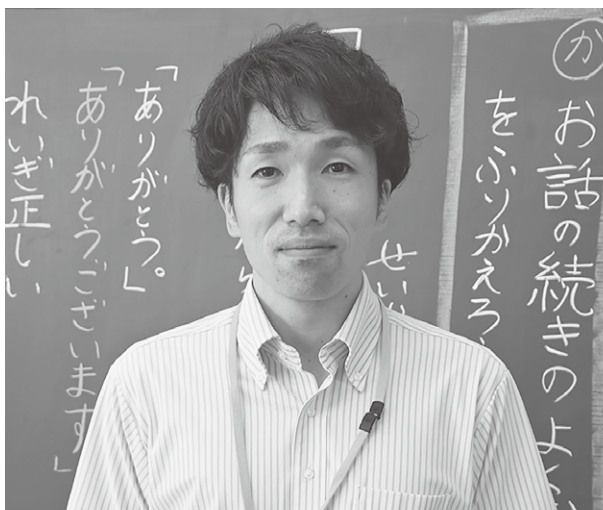
～日常モラルを生かした学習内容と一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して～

I 研究の概要	44
II 研究の視点と内容	48
III 授業実践	52
IV 研究のまとめ	66
V 研究協力校紹介／参考・引用文献	69

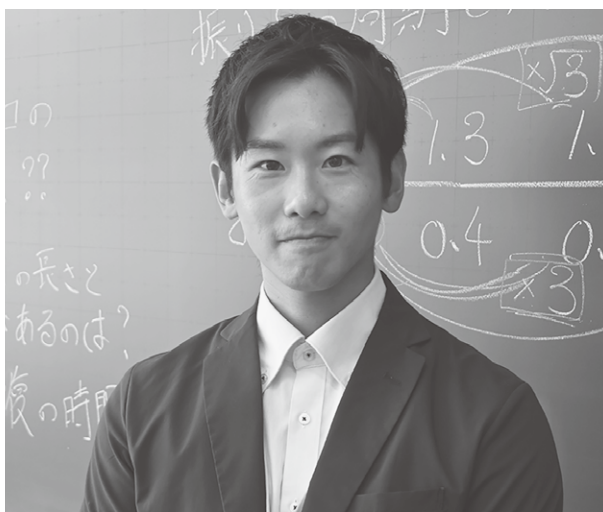
あとがき

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究

～考えを広げ深める対話の工夫と、学びをつなげる振り返りを通して～
(2か年継続研究 2年次)



授業者
大樹町立大樹小学校
教諭 齊藤 織斗



授業者
幕別町立幕別中学校
教諭 長澤 翔太

I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の仮説と内容、構造図
- 4 研究計画
- 5 検証計画
- 6 研究の推進
- 7 研究の組織
- 8 研究推進計画

II 研究の視点と内容

- 1 研究の視点
- 2 研究の内容

III 授業実践（小学校）

- 1 単元計画
- 2 授業記録
- 3 研究内容の検証

IV 授業実践（中学校）

- 1 単元計画
- 2 授業記録
- 3 研究内容の検証

V 参考資料

VI 研究のまとめ

- 1 今年度の研究の成果と課題
- 2 2か年の研究の成果と課題

VII 共同研究員紹介／参考・引用文献

I 研究の概要

1 研究主題

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究（2／2年次）
～考えを広げ深める対話の工夫と、学びをつなげる振り返りを通して～

2 主題設定の理由

今日的な課題 学習指導要領の趣旨から

近年、Society5.0時代の到来やグローバル化の進展等により、社会構造が急速に変化し、予測が困難な時代になっている。その中で、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく学びの構築が求められている。そのためには、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指していかなければならない。

このような状況から、子ども自身が見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることが重要になる。各教科の指導に当たり、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫することで、「主体的な学び」の実現につなげることが必要である。

さらに、子ども自身が子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかが重要な視点の1つであるとされている。現在、1人1台端末の導入により、一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有できるようになり、対話的な学びも様々な工夫が可能となっている。

北海道・十勝の現状から

令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査によると、「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と思う子どもは、北海道・十勝管内のいずれにおいても20%～30%台にとどまり、決して高い数値ではなかった。これらの結果から、考えを広げ深めるための対話の工夫と、主体的に学ぶ力の育成が共通の課題となっていることが明らかになった。

加えて、十勝管内の小・中学校においては、令和5年度の校内研究主題を、「自分の考えを表現する」「伝え合う」と設定した学校が約34%、「自ら学ぶ」「主体的に学ぶ」「子どもを主語にする」とした学校が約50%に上り、自分の考えを表現し合い、主体的に学びを深める子どもを育むことの必要性を、多くの学校が感じている現状がうかがえた。

研究1年次の取組の成果と課題

研究1年次では、考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育むことができるだろうと考え、対話と振り返りに焦点を当てて研究を推進した。

小・中学校2つのグループに分かれて、それぞれ2回の授業実践を行った。その検証から、教師が対話の視点を提示し、思考の過程を可視化しながら他者と自分の考えを比較することで、考えを広げたり深めたりすることができた。また、振り返りの視点を示し、ICTを活用して他者と共有することによって、お互いの振り返りのよさを意味付けたり価値付けたりしながら、自分自身の学びの過程

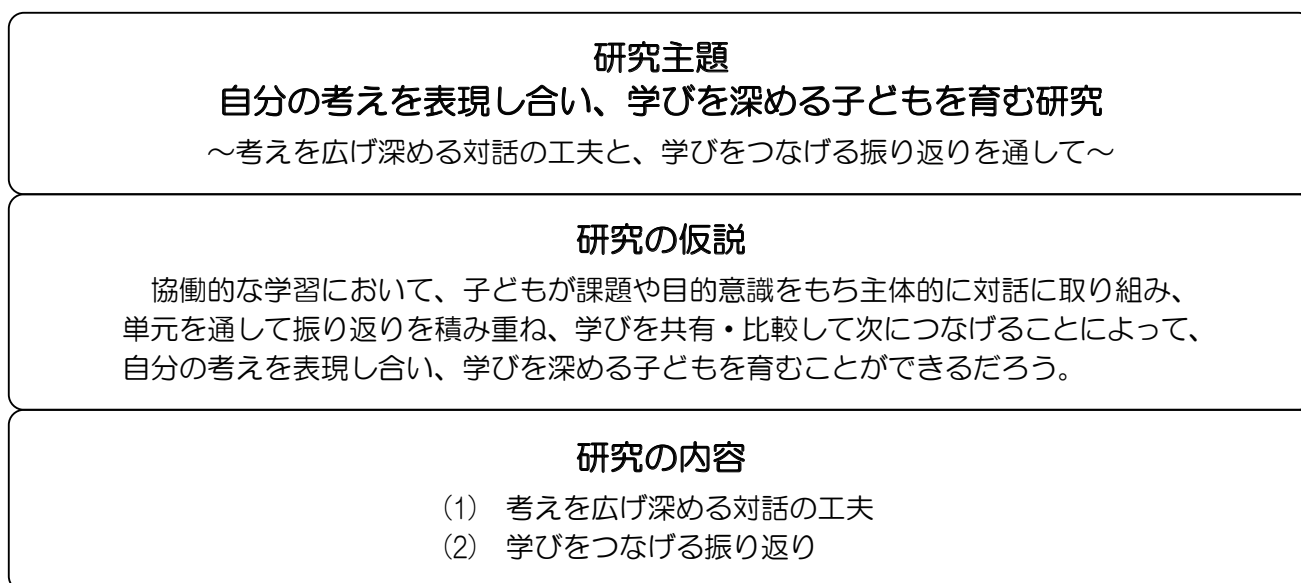
や変容を自覚することができた。

その一方で、子どもが必要感をもち、主体的に対話に取り組むためには、対話の相手やタイミング、形態などを、教師主導ではなく子ども自身が選択・決定できるようにする必要があるのではないかという課題が挙げられた。また、学習のねらいを明確にし、単元のゴールを子どもと教師が共有することや、学習を通して生まれた新たな気付きや課題を次の学びにつなげるという点に課題が残った。

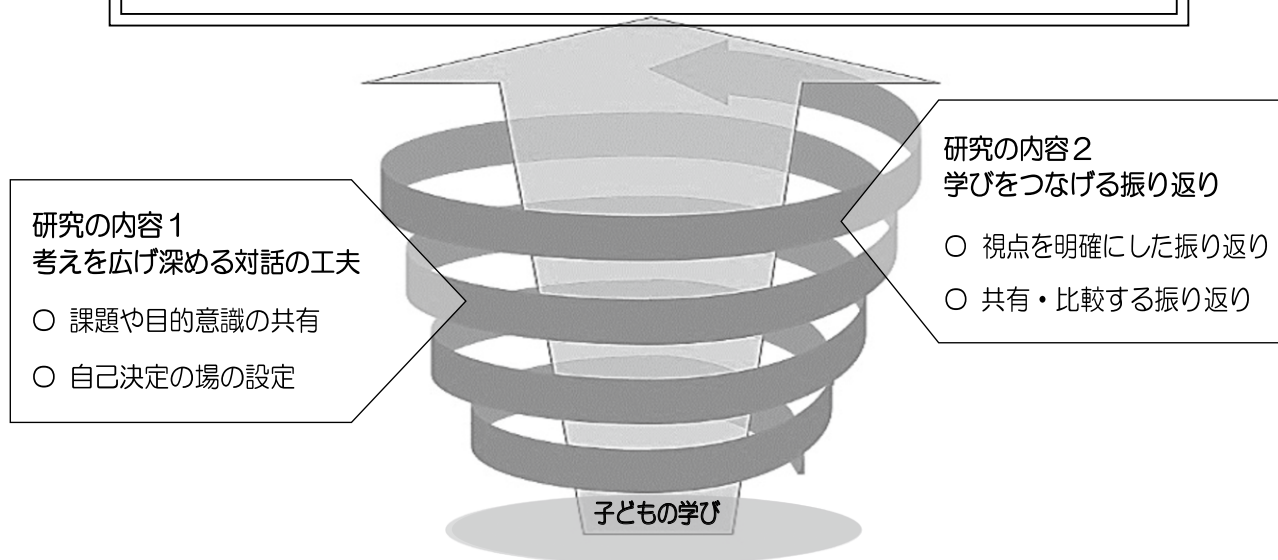
今年度の研究の方向性

北海道・十勝の現状と、研究1年次の成果と課題から、子ども同士、子どもと教師が課題や目的意識を共有し、自己決定をしながら主体的に取り組む対話が必要だと考える。また、視点を明確にした振り返りを積み重ね、学習を通して生まれた新たな気付きや課題を共有・比較することで、学びを次につなげていくことができるだろう。これらの対話の工夫と振り返りを通して、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育てることができるだろうと考え、主題を設定した。

3 研究の仮説と内容、構造図



自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども



4 研究計画

(1) 第1年次（令和5年度）

- ① 研究主題、仮説、内容等の検討
- ② 理論研究
- ③ 共同研究員による実践検証（小学校第5学年国語科、中学校第1学年外国語科）
- ④ 研究の中間まとめと研究紀要の刊行

(2) 第2年次（令和6年度）

- ① 研究仮説、内容、計画の修正
- ② 理論研究
- ③ 共同研究員による実践検証（小学校第2学年国語科、中学校第3学年数学科）
- ④ 研究のまとめと研究紀要の刊行

5 検証計画

(1) 検証内容

① 考えを広げ深める対話の工夫

子ども同士、子どもと教師が課題や目的意識を共有し、自己決定をしながら主体的に対話を行うことで、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの姿につながっていたか。

② 学びをつなげる振り返り

視点を明確にした振り返りを積み重ね、学習を通して生まれた新たな気づきや課題を共有・比較することで、自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの姿につながっていたか。

(2) 検証方法

① 考えを広げ深める対話の工夫に関わって

- ・共同研究員による子どもの見取り（発言、つぶやき、行動等）
- ・ICT、ワークシート、ノート等可視化された対話記録の分析
- ・事前、事後のアンケート調査

② 学びをつなげる振り返りに関わって

- ・ICT、ワークシート、ノート等による子どもの振り返りの分析
- ・事前、事後のアンケート調査

6 研究の推進

- 本研究は、十勝教育研究所と管内各研究所が一体となり推進するものである。
- 管内の子どもたちの実態を踏まえた研究仮説を基に、理論研究や実践検証を進める。
- 共同研究員を2つのグループに分け、推進幹事、副幹事を選出して、協議を重ねながら実践検証をする。
- 幹事は、グループ研究の中心となり実践検証を推進し、副幹事はそれをサポートする。
- 十勝教育研究所は共同研究員と協議し研究を総括する。また、研究推進に関わる文献、資料等を提供する。
- 共同研究員による研究実践の成果を広く管内に提供する。

7 研究の組織

グループ	Aグループ	Bグループ
学年・教科	小学校第2学年・国語科	中学校第3学年・数学科
推進幹事	中村 俊太（芽室南小）	藤原 悠大（大空学園）
推進副幹事	程野 純貴（足寄小）	上野 純子（音更中）
授業者	齊藤 織斗（大樹小）	長澤 翔太（幕別中）
共同研究員	土屋 英之（上居辺小） 杉浦 亜弓（上土幌小） 中山 竜太（鹿追小） 土橋 真理（中札内小） 原田 憲未（上更別小） 名越 正道（池田小） 幾島 佑真（本別中央小）	柴山 貴大（新得中） 高原 悠輔（御影中） 山下 喜久（広尾中） 添田佑生子（豊頃中） 田口 宏子（上浦幌中） 高松ななみ（陸別小）
担当所員	柴田 悠二	山本 由佳 佐藤 悠樹

8 研究推進計画（令和6年度 2／2年次）

月	研究の推進内容	諸会議
4	・研究主題、研究計画の作成	・十勝教育研究所業務計画会議
5	・研究の視点、研究推進の方向性の確認	・十勝管内教育研究所連絡協議会総会
6	・共同研究員の委嘱 ・研究概要の説明 ・グループ分け、幹事・副幹事・授業者の決定 ・実践研究の内容、方針等の検討	・第1回共同研究員会議（6/4） （全体・グループ会議） ・第2回共同研究員会議（6/20・6/25） （推進幹事・副幹事・授業者会議）【Zoom】
7	・理論研究	・第3回共同研究員会議（7/9） （全体・グループ会議）
8		・第4回共同研究員会議（8/20・8/22） （グループ会議）
9	内容検討	・第5回共同研究員会議（9/10・9/17） （授業実践1・グループ会議）
10	授業実践1	・第6回共同研究員会議（9/19・9/24） （授業実践2・グループ会議）
11	授業実践2	
11	各グループ 実践の成果と課題のまとめ	・第7回共同研究員会議（10/8・10/15） （グループ会議） 【Zoom】
	・研究紀要原稿の検討・集約	
12	・研究紀要の作成 ・研究発表大会パワーポイント作成	
1	・研究紀要の作成 ・研究発表大会に向けての最終打合せ ・研究発表大会リハーサル	・第8回共同研究員会議（1/14・1/16） （推進幹事・副幹事・授業者会議）【Zoom】 ・第9回共同研究員会議（1/21・1/28） （推進幹事・副幹事・授業者会議）
2	・研究発表大会（2/6） ・研究紀要の完成、刊行	

II 研究の視点と内容

1 研究の視点

(1) 自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが示されている。見通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の視点、子ども同士の協働等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の視点、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、情報を精査して考えを形成すること等に向かう「深い学び」の視点を手掛かりに、各教科等で身に付けるべき資質・能力を育成することが求められている。

また、社会で活用できる資質・能力を育成していくためには、知識の記憶だけにとどまらず、「理解していることやできることをどう使うか」という思考力、判断力、表現力等を育成することが求められている。思考力、判断力、表現力等とは、知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な力とされており、その過程には、大きく次の3つがあると考えられている。

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

小学校及び中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）より抜粋

さらに、子ども一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切りひらいていくためには、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する「メタ認知」に関わる力の育成が必要となる。教師による評価とともに、自己評価や子ども同士の相互評価を行うことで、子ども自身が自分の変容を自覚することができ、次の学習への意欲にもつながると考える。

そこで、本研究では、北海道・十勝の子ども達の現状を踏まえ、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けることができるようにするため、目指す子ども達の姿を「自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども」とし、以下のように定義することとした。

自分の考えを表現し合い、学びを深める子ども達の姿

- 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿
- 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿
- 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿
- 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿

(2) 考えを広げ深める対話

学習指導要領で示されている「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める学びである。身に付けた知識や技能を定着させ、多様な表現を通じて、子ども同士や教職員などと対話することによって思考を広げ深めることができると考えられている。

そこで、自分の考えを広げたり深めたりするためには、協働的な学習における対話を充実させることが重要と考える。協働的な学習とは、異なる個性をもつ者同士で問題解決に向かう学習と言われている。

協働的な学習には、「多様な情報の収集に触れること」「異なる視点から検討ができること」「地域の人と交流したり友達と一緒に学習したりすることが、相手意識を生み出したり、学習活動のパートナーとしての仲間意識を生み出したりすること」という3つの意義があるとされている。協働的な学習における対話を通して、見方・考え方を広げたり深めたりすることが可能となるだろう。

加えて、協働的な学習は、グループとして結果を出すことが目的ではなく、その過程を通じて、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要だと言われている。グループとして考えるだけでなく、一人一人が学習の見通しをもったり、振り返ったりすることが求められる。

協働的な学習を進めるためには、自分の意見や感想をもつ必要があると考える。まずは1人でじっくりと自己との対話を行い、考えをまとめた上で他者との対話をする必要があるであろう。そして、他者との対話により学びを広げたり深めたりし、再び自己との対話をすることで自分自身の考えを再形成していく。つまり、他者との対話と自己との対話の往還により、学びを深めることができると考える。

本研究における「対話」

- 自分自身の感じ方や考え方を深めることを目的とした「自己との対話」
- 他者との協働的な学習により考えを広げ深めることを目的とした「他者との対話」

(3) 学びをつなげる振り返り

子どもが主体的に学ぶ態度を育み、学習意欲を向上させるために、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫することが重要と考える。

振り返りは、自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして自覚し、他者と共有していくことで、次の学びに主体的に取り組む態度を育むことにつながると言われている。特に、文字言語などによってまとめることは、学習活動を振り返り、既存の知識と収集した情報を関連させ、自分の考えとして整理する深い理解につながっていくとされている。また、子どもが自らの学習の状況を振り返る機会を設けることで、粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面を見取る機会が増え、より正確な「主体的に学習に取り組む態度」の評価につながるということが可能となる。さらに、授業のねらいと子どもの学びが正対しているか、子どもがどこに疑問やつまずきを感じているか等を把握することで、次時以降の教師の授業改善につなげることができると考える。

既に多くの実践が行われている「学習内容を確認する振り返り」に加えて、今後は以下のような視点での振り返りを行うことが必要であろう。これらを積み重ねることによって、子ども・教師が振り返りを通して学びをつなげていくことができるようになると思う。

本研究における「振り返り」

- 自己の学びと他者の学びをつなげる振り返り
 - ・ 1単位時間の授業や単元全体を通して、自分の学びを意味付けたり価値付けたりして自覚し、他者と共有していくもの。
 - ・ 他者と共有したり、教師が適切に評価をしたりすることにより、多様な考え方に触れ、自分の学びを深めるもの。
- 今までの学びとこれからの学びをつなげる振り返り
 - ・ 過去や現在の学習内容や他教科等の学習内容と関連付けたり、一般化したりするもの。
 - ・ 学習内容を自らとつなげ、自己変容を自覚するもの。
 - ・ 学習によって生まれた気付きや疑問などから新たな課題を生み出し、次の学びにつなげるもの。

2 研究の内容

(1) 考えを広げ深める対話の工夫

① 課題や目的意識の共有（視点を明確にした対話）

考えを広げ深める対話にするためには、子どもが必要感をもち、主体的に取り組むことができる課題を設定することが必要となる。現実的で必然性があり、かつ子どもたちが対話・協働することでよりよい解決に結びつくものを設定することが望ましい。そのような課題を単元の中に位置付け、子どもと教師、子ども同士が課題や目的意識を共有することで、対話への主体性が生まれると考える。

教師は、子どもが対話の目的を理解して協力し、課題解決に向かうことを支援するファシリテーターとしての役割を果たすことが重要となる。教師による知識や情報の提供は必要だが、説明や介入をしすぎることは子どもの成長・発達の機会を奪う可能性がある。教師は子どもの自主性や自発性を励ましたり、参考となりそうな意見や対話の様子を取り上げて全体に共有したりする等の支援を行い、学びを促進していくことが望ましい。

また、課題や目的意識を共有してよりよい対話を行うためには、学級のふだんからの人間関係づくりや支持的な雰囲気づくりも重要となる。対話とは「聴き合い」でもあることから、同意・質問・考えの再形成といった聴く力も、学校生活全体を通して育成していく必要があるだろう。

さらに、対話場面を設定しても、一方的なやり取りになったり、互いの考えを伝えるだけになったりすることがある。対話の質を向上させ、子どもの考えを広げ深めるためには、視点を明確にすることが必要だと考える。そこで、下記のような思考スキルを対話場面において「対話の視点」として活用することにより、単なる考えの交流から課題解決に向けてねらいを明確にした対話となり、資質・能力の育成につながるだろう。

思考スキル（対話の視点）

多面的に見る 多角的に見る	分類する	理由付ける	評価する	具体化する
順序立てる	関係付ける	見通す	要約する	構造化する
焦点化する	関連付ける	応用する	変化を捉える	推論する
比較する	変換する	広げてみる	抽象化する	

泰山裕氏（中京大学教授）作成の表を基に学習指導要領（平成29年3月）より作成

② 自己決定の場の設定

令和4年12月改訂の生徒指導提要では、教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりの視点の1つとして、「自己決定の場を提供する」ことが示されている。子どもがどのような目標をもち、どのような姿勢で課題に臨み、どのような役割を果たすのかを自覚することも重要であるとされている。そのため教師は、子どもがまず1人で十分に思考したり調べたりする時間を確保することが必要となるだろう。

対話に関しても、その形態は多様であり、対象（教材や事象）との対話、自己内対話、ペアでの対話、座席が近くの人との対話、グループでの対話、聴きたい人との対話、全体での対話などが考えられる。授業の流れの中で、子どもが対話の形態や、自己との対話の時間と他者との対話の時間のタイミングなどを自己決定したり、学びの進行に応じて柔軟で臨機応変に対応することが望ましいだろう。

さらに、対話の質をより高めるためには、子どもの習熟の状況等を踏まえながら、教師が声掛けをしたり、対話の過程を可視化したりするような活動を取り入れることが有効だと考える。対話における思考の過程を可視化することで、抽象的な情報を扱うことが苦手な子どもが、対話の内容を整理することができたり、複数の子どもが協働で情報の整理や分析を行ったりしやすくなるとされている。

また、対話における思考の過程の可視化は、言語活動の様々な工夫と合わせて活用することで効果が発揮されると言われている。学習のねらいを達成するために、シンキングツール、ワークシート、ノート、ICT等、発達段階や実態に応じて子どもが適切に自己決定していくことが必要であろう。

(2) 学びをつなげる振り返り

① 視点を明確にした振り返り

学びを深めるための振り返りにするためには、学習内容を価値付けたり次の学びにつなげたりする振り返りを継続的に行う必要がある。そのためには、振り返りの視点を子どもたちに示すことが有効と考える。教師が指導のねらいや目的に応じた視点を示したり、複数の視点から学習内容に応じて子どもが選択できるようにしたりすることで、学習内容の意味や価値を深く考えたり、新たな疑問や課題を見付けたりしていくような振り返りになるであろう。

ポイント	振り返りの視点
(1) 「振り返り」の目的を確認する。	① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ② (学びの見通し) 今後の学習で取り組みたいこと。 ③ (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと。
(2) 他者と「振り返り」を共有する。	④ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。
(3) 「振り返り」を振り返る。	⑤ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。 ⑥ (批判的検討) これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す。

大分県教育センター「振り返り」の充実に向けて（令和3年6月）を基に作成

② 共有・比較する振り返り

子どもが学びを深めるためには、振り返りを他者と共有したり、これまでの自分の振り返りに着目したりすることが有効だと考える。1人1台端末の活用によって振り返りの積み重ねと共有が容易になり、子どもは自分及び他者の学びや変容を、日常的に見返したり比較したりすることができるようになった。互いの振り返りを見合うことや、教師が意図的に取り上げて共有することを通して、子どもは「そういう見方や考え方もあったのか」「過去の学びと比べてこう変わったな」「あのとき学んだこととつながった」「これを次の学習で使ってみよう、試してみよう」といった学びのヒントや新たな視点を得ることができると考える。

なお、振り返りは書いて終わりとするのではなく、教師が価値付けたり意味付けたりすることが必要だと考える。教師が振り返りの視点を基に形成的評価を行うことで、子どもは自らの学びを自覚したり次なる方向性を見出したりして、自己調整をしながら学んでいくことにつながるであろう。

このように振り返りを共有・比較することで生まれる気づきや課題が、自己と他者の学び、今までとこれからの学びをつなげ、子どもの学びを深めていくと考える。

(3) 資料

① 単元計画

教科名		学 年	
単元名	*単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する。	児童・生徒数	
		授業者	
1 単元の目標			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> *学習指導要領に基づきながら、各学校の教育課程や単元の内容に合わせ、育成を目指す資質・能力を明確にする。 </div>			
2 単元の観点別評価規準			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①		①	①
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> *単元の目標に合わせ、3つの観点での評価規準を設定する。 </div>			
		②	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> *本研究で目指す子どもの姿の具現化に向けて、単元を通じた手立てを記載する。 </div>			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> *学びをつなげる振り返りにするために、単元で提示する振り返りの視点を記載する。 </div>			



5 単元の指導と評価の計画（全◇時間）		振り返りの視点	【評価規準】 評価方法等																				
時間	◆学習課題 ○主な学習活動 ★対話の視点・自己決定の場																						
1	◆物語を読み、大造じいさんがどのような人物か一言で表わそう。 ○ 単元の見通しをもち、単元計画を立てる。 ○ 物語を通読する。 ○ 大造じいさんの人物像を「～～な人」と一言で表現する。 (□イロノート)	② ③	【思・判・表】② □イロノート																				
2	*各学校の教育課程、年間指導計画、教科書等を参考に、1単位時間ごとの「◆学習課題」「○主な学習活動」を記載する。		【知・技】① 発言・ノート																				
3			*「2 単元の観点別評価規準」より、【観点】と①～②の番号を表記する。見取るための評価物についても記載する。																				
4	*対話を取り入れる授業（※毎時間ではない）で子どもたちに提示する対話の視点と、子どもたちの自己決定の場の設定（手段・相手・形態・場所・タイミング等）を記載する。		*「1単元の目標」との整合性が図られているか留意する。																				
	<table border="1"> <tr> <td>多面的に見る 多角的に見る</td> <td>分類する</td> <td>見通す</td> <td>要約する</td> <td>構造化する</td> </tr> <tr> <td>順序立てる</td> <td>関連付ける</td> <td>応用する</td> <td>変化を捉える</td> <td>推論する</td> </tr> <tr> <td>焦点化する</td> <td>変換する</td> <td>広げてみる</td> <td>抽象化する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>比較する</td> <td>理由付ける</td> <td>評価する</td> <td>具体化する</td> <td></td> </tr> </table> <p>★広げてみる・相手</p> <p>★多面的・多角的に見る・アイデアを表出する手段</p>	多面的に見る 多角的に見る	分類する	見通す	要約する	構造化する	順序立てる	関連付ける	応用する	変化を捉える	推論する	焦点化する	変換する	広げてみる	抽象化する		比較する	理由付ける	評価する	具体化する			*単位時間の評価項目は1～2つとする。
多面的に見る 多角的に見る	分類する	見通す	要約する	構造化する																			
順序立てる	関連付ける	応用する	変化を捉える	推論する																			
焦点化する	変換する	広げてみる	抽象化する																				
比較する	理由付ける	評価する	具体化する																				
			*「4 単元で提示する振り返りの視点」を基に、1単位時間の指導のねらいや目的に沿った振り返りの視点を、①～⑥の番号で記載する。																				
◇																							

ポイント	振り返りの視点
(1)「振り返り」の目的を確認する。	① 分かったことやできるようになったこと（学びの自覚） ② 今後の学習で取り組みたいこと（学びの見通し） ③ 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと（新たな学びの創造）
(2) 他者と「振り返り」を共有する。	④ 友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす（他者の振り返りを自分の学びに生かす）
(3)「振り返り」を振り返る。	⑤ これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する（自己の成長の自覚） ⑥ これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す（批判的検討）



当研究所のホームページから資料をダウンロードすることができます。




Ⅲ 授業実践（小学校）

1 単元計画

教科名	小学校 国語科	学 年	第2学年
単元名	わにのおじいさんのたからもの	児童数	18名
		授業者	齊藤 織斗
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)力 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
①文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)力	<ul style="list-style-type: none"> ①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 	①進んで、登場人物が考えていたことを本文の言葉を根拠に想像し、学習課題に沿って物語の続きを考えようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠が抜け落ちないようにするために、適宜叙述に立ち返らせる声掛けを行う。 考えの根拠をしっかりともてるように、単元の前半で物語の構造と内容を把握できるようにする。 クラゲチャートなどのシンキングツールを活用し、低学年でも自分の考えを表現したり共有したりしやすくする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 考えたくなるような課題を提示することで、他者の考えを知りたくなる場を作り、意欲的に対話ができるようにする。 対話の目的を明確にしてから、対話を行うようにする。 クラゲチャートを活用したり、ギャラリーウォークなどを行ったりすることで、他者の考えを生かせる場をつくる。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> シンキングツールを活用し、対話における思考の過程を可視化する。 対話の後に、自分の考えを再形成する時間を確保する。 			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気付きや課題を、次の学びにつなげようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 手本となる子どもの振り返りを全体で共有し、振り返りを苦手としている子どもも含め全員がしっかりと学びを振り返ることができるようにする。 「自分が書いたお話の続きを更に良くする」という単元のゴールを常に意識し、学んだことが「お話の続きを書く」際に、どう生かすことができそうか振り返る。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> ①（学びの自覚）分かったことやできるようになったこと。 ②（学びの見通し）今後の学習で取り組みたいこと。 ③（新たな学びの創造）疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと。 ④（他者の振り返りを自分の学びに生かす）友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ⑤（自己の成長の自覚）これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。 			

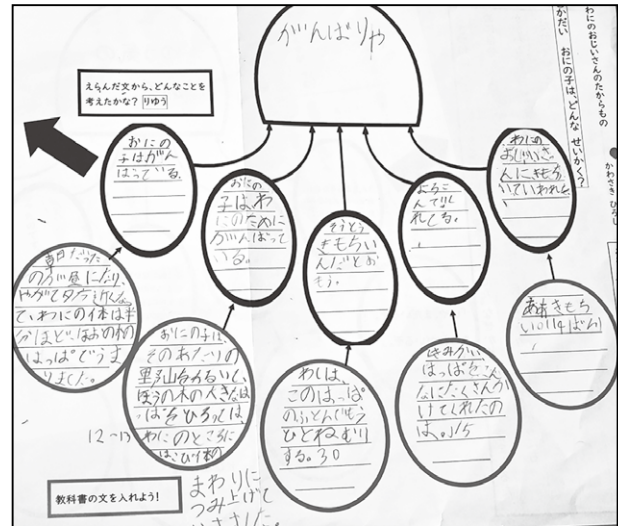
5 単元の指導と評価の計画（全14時間）			
時間	◆学習課題 ○主な学習活動 ★対話の視点・自己決定の場	振り返りの視点	【評価規準】 評価方法等
1	◆物語を読んで、初発の感想を書こう。 ○ 「たからもの」や「おに」についてのイメージを共有する。 ○ 「わにのおじいさんのたからもの」を読み、初発の感想を書く。 ○ 「きつねのおきゃくさま」の終わり方と比較して、「まだ続きがあるかもしれない」という課題意識をもち、「お話の続きを考える」というが単元のゴールを確認し、2時間目の活動につなげる。 ★多面的、多角的に見る・対話する相手	② ③	【思・判・表】② ノート
2	◆お話の続きを考えよう。 ○ 物語の続きを考え、うまくいかなかったことを中心に振り返る。 ○ 学習計画を立てる。	② ③	【思・判・表】① 【態度】① ノート・ワークシート
3	◆物語の設定を確かめよう。 ○ 物語の設定（人・時・場）を確かめる。	①	【知・技】① ノート・発言
4	◆お話の出来事をつかもう。 ○ それぞれの場面で、「誰が」・「何をしたのか」をまとめる。 ○ 挿絵を並び替え、大まかな内容を捉える。	① ②	【知・技】① ノート
5	◆おにの子は、どんな性格なのか考えよう。 ○ 叙述を基におにの子の人物像を考え、クラゲチャートにまとめる。	① ③	【思・判・表】① ノート・ワークシート
6	◆おにの子の性格を伝え合い、考えを広げよう。 ○ 前時に考えたおにの子の人物像について、友達と交流し、考えを修正したり、広げたりする。 ★多面的、多角的に見る ★広げてみる・対話する相手	① ④	【思・判・表】① 【態度】① ノート・ワークシート
7	◆わにのおじいさんは、どんな性格なのか考えよう。 ○ 叙述を基にわにのおじいさんの人物像を考え、クラゲチャートにまとめる。 ★多面的、多角的に見る ★広げてみる・対話する相手	① ③	【思・判・表】① 【態度】① ノート・ワークシート
8	◆どうして、おにの子にたからもの場所を教えたのか考えよう。 ○ わにのおじいさんが、初めて出会ったおにの子になぜたからもの場所を教えようとしたのかを、おにの子の人物像などを基に考える。 ★理由付ける・自分の考えをもつための手段	①	【思・判・表】① ノート・発言
9	◆おにの子は、夕日を見たときにどんなことを考えていたか想像しよう。 ○ 叙述を基に、おにの子がどんなことを想像していたかを、ワークシートの吹き出しに記述する。 ★理由付ける ★多面的、多角的に見る・自分の考えをもったり、広げたりするための手段	① ②	【思・判・表】① ワークシート・発言
10	◆自分だったら、おにの子にたからものが埋まっていることを教える？教えない？ ○ 前時まで読み取ったことを生かし、「教える」「教えない」のどちらかを選択し、その理由を考える。 ○ それぞれの立場から理由を交流し、自分の考えを広げる ★多面的、多角的に見る ★評価する・自分の考えを広げるための手段	④	【思・判・表】② 【態度】① ノート・発言
11	◆お話の続きを考えよう。 ○ 教師が書いた物語の続きを修正し、活動の見直しをもつ。 ○ これまでの学習を生かして、2時間目に書いた物語の続きを修整したり、加筆したりする。	① ③	【思・判・表】① 【態度】① ノート・ワークシート
12	◆友達のお話の続きを読んで、自分のお話の続きに生かそう。 ○ お互いの物語の続きを読んで考えたことを交流する。 ○ 交流したことを活用し、自分の物語の続きに生かす。 ★広げてみる・考えを広げたり、修正したりする手段	② ④	【思・判・表】① 【態度】① ノート・ワークシート
13	◆これまでの学びを生かして、お話の続きを更によくしよう。 ○ 前時の活動で友達と交流したことなどを生かし、自分の物語の続きを再考したり、修正したりする。	①	【思・判・表】① 【態度】① ノート・ワークシート
14	◆お話の続きのよくなったところを振り返ろう。 ○ 自分の物語の続きを修正したところ振り返り、よさを見つける。 ○ 単元を通して成長したところを振り返る。	① ⑤	【思・判・表】② 【態度】① ワークシート・発言

2 授業記録

6 細案 授業実践①（6/14時）	
本時の目標	評価規準
<p>おにの子の人物像について交流する中で、よりふさわしいと思う人物像に修正したり、考えの根拠を増やしたりすることができる。</p>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動を具体的に想像し、おにの子の人物像について考えている。（ノート・ワークシート） <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで他者と交流し、おにの子の人物像について考え直したり、根拠となる叙述を更に見付けたりしようとしている。（ノート・ワークシート）
具体的な子どもの姿	教師の手立て
<p>◆学習課題 ○主な学習活動 ★自己決定の場</p>	<p>対話の視点 振り返りの視点</p>
見通す	<p>○ <u>前時の学習を振り返る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に考えたおにの子の人物像を振り返り、本時の課題につなげる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>友達と交流して、ぴったりのおにの子の性格を考えよう。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>頑張り屋</p> <p>優しい</p> </div> </div>
	<p>○ <u>本時の課題を確認する。</u></p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ おにの子の性格を伝え合い、考えを広げよう。</p> </div> <p>○ <u>黒板に書いてある人物像を見て、交流したい人を自分で選び、どうしてその人物像を考えたのか交流する。</u></p> <p style="text-align: right;">★対話の相手</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>なんで「礼儀正しい」と思ったの？</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>① 同じ考えがあったらクラゲチャートの足に、赤で○をつける！</p> <p>② なるほど！と思った考えがあったら、赤で書きたす！</p> <p>③ 考えをかえたくなったら、赤でかえる！</p> <p>④ 思いつかなかった人は、友だちの考えを赤で書きたしてみよう。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>【研究との関わり】</p> <p>考えを広げ深める対話の工夫</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>対話の視点 「多面的、多角的に見る」「広げてみる」</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の考えを基に、人物像の根拠を増やす。 他者の考えを基に、人物像を捉え直す。 </div>
探究する	<p>「わにのおじいさん」と呼び掛けているから、「礼儀正しい」と思いました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 複数の叙述を関係付けると、登場人物の性格がはっきりすることに気付くようになる。 おにの子の行動やせりふから人物像を考えていることに気付くようになる。

探究する

○ 交流後に、クラゲチャートに自分の考えを修正したり追加したりする。



【対話後に考えを書き足したワークシート】

○ 全体で交流する。

- どの叙述を基に、おにの子の人物像を考えたのかを交流する。

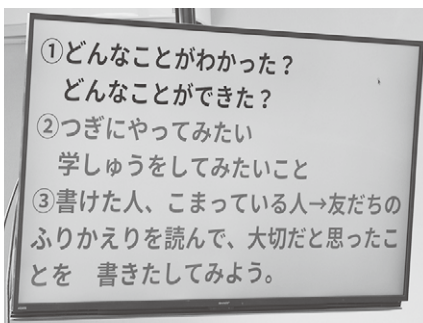


◆まとめ せりふや行動に注目すると、登場人物の性格を考えることができる。

○ 本時を振り返る。

【研究との関わり】

学びをつなげる振り返り



振り返りの視点

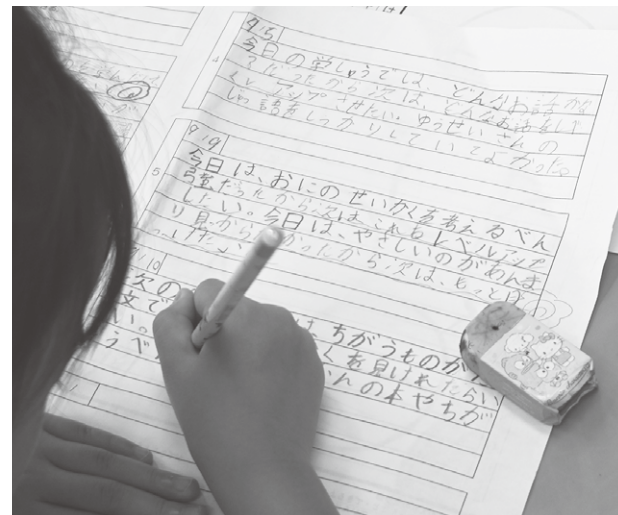
- ① 分かったことやできるようになったこと。
- ④ 友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。

振り返る

○ お互いの振り返りを共有する。



友達の意見を聞いて、友達の考えと自分の考えを合わせていったら、クラゲチャートの足を増やせました。

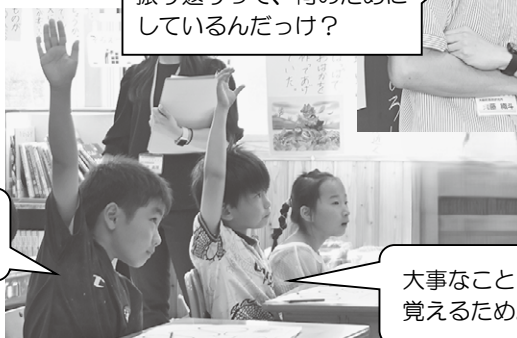


7 細案 授業実践② (14/14時)	
本時の目標	評価規準
物語の続きをよりよくするために、修正や追加した箇所を交流したり、単元全体を振り返ったりすることができる。	【思・判・表】 ・自分の物語の続きのよさを見付けたり、単元全体を振り返ったりしている。(ワークシート・発言) 【態度】 ・進んで、自分の物語の続きのよさを見付けようとしたり、単元全体を振り返ろうとしたりしている。
具体的な子どもの姿 ◆学習課題 ○主な学習活動 ★自己決定の場	教師の手立て 対話の視点 振り返りの視点

見通す

○ 前時まで自分の書いたお話の続きが、よくなったかどうか自己評価する。

・3段階の表情のイラストから1つを選び、黒板に全員の自己評価を可視化する。



勉強したことを確かめるため。

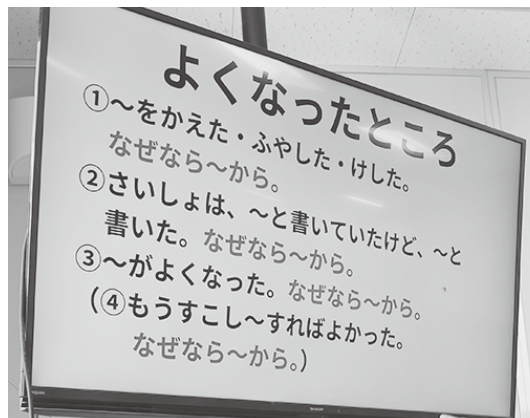
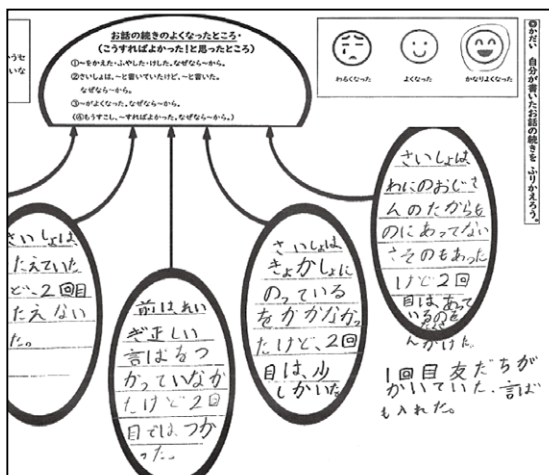
○ 本時の課題を確認する。

◆ お話の続きのよくなったところを振り返ろう。

探究する

○ 自分が考えた物語の続きを修正したり、追加したりした箇所を中心に振り返り、自分の考えた物語の続きのよさを見つける。

・振り返りの型を提示する。



探究する

○ 全体で交流する。

- よくなったところを全体で交流する。

- 振り返りを書き終わった子どもや、書くことに困っている子どもは、他者と考えを共有し、自分の考えに追加する。
- 単元で学習した人物像や、心情の変化などを活用することで、物語の続きとしてふさわしい内容になることに気付くようにする。



○ 単元の学習を振り返る。

「わにのおじいさんのたからもの」で勉強したことって、次の勉強でも使える？
次はおには出てこないけど、使える？



勉強したこと（登場人物の行動や性格を読み取ること）は、全部の物語で使える。

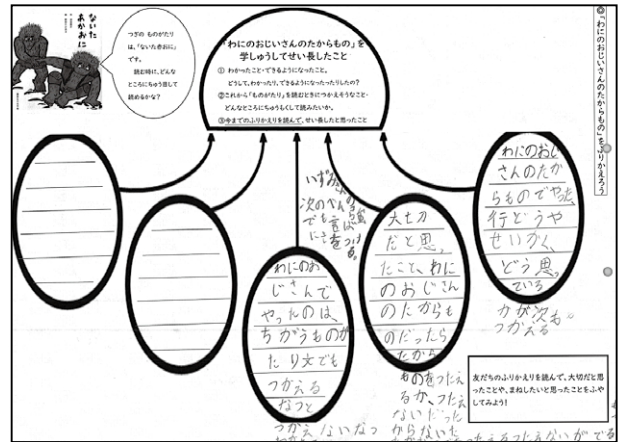
【研究との関わり】
学びをつなげる振り返り

振り返りの視点

- ① 分かったことやできるようになったこと。
（これから物語を読む際に生かせそうなこと・これから物語を読むとき、どこに注目して読むか）
- ⑤ これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。

振り返る

○ 単元の振り返りをクラゲチャートに書く。



○ お互いの振り返りを共有する。



- 今まで蓄積していた振り返りや、成果物などを参考にする。
- 書き終わった後は、子ども同士で共有し、大切だと感じた他者の振り返りをクラゲチャートに追加する。

3 研究内容の検証

(1) 子どもの見取り・聞き取り

① 子どもの対話記録

- 授業実践1 対話の視点「多面的・多角的に見る」「広げてみる」

本時では、黒板にある「やさしい」「がんばりや」などのおにの子の性格と、その下に貼った名札を見て、話を聞いてみたい相手を子どもが自己決定し、どうしてそのように考えたのか、クラゲチャートに記述した内容を基に交流した。



Aさん：『やっとたどりついた』だから、大変な思いをして宝探しをしているので頑張り屋だと思った」

Bさん：「わにのおじいさんのために何度も『はっぱをかけてあげた』から、優しい」

Cさん：「自分だったら怖いけど、おにの子は『つり橋をわたる』から頑張り屋」（途中から来たDさんがAさんに尋ねる）

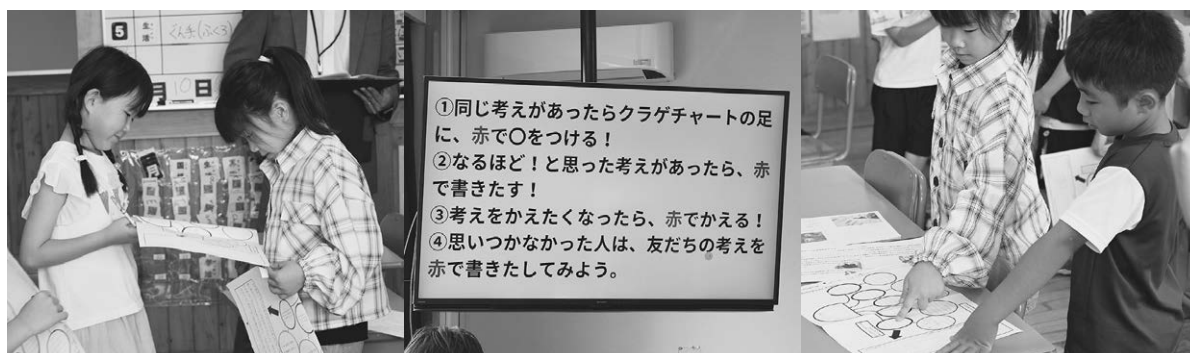
Dさん：「なんで頑張り屋だと思ったの？」

（対話ではなく、ワークシートの見せ合いになる）

（本時のAさんの振り返りより）

「おにの子は（優しいよりも）頑張り屋だと思っていたけど、やっぱり優しいと思った。」

「いろいろなお話で行動している言葉や登場人物の性格を調べていきたいです。」



「物語の続きを考える」という単元のゴールを教師と子どもで再確認し、そのために「おにの子の性格を伝え合い、考えを広げる」という対話の目的を共有した。また、上記のように大型モニターで交流の手順を示し、他者の考えを取り入れて自分の考えを再形成することにつなげていた。

中には、互いの考えを伝え合い聞き合うという対話の形には至らない子どもも見られた。しかし、手元にあるクラゲチャートのワークシートを見せ合い、読み合った上で、「ここがいいね」「これ（を自分のワークシートに）書いてもいい？」などと言い合いながら、気付いたことを自分のワークシートに書き足すことで考えを広げることができたと考えられる。

② 子どもへのインタビュー

○ 授業実践1より



Q：今回の学習を振り返って、どのようなことが分かったり、できるようになったりしましたか。

文の中から、登場人物の行動や、しゃべっている会話文を見付けることが大事だと分かった。

（クラゲチャートに記入する）理由を、いっぱい書けるようになった。友達の話聞いて、それも使うようにしたから。



○ 授業実践2より



Q：話し合いの中で、「なるほど」「どうして」と思った友達の考えはありましたか。

Aさんが、「このお話で勉強したこと（行動やせりふを読み取ると登場人物の性格が分かるということ）は、違うお話でも使える」と言っていて、なるほどと思った。



Q：友達と振り返りを交流して、参考になったことや考えが広がったり深まったりしたことはありましたか。

今日勉強したことや分かったことを、振り返りに詳しく書いている人がいっぱいいるから、見ると勉強になる。

振り返りを毎日書いてるから、長く書けるようになったし、人の振り返りを見るとアイデアをもらえる。

「おにの子」の人物像について、クラゲチャートの記述を通して自分自身の考えと友達の考えの共通点や相違点を交流し、新たな気づきを得ることにつながったことがうかがえる。

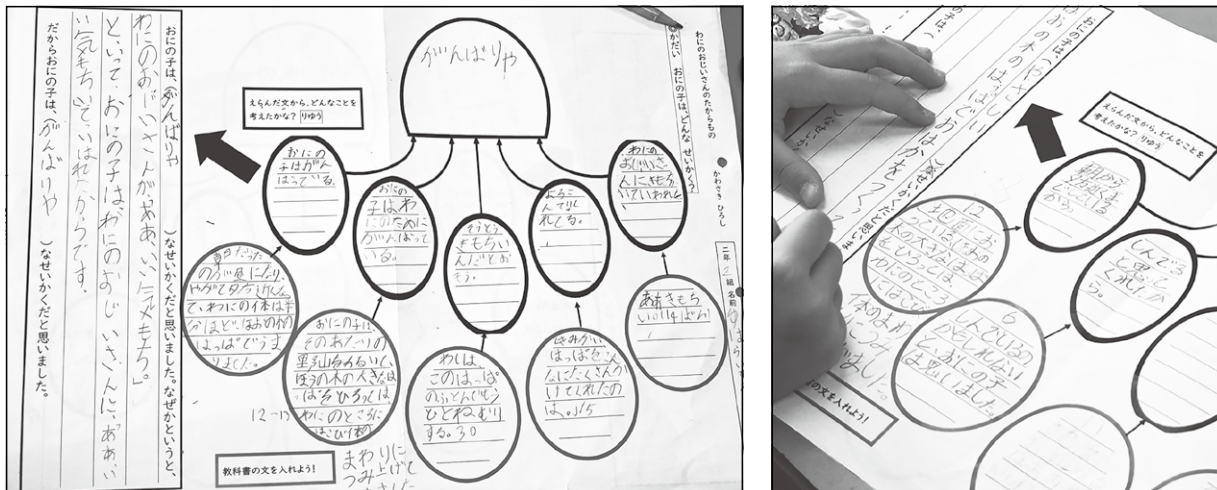
また、振り返りを継続的に積み重ねて共有・比較することで、自己変容を実感したり、他者の記述からアイデアを得たり、今回学んだことが別の単元にもつながることを自覚したりすることができていた。

(2) 子どもの記述内容

① シンキングツール

授業実践では、思考の過程を可視化する手段として、シンキングツールの「クラゲチャート」を使用した。小学校第2学年の発達段階とICTの使用実態を考慮し、紙に印刷したクラゲチャートを用いた。既習の「きつねのおきゃくさま」を取り上げて記述例を示し、子どもたちが具体的なイメージをもって書きやすくなる手立てを講じていた。子どもたちは、教科書から根拠となる部分を抜き出しながらクラゲの足に自分の考えを書き込んでいた。

シンキングツールを使って対話をする中で、思考の整理や他者参照につながっていた。また、交流を通して得られた新たな考えを自分のクラゲチャートに追記し、クラゲの足を増やしていくことに意欲や充実感をもっている子どもの姿が多く見られた。他者の考えを取り入れながら自分の考えを再形成することによって、学びを深めることにつながったと考えられる。



② 振り返りシート

下記のように一覧になっていることで、子どもも教師も学びの足跡を確認しやすい。記述内容の変容を見返したり、今まで学んだことがどこにどう結び付くか気付いたりすることができる。また、振り返りの記述に対して、教師が問いかけ・励まし・誉め言葉などのコメントをして学びを見取りながら、子どもの次への意欲につなげていた。

<p>たんげん名 わにのおじいさんのたからもの</p> <p>たんげんのゴール お話の続きを考えることができる。</p> <p>単元のゴールを常に意識する。</p> <p>8/30 今日はおにのせいからものを学んだ。次はこのつぎをきくお話をききたい。おにのせいからものをきくお話をききたい。</p> <p>9/3 えいとうちうさんの「わにのおじいさんかおにのせいからものをきくお話をききたい。」</p> <p>9/4 わにのおじいさんのたからものつぎは、おにの子は、なんでもなんでもきくお話をききたい。</p>	<p>9/5 今日の学しゅうでは、どんなお話をきいたかから次は、どんなお話をきくお話をききたい。おにのせいからものをきくお話をききたい。</p> <p>9/9 今日は、おにのせいからものをきくお話をききたい。おにのせいからものをきくお話をききたい。</p> <p>9/10 おにのせいからものをきくお話をききたい。おにのせいからものをきくお話をききたい。</p> <p>9/10 今日は、わにのおじいさんのせいからものをきくお話をききたい。おにのせいからものをきくお話をききたい。</p>
---	--

◎ふりかえりのコツ◎

①自分のかわったこと・できるようになったこと

「はじめは～～と思っていたけど、～～と考えるようになった。」「～～ができるようになった。」

②大切なこと 「今日の学しゅうでは、～～が大切だと思った。」

③つながり 「今日の～～は、前にならった～～がつかえることが分かった。」

④ぎもん 「～～はどうしてだろうと思った。」「～～だったら、どうなるのかな？」

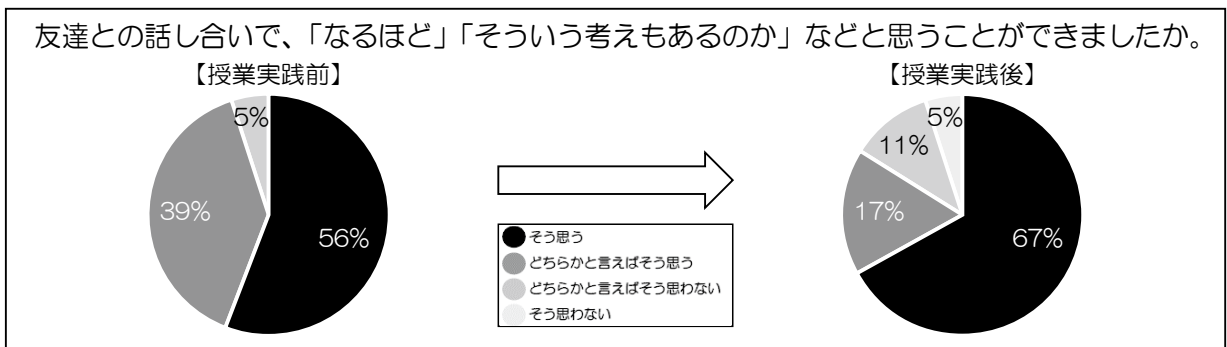
⑤やってみよう 「つぎの学しゅうでは、～～をやってみよう。」

教師が学習のねらいや振り返りの視点を示すことで、子どもは分かったことやできるようになったこと、疑問や次にやってみようなど具体的な記述している。

単元を通した振り返りでは、教師が授業のねらいとしていたことを明確に記述している子どもが多く、「教師のねらい」と「子どもの学び」が繋がっていた。また、他者の考えから気付いたことや、この単元での学びを他の単元にも生かすことができるという記述から、学んだことが次の学びへと繋がっていることがうかがえた。

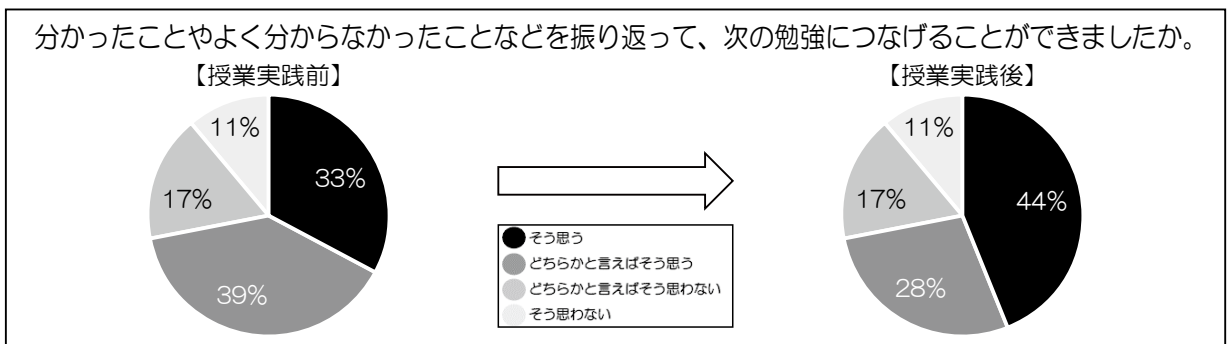
(3) 子どもへのアンケート調査

① 対話に関するアンケート結果



アンケートでは、実践前に比べ「そう思う」と回答した子どもが増えている。「そう思わない」が微増しているのは、同じ考えの子ども同士で対話をする機会が多かったことや、学習が進む中でより客観的に対話の内容を自己評価するようになったこと等が理由として考えられる。実際の子どもの姿を見ると、対話による成果が大きい。

② 振り返りに関するアンケート結果



「そう思う」と回答した子どもが増え、実践前は「どちらかといえばそう思う」だった子どもも、学習を通して振り返りの有用性をより実感することができたと考えられる。今回に限らず子どもたちは継続的に振り返りを積み重ねており、記述の比較・共有を通して自己の変容を実感しながら、次の学習への課題意識や意欲につなげていると捉えることができる。

③ 単元全体の振り返り

- 友達と交流して自分が今まで気付かなかったことに気付いて直して、レベルアップしたなど思った。
- 友達と振り返りを読み合って、友達のよいところをいっぱい見付けられた。いろいろな友達と話すことができた。
- 次の勉強では、違う物語文でも（登場人物の）性格を見付けられたらよい。次は、図書館の本や違う勉強でも性格や行動や会話文も探したい。
- 次の物語文では、わにのおじいさんでやった勉強や、ほかにやったことも使いながらやる。（登場人物の）性格や行動やいろいろ使いながら書くのが大切だと思った。

対話については、他者との交流を通して考えが広がったという記述、振り返りについては、「次の勉強ではこうしたい」「学んだことを次の新しい物語でも生かす」といった記述が特徴として挙げられる。このように、子どもたち自身が対話や振り返りを通して考えを広げたり深めたりできたという実感を得ており、学びを次につなげようとする意欲に結び付いていた。

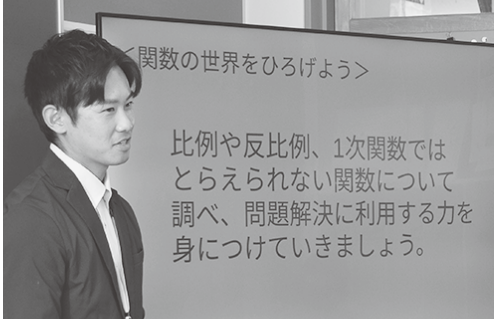
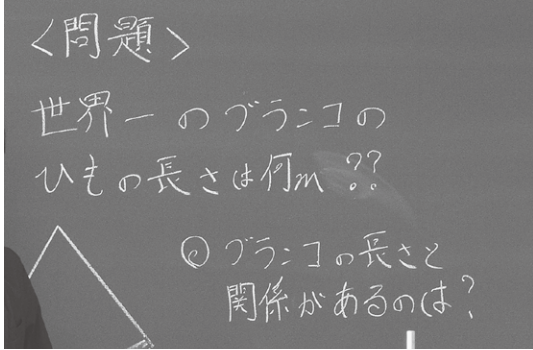


IV 授業実践（中学校）

1 単元計画

教科名	中学校 数学科		学 年	第3学年
単元名	関数 $y=ax^2$		生徒数	24名
			授業者	長澤 翔太
1 単元の目標				
<ul style="list-style-type: none"> 関数 $y=ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現することができる。 関数 $y=ax^2$ のよさを実感して粘り強く考え、関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。 				
2 単元の観点別評価規準				
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①関数 $y=ax^2$ について理解している。 ②事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを知っている。 ③いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> ①関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現している。 		<ul style="list-style-type: none"> ①関数 $y=ax^2$ のよさを実感して粘り強く考え、関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て				
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> 1次関数や比例の関係と対比させながら、それらの学習で習得した知識・技能を活用し、学習を進めていく。 問題を解決するために、自分がどのような方法でまとめるのか、自己決定の場を設定する。 				
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> 自然事象や社会現象などを例に、子どもが主体的に取り組むことができる課題を設定する。 思考スキルを対話の場面で活用することで、課題解決に向けてねらいを明確にした対話が行われるようにする。 				
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> ワークシートやロイロノートを活用して、自分の考えを整理したり、自分の表現を見直したりすることができるようにする。 				
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気付きや課題を、次の学びにつなげようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートで毎時間の学びの振り返りを可視化することで、自分の学びや変容を見返したり、比較したりすることができるようにする。 				
4 単元で提示する振り返りの視点				
①（学びの自覚）分かったことやできるようになったこと。				
②（学びの見通し）今後の学習で取り組みたいこと。				
③（新たな学びの創造）疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと。				
④（他者の振り返りを自分の学びに生かす）友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。				
⑤（自己の成長の自覚）これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。				
⑥（批判的検討）これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す。				

5 単元の指導と評価の計画（全15時間）			
時間	◆学習課題 ○主な学習活動 ★対話の視点・自己決定の場	振り返りの視点	【評価規準】 評価方法等
1	◆具体的な事象の中の2つの数量の変化や対応の様子を調べ、その特徴を説明しよう。 ○パフォーマンス課題を提示する。 ○比例や反比例、1次関数では捉えられない関数について調べる。 ★見通す・交流の手段	②	【思・判・表】① □イロノート
2	◆時間に伴って進む距離が増えていくような変化の様子を調べてみよう。 ○球が斜面を転がる場面で、時間と距離の関係を調べる。 ○関数 $y=ax^2$ の意味を理解する。 ★変化を捉える・まとめる方法	①	【知・技】①② ワークシート
3	◆関数 $y=ax^2$ の関係を式に表そう。 ○ y を x の式で表して、 y は x の2乗に比例するかどうかを調べる。 ○1組の x 、 y の値の組から、 $y=ax^2$ の式を求める。	①	【知・技】① □イロノート
4 5 6	◆関数 $y=ax^2$ の性質を調べてみよう。 ○関数 $y=ax^2$ のグラフについて、 a の値をいろいろにとって、その特徴を調べる。 ○関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴をまとめる。	① ③	【知・技】① □イロノート
7 8 10	◆関数 $y=ax^2$ の値の変化の様子を詳しく調べよう。 ○関数 $y=ax^2$ の値の増減について調べる。 ○関数 $y=ax^2$ の変化の割合を調べる。 ○関数 $y=ax^2$ ので、 x の変域に対応する y 変域を求める。	① ③	【知・技】① □イロノート
11	◆身の回りの問題を、関数 $y=ax^2$ を利用して解決してみよう。 ○世界一大ブランコのひもの長さを、振り子の周期と長さの関係を基に予想する。 ○振り子の周期と長さの関係を、関数 $y=ax^2$ で捉え、説明する。 ★推論する・まとめる方法	④	【思・判・表】① ワークシート 【態度】① 振り返り
12	◆関数 $y=ax^2$ のグラフを利用して、問題を解決してみよう。 ○放物線と直線の2つの交点の座標や2つの交点を通る直線の式を求める。	③	【思・判・表】① □イロノート
13	◆走行時の速さを推測しよう。 ○自動車の走行時の速さを、速さとブレーキ痕の長さの関係を基にして予想する。 ○単元全体の振り返りをする。 ★評価する・振り返りの視点	⑤ ⑥	【思・判・表】① ワークシート 【態度】① 振り返り
14	◆身の回りにおけるいろいろな関数を調べてみよう。 ○いろいろな事象の中から関数関係を見付け、その変化や対応の様子を調べる。	③	【知・技】①③ □イロノート 【思・判・表】① □頭説明
15	◆自転車での安全走行について考えよう（パフォーマンス課題）。 ○自転車の停止距離を求めて、危険を回避することができるかどうか判断する。	⑤ ⑥	【思・判・表】① パフォーマンス課題 【態度】① 振り返り

2 授業記録

6 細案 授業実践①（11/15時）																	
本時の目標	評価規準																
<p>具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を、関数 $y=ax^2$ とみなして、問題を解決する。</p>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、問題を解決している。（ワークシート） <p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。（振り返り） 																
<p>具体的な子どもの姿</p> <p>◆学習課題 ○主な学習活動 ★自己決定の場</p>	<p>教師の手立て</p> <p>対話の視点 振り返りの視点</p>																
見通す	<p>○ <u>前時の学習を振り返る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を全体で確認する。 																
	<ul style="list-style-type: none"> ブランコを取り上げ、身近な事象に子どもが関心をもつようにする。 																
探究する	<p>○ <u>本時の学習を見通す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を提示し、本時の課題につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◆ 「世界一大ブランコ」のひもの長さを、振り子の周期と長さの関係を基に予想しよう。</p> </div>																
	<p>○ <u>「周期」と「長さ」の関係を調べる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「周期」と「長さ」の間には、関係性がありそうだということ振り子の実験により共有する。 																
	<p>○ <u>「長さ」が「周期」の2乗に比例していることを確認する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 何を x、何を y として変化と対応の仕方を調べればよいのかを確認する。 																
	<p>各班の振り子の実験結果を集計すると、次の表のような結果になりました。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>x (秒)</td> <td>0.9</td> <td>1.3</td> <td>1.6</td> <td>1.9</td> <td>2.0</td> <td>2.2</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>y (m)</td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td>0.6</td> <td>0.8</td> <td>1.0</td> <td>1.2</td> <td>1.4</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"> 2 2 4 7.0227 $4=$ </p>	x (秒)	0.9	1.3	1.6	1.9	2.0	2.2	2.4	y (m)	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4
x (秒)	0.9	1.3	1.6	1.9	2.0	2.2	2.4										
y (m)	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4										

探究する

この実験結果は、
今までに学習したどの関数
に当てはまるだろう？



比例かな？

(グラフを描きながら) 比例
じゃなくて、2次関数っぽい。



じゃあ…スーッと…こんな感じ
の曲線？

【グラフから推論したグループ】

○ 考察をワークシートにまとめる。

- 表、式、グラフの中から方法を選択し、
関係を見いだしたり、結論を導き出した
りする。 ★ **まとめる方法**

○ グループの中で求める方法を交流する。

- 実験を行ったグループで、自分の求め方
を説明し合う。

【研究との関わり】

考えを広げ深める対話の工夫

表の結果を2次関数と見なしたときに、
 $y=1$ のとき $x=2$ だから、 $y=1/4x^2$ とい
う式で表されると考えられます。



式で考えた
のか。

$x=9$ と与えられているので、
代入すると答えは20.25にな
りました。

対話の視点 「推論する」

振り子の実験で得られた数値から、根拠に基
づいて結果を予想する。

○ 本時について振り返る。

- 問題解決の過程を振り返って感じたこと
を振り返る。

【研究との関わり】

学びをつなげる振り返り

○ お互いの振り返りを共有する。

- ロイロノートの共有機能を使い、数名の
子どもの振り返りを共有する。

振り返りの視点

④ 友達の振り返りを読んで気付いたことや
考えたことを生かす。

こういう考え方もあるんだな。
次はこの人の解き方でやっ
てみようかな。

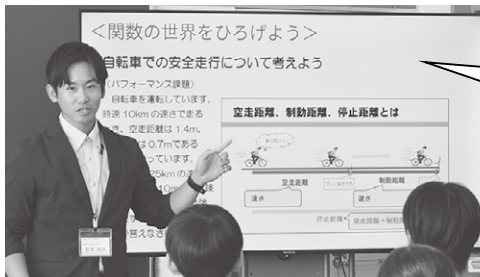


振り返る

7 細案 授業実践②（13/15時）	
本時の目標	評価規準
関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し、問題を解決する過程を表現する。	【思・判・表】 ・関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、問題を解決している。（ワークシート） 【態度】 ・関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。（振り返り）
具体的な子どもの姿 ◆学習課題 ○主な学習活動 ★ 自己決定の場	教師の手立て 対話の視点 振り返りの視点

見通す

○ これまでの学習を振り返る。

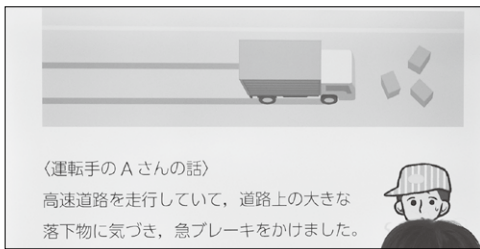


1・2年生で学習した関数では捉えられない $y=ax^2$ という新しい関数について調べて、問題の解決に利用してきたね。

・単元全体を通して、どのような力が身に付いたのかを共有する。

○ 本時の学習を見通す。

・問題を提示し、本時の課題につなげる。



・自転車などで急ブレーキを掛けたときのブレーキ痕や、廊下やグラウンドに残る靴の滑り痕などを想起させ、身近な問題であることを実感できるようにする。

◆ **自動車の走行時の速さを、速さとブレーキ痕の長さの関係を基にして予想しよう。**

探究する

○ 変化の様子や対応の様子を調べる。

・速さとブレーキ痕の長さの表を示し、表から分かることを共有する。

走行時の速さとブレーキ痕の長さの関係は、下の表のようになっています。..

x (km/h)	0	10	20	30	40	50	...
y (m)	0	0.5	2.0	4.4	7.2	12.3	...

x^2 (0 to 10), x^2 (10 to 20), x^2 (20 to 30)
 x^2 (30 to 40), x^2 (40 to 50)

問題解決の方法
 道路には 25m のブレーキ痕が残っていました。実際どれくらいの速さで走行していたのでしょうか？

x の値を2倍したとき、 y の値が x の4倍になっているので、少し誤差はあるけど2次関数なんじゃないかなと考えました。

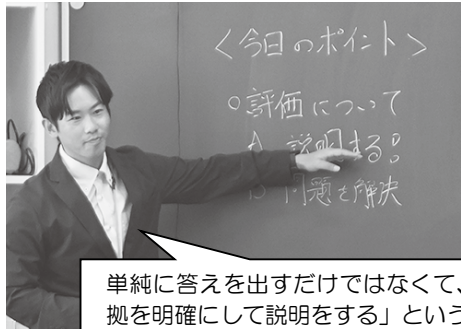


探究する

○ 問題を解決する。

- 走行時の速さを推測し、その方法を説明する。

【研究との関わり】
考えを広げ深める対話の工夫



単純に答えを出すだけではなくて、「根拠を明確にして説明をする」というのがA評価だよ。

対話の視点「評価する」
パフォーマンス評価の観点に基づいて他者への意見をもつ。

- パフォーマンス課題に直結する問題であることを確認し、ゴールとのつながりを意識付ける。



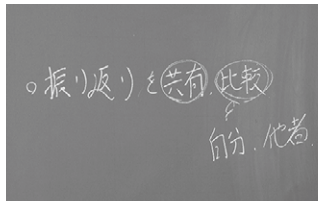
1つだけじゃなくて、他の値でも確かめたいくなる。

- メンバーを入れ替えて、自分のグループの考えを説明したり、ほかのグループの考えを聞いたりする。

比例定数の a を詳しく求めるために $y=ax^2$ に代入してみようと考えて、まず $y=0.5$ の場合を計算しました。

○ これまでの振り返りから、自分の学びを振り返る。

- ロイロノートで共有する。



今までの「自分の振り返り」と「ほかの人の振り返り」を読み直してみよう。

【研究との関わり】
学びをつなげる振り返り

振り返りの視点
⑤ これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。
⑥ これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す。

- 2つの視点からどちらかを選んで、振り返りを入力する。 ★ **振り返りの視点**
- 数名の子どもの振り返りを全体で共有し、内容を意味付けたり価値付けたりする。

振り返る

自分の苦手なところを、〇〇さんは〜という風に考えていたので、次の単元で使ってみたいと思いました。



△△さんの振り返りの仕方に共感したし、ほかの単元でも大事だと思うので、私も生かしたいです。

3 研究内容の検証

(1) 子どもの見取り・聞き取り

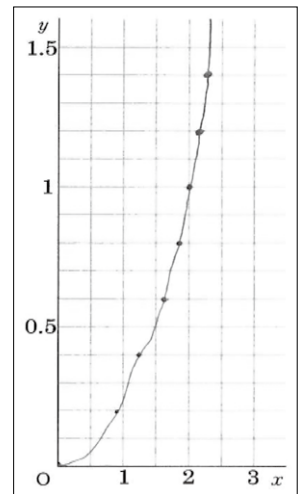
① 子どもの対話記録

○ 授業実践1 対話の視点「推論する」

本時では、関数を使って世界一大きなブランコひもの長さの長さという課題を共有し、解決の根拠となる数値を得るために振り子の実験を行った。実験結果から、どの値を x 、 y としてどの関数に当てはめるのか、各自が表・式・グラフから選択して考え、対話を通して交流した。



Aさん：（右のようにグラフを描きながら）
「こんな感じじゃない？」
Bさん：「たぶん放物線」
Aさん：「どの関数に当てはまるかでしょ？」
Cさん：「放物線だから…」
Aさん：「2次関数だよね」



○ 授業実践2 対話の視点「評価する」

本時では、関数を使ってプレーキ痕から走行速度を求めるという課題を解決するだけでなく、実践1で課題となっていた「根拠を示しながら説明できるか」という評価の視点を基に、ワールドカフェ方式で対話を行った。

Dさん：「表（右図）を見たときに、 x は10ずつ増えていて、 y の0.5から2.0、2.0から4.4でも増えているので、グラフの形は曲線になるから、自分の班は2次関数かなと思いました」

Eさん：「まず、10と0.5のところを見ると、この表は $y = 1/200 x^2$ の式を表していると考えられる。（中略） $x = 50\sqrt{2}$ になり、 $\sqrt{2}$ の近似値から 50×1.41 で表されるので、70.5になる。だから走行時の速さは、およそ70.5km/hと求められます」

Fさん：「近似値から求めるのか」

Eさん：「 $\sqrt{2}$ の近似値って、1.41だから。50 $\sqrt{2}$ だと具体的な数値が想像しづらいので。こっち（1.41）の方が、『大体このくらいの値』と考えやすいなと」

Dさん：「なるほど」

※ DさんとEさんは、根拠を明確にして説明することができていた。Fさんは、個人思考では問題解決までできていなかったが、説明を聞くことで問題解決に向かっていた。

走行時の速さとプレーキ痕の長さの関係は、下の表のようになっています。

x (km/h)	0	10	20	30	40	50	...	
y (m)	0	0.5	2.0	4.4	7.2	12.3	...	

Handwritten annotations above the table show x^2 above 10, 20, 30, 40 and x^2 above 0.5, 2.0, 4.4, 7.2, 12.3. Below the table, arrows indicate $\times 4$ between 0.5 and 2.0, $\times 9$ between 2.0 and 4.4, and $\times 4$ between 4.4 and 7.2.

問題解決の方法

道路には25mのプレーキ痕が残っていました。
実際どれくらいの速さで走行していたのでしょうか？

授業実践1では、課題解決の方法を表・式・グラフの中から自己決定することで個人思考を深め、その後の対話で自分の考えを確かめたり、更に広げたりしていた。しかし、説明をする上で根拠や推論が弱いという課題もあった。授業実践2では、根拠を明確にしてほかのグループに説明をしたり、説明を聞いたりする対話を行った。自分に足りないことや新たな視点・気づきをメモする姿が見られ、考えを広げ深めることにつながっていた。

② 子どもへのインタビュー

○ 授業実践1より

Q：問題解決の方法を表・式・グラフから自分で考えて選んだことには、どんなよさがありましたか。

方法を1つだけ先生から指定されると、そのやり方が分からない人はついていけないけど、自分で選んだやり方だと、やりやすい方法から迫っていけるのがよいと思いました。

方法を選ぶために、どの解き方がよいのか自分で比較して考えるし、いろいろな解き方の戦略をお互いに交流できたのがよかった。



○ 授業実践2より

Q：友達と振り返りを交流して、参考になったことや考えが広がったり深まったりしたことはありましたか。



ほかの人の振り返りを読むと、共感したり新たに気付いたりする。

ほかの単元とのつながりや、もっと知りたいことを書くのが得意な人の振り返りを読むと、気になることが出てきて、次につながると思う。

価値観がみんな違うので、疑問に思うところもバラバラだから、自分1人の振り返りだと一定の範囲でしか広げられないけど、いろいろな人の価値観の疑問を見たら、たくさん気付いて、それも知りたいと思う。

Q：振り返りを積み重ねることには、どんなよさがあると思いますか。

文で書くから自分の分かったことやできるようになったことが明確になった。文章の構成力や、ほかの人に説明する力も付いた。

単元の始めの方で自分が疑問に思っていたところが、知識が増えた今では分かるようになったことが実感できる。振り返りを見返して、自分の苦手なところや復習しておきたいところを確認して、テスト前などに生かせるのはよいと思う。



どの時期に自分の中で解き方が定着して、分からなかったところが分かるようになったのか、振り返りを読むとはっきりする。振り返りを入力することで、自分の学んだ内容を頭の中で整理することができるし、次の時間まで頭に残りやすくなる。

授業実践1では、問題解決の方法を自己決定することで主体性や意欲が増し、対話による交流で学びが活性化したと考えられる。実践2では、振り返りの蓄積と共有を通して、自己の変容や成長を実感し、他者のアイデアを取り入れて学びを自己調整しようとする様子が見られた。

(2) 子どもの記述内容

① ワークシート

授業では次頁のようなワークシートを使用し、子どもたちが問題解決の方法を自己決定しながら自分の思考の過程や根拠を可視化できるようにした。

問題解決の方法

世界一のブランコのひもの長さは何mでしょうか

	x (m)								
	y (m)								

表・式・グラフのうち、必要のものを使う。

私は、式 を使って求めます。

【グラフ作成】

$$y = ax^2$$

$$0.2 = 0.81a \quad 0.6 = 2.56a$$

$$2.0 = 81a \quad 6.0 = 256a$$

$$\frac{2.0}{81} = a \quad \frac{6.0}{256} = a$$

$$1 = 4a \quad 1.4 = 5.76a$$

$$\frac{1}{4} = a \quad \frac{1.4}{5.76} = a$$

$$\frac{1}{4} = a$$

$$\frac{35}{144} = a$$

$\rightarrow a \div \frac{1}{4}$

$$y = \frac{1}{4}x^2$$

$$y = \frac{1}{4} \times 9 \times 9$$

$$y = \frac{81}{4}$$

$$y = 20.25$$

結論 世界一の大ブランコのひもの長さは、およそ 20.25 m

◆自動車の走行時の速さを、速さとブレーキ痕の長さの関係を基に求めよう。

走行時の速さとブレーキ痕の長さの関係は、下の表のようになっています。

x (km/h)	0	10	20	30	40	50
y (m)	0	0.5	2.0	4.4	7.2	12.3

$\begin{matrix} \times 2 & \times 2 & \times 2 \\ \times 4 & \times 9 & \times 16 \end{matrix}$

問題解決の方法

道路には25mのブレーキ痕が残っていました。実際どれくらいの速さで走行していたのでしょうか？

<説明>

東から x と y は $y = ax^2$ の関係がある。

$x = 20$ のとき $y = 2.0$ のとき

a を出す

$$2 = a \times 20^2$$

$$2 = a \times 400$$

$$2 = 400a$$

$$400a = 2$$

$$a = \frac{2}{400}$$

$$a = \frac{1}{200}$$

ブレーキ痕の長さ $y = 25$

$$25 = \frac{1}{200} x^2$$

$$\frac{1}{200} x^2 = 25 \times 200$$

$$x^2 = 5000$$

$$x = \sqrt{5000}$$

結論 ブレーキ痕が25mのときの走行時の速さはおよそ 71 (km/h)

ワークシートで自分の考えを整理し、対話を通してその内容を修正する様子が見られた。根拠となる説明を組み立て、友達の説明を聞くことを通して、自分の考えを確かめたり、新たな解法に気付いたりすることができ、学びを深めることにつながっていた。

② 振り返り記述

普段からロイロノートを活用して継続的に振り返りを行っており、子どもたちは振り返りの視点に沿って短時間で集中して記述していた。

○ 授業実践1の振り返り記述内容

- ・振り子の比例定数は4分の1であることが分かった。
- ・実験を基に関数について考えることができた。
- ・1つの数字で確かめるのではなく、たくさんの数で確かめることが大事だとわかった。
- ・ブランコの長さの求め方を周りと一緒に相談して求めることができた。
- ・友達と話し合うことで分からない問題などもしっかり理解できた。

○ 授業実践2の振り返り記述内容

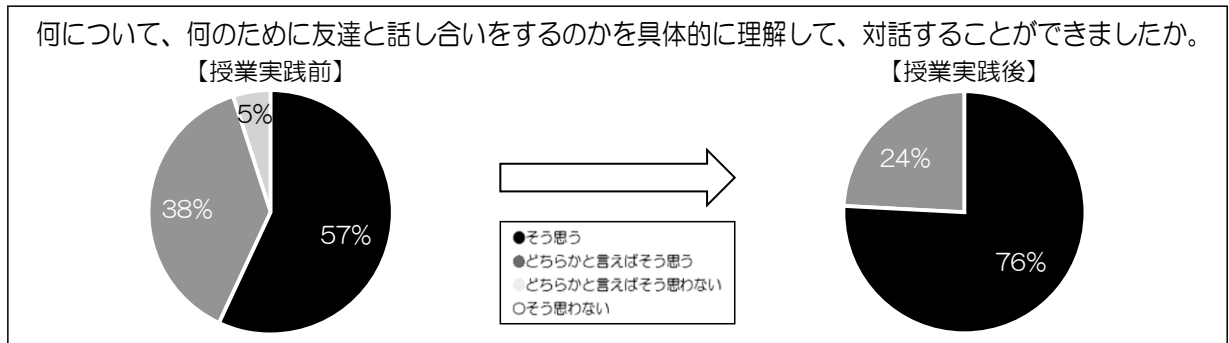
- ・解き方を覚えて、いろいろな問題に応用するのが楽しいと思えるようになった。
- ・最初の頃よりも $y = ax^2$ の形の式について知識が増えたとし、それだけでなくたくさんの実験をしてデータから求めたい値を導き出すことができるようになった。
- ・前と比べて、他の人の意見も取り入れながら振り返りを書けたからよかったと思う。
- ・振り返りの内容が薄くなってしまっているので、もっと具体的に書けるようになりたいと思った。
- ・前回の振り返りで、分かっているところ・まだ分からないなというところが自分ですぐに分かるから、振り返りが役に立っていると思った。
- ・「しっかりできた」などではなく、「～ができたから…が深められた」と細かく振り返りを書けるようになって、成長したと思った。

振り返りの視点を明確にすることによって、子どもたちの思考が整理できるようになった。授業実践1では、本時における学びを自覚していることが分かる。また、他者との対話によって問題解決に向かうことができた様子もうかがえた。

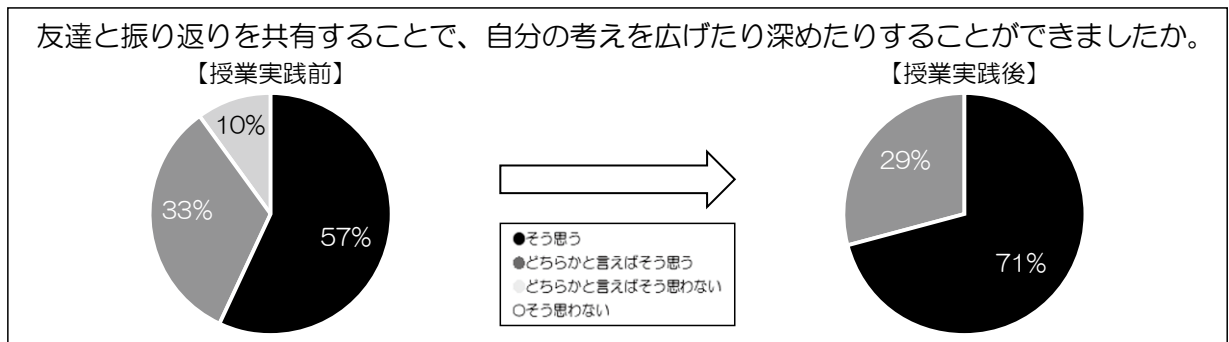
授業実践2では、これまでに蓄積した振り返りを振り返ることで、単元の学習内容や、自分についた力が明確になっていた。さらに、振り返りの質が向上しているという記述や、さらに向上させたいという記述が見られ、振り返りの積み重ねが次の学びへの意欲につながっていた。

(3) 子どもへのアンケート調査

① 対話に関するアンケート結果



② 振り返りに関するアンケート結果



課題や目的意識を共有した上で対話に取り組む子どもが増えたことで、学びに対する主体性が高まり、様々な考え方を取り入れて課題の解決に向かう姿につながったのではないかと考察できる。振り返りについても、継続的に積み重ねて共有・比較することで新たな気づきや自己変容を自覚することができ、学びの深まりを実感する子どもが大幅に増えたと考えられる。

③ 単元全体を振り返っての感想

- 友達と対話して、自分では思いつかなかったことやわからなかったことを聞くことができてよかった。
- 友達になんでそうなるのかなど自分が理解できるまで教えてもらって理解を深めた。
- みんなの振り返りを見て新しい考えが生まれたり発見したりできたので、とても参考になった。
- 友達と交流することで新しい考えを発見でき、より多くの方法で問題を解くことができるようになると思った。クラスメイトの自由な発想を知り、試してみたいくなるのがよいと思う。

対話を通してさらに考えが広がったり、課題解決に結びついたりしたことがうかがえる。また、振り返りの比較・共有を通して学んだことや気付いたことから、新たな課題意識や意欲が生まれており、次の学びにつながっていると考えられる。

V 参考資料

共同研究員による単元計画例

単元計画例は十勝教育研究所のホームページからダウンロードすることができます。(https://tokachi-edlab.jp)



研究所名	共同研究員	学年	教科	単元名	ページ
士幌町教育研究所	土屋 英之	3年	算数科	円と球	P32
上士幌町教育研究所	杉浦 亜弓	6年	家庭科	生活を豊かにソーイング	P33
鹿追町立教育研究所	中山 竜太	2年	生活科	めざせ生きものはかせ	P33
中札内村教育研究所	土橋 真理	3年	算数科	大きい数のしくみ	P34
更別村教育研究所	原田 憲未	1年	国語科	けんかした山	P35
池田町教育研究所	名越 正道	5年	社会科	水産業のさかんな地域	P35
本別町総合教育研究所	幾島 佑真	5年	国語科	ミニディベートA1とのくらし	P36
陸別町教育研究所	高松ななみ	2年	算数科	長方形と正方形	P36
新得町教育研究所	柴山 貴大	1年	音楽科	器楽「アルトリコーダー」	P37
清水町教育研究所	高原 悠輔	2年	理科	地球の大気と天気の変化 2章 大気中の水の変化	P37
広尾町教育研究所	山下 喜久	1年	音楽科	シューベルト「魔王」	P38
豊頃町教育研究所	添田佑生子	2年	外国語科	Lesson 6 Castles and Canyons	P38
浦幌町教育研究所	田口 宏子	1年	数学科	方程式	P39

教科名	小学校 算数科	学年	第3学年
単元名	円と球	児童数	3名
		授業者	土屋 英之
1 単元の目標			
円や球の概念について理解し、コンパスを用いた作図や長さを測り取ったり写したりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して構成の仕方や身の回りのものを円や球として考えられる力を養い、図形を描いたり確かめたりする活動を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 円の中心や半径、直径について、及び、円に関連して球の直径などを理解し、それらを活用してコンパスで絵を描いたり、等しい長さを測り取ったり写したりすることができる。	① 円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方や身の回りのものに図形の性質がどのように活用されているかについて考え、説明している。	① 円や既習の図形の作図を基に模様を描くなどの活動を通して、身の回りから円や球を見つけたり、図形の持つ美しさに関心を持ったりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもたちの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 自分の考えや意見を、ノート、プリント、タブレット端末等、手段を選択し他者に説明できるようにする。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 ・1 単位時間の中で、問いについて考える場面を設定し、話し合いの機会を取り入れる。 ・他者の考えをプリントやICTを用いて常に見るようにしておき、他者の考えを参考にしたり、自分の考えとの相違点を見付けたりすることができるようにする。			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 ・話し合った考えを還元し、改めて自分の考えを整理する場面を設定する。 ・整理した考えを基に、新たな問題に取り組み、学習内容の定着を図る。			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気付きや課題を、次の学びにつなげようとする姿 ・振り返りの視点を全体で共有し、学習を振り返る。 ・振り返りをワークシートに記入し、次回の学習の際に見返すことで、次の学習とのつながりに気付くことができるようにする。			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ② (学びの見直し) 今後の学習で取り組みたいこと。 ③ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達の振り返りを読んで気づいたことや考えたことを生かす。 ④ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。			

5 単元の指導と評価の計画 (全8時間)					
時間	◆学習課題	○主な学習活動	★対話の視点・自己決定の場	単元の観点	【評価規準】 評価方法等
1	◆玉入れゲームで、どう並ぶと公平になるか考えよう。 ○ 玉入れゲームを行う。 ○ かごから距離が等しくなる並び方を考える。 ★多面的・多角的に見る・交流の手段			② ④	【思・判・表】① 【態度】① ワークシート・発言
2	◆玉入れゲームで、並ぶ白線をどう引いたらよいか考えよう。 ○ 中心から等しい長さの点を描いていくと円になることを捉える。 ○ 簡易コンパスを使って円を描く。 ○ 円の定義や、「中心」「半径」という語句の意味を知る。 ○ 身の周りの円の形をしたものを探す。			①	【知・技】① ノート・ワークシート 【思・判・表】① 発言
3	◆円の中心、半径について調べよう。 ○ 円の中心の見つけ方を考える。 ○ 「直径」という語句の意味を知る。 ○ 「直径」と「中心」「半径」との関係を考える。 ★多面的・多角的に見る・交流の手段			① ④	【知・技】① ノート・ワークシート 【思・判・表】① 発言
4	◆コンパスを使ってみよう。 ○ コンパスを使って円を描く。 ○ コンパスを使って指定された半径の円を描く。 ○ コンパスを使って円を描いて模様を作る。 ★応用する・交流の手段・タイミンク			① ②	【知・技】① ノート・ワークシート
5	◆どちらが近い(短い)比べる方法を考えよう。 ○ 直線と折れ線の長さの比較の方法を考える。 ○ コンパスを用いて、長さの比較を行う。			① ④	【知・技】① ノート・ワークシート 【思・判・表】① 発言
6	◆ボールのような丸い形について調べよう。 ○ いろいろな実物体を真上・真横から観察する。 ○ 球の定義や、「中心」「半径」「直径」などの語句の意味を知る。 ★分類する・方法・手段			①	【知・技】① ノート・ワークシート
7	◆学んだことを生かしてみよう。 ○ 学んだことを日常生活に生かす。 (地図上の点を見つめる、距離を測り取る、距離を比べる等) ★応用する・交流の手段・タイミンク			① ④	【知・技】① ノート・ワークシート 【思・判・表】① 発言
8	◆問題にチャレンジしよう。 ○ 練習問題に取り組み、学習内容の定着を図る。			① ⑤	【知・技】① 【態度】① ノート

教科名	小学校 家庭科	学 年	第 6 学年
題材名	生活を豊かにソーイング	児童数	26 名
		授業者	杉浦 亜弓
1 題材の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 袋の製作に必要な材料や用具、製作手順、袋のゆとりや必要性について理解し、ミシンやアイロンなどを安全に使い、目的に応じた縫い方で袋を製作することができる。 袋の製作計画について考え、デザインや製作手順を工夫して製作している。 布を用いた袋の作成に必要な材料や手順について関心をもち、意欲的に取り組み、これからの生活に生かそうとしている。 			
2 題材の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ②手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱について理解しているとともに、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えるために、ワークシートやタブレット端末などの方法を提示し、自分が表現しやすい手段を選択できるようにする。 子どもたちの疑問を生かしながら、問題解決の見通しをもつことができるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 対話の視点を明確に提示する。 なるべくたくさんの方と対話をし、自分なりの考えをもつことができるようにする。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを活用し、対話における思考の過程を可視化する。 友達と交流したことを基に、付け足したり、改めたりするなど、自分の考えを整理する時間を確保する。 			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの視点を提示し、学びを振り返る。 振り返り用紙を一覧表にし、今までの学習の足跡を活用しながら振り返りができるようにする。 			
4 題材で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> ①（学びの自覚）分かったことやできるようになったこと。 ②（学びの見直し）今後の学習で取り組みたいこと。 ③（新たな学びの創造）疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと。 ④（他者の振り返りを自分の学びに生かす）友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ⑤（自己の成長の自覚）これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。 			

5 題材の指導と評価の計画（全 13 時間）			
時間	◆学習課題 ○主な学習活動 ★対話の視点・自己決定の場	初回の視点	【評価規準】 評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆生活を便利にする袋を考えよう。 ○ 生活の中での袋の活用について考える。 ○ 誰か・いつ・何のために・どう使う袋を作るのか考えて、長く使えるためにはどのような工夫ができるか話し合う。 ★多面的、多角的に見る・自分の考えを広げる手段 	① ②	【思・判・表】① 【態度】① ワークシート・発言
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆どのくらいの大きさにしたらよいだろう。 ○ 新聞紙を使って、ゆとりやマチを調節して袋に入れるものを包んだり、出し入れしたりする活動を通して、袋の大きさを決める。 	①	【思・判・表】① ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆どのような順番で作ったらよいだろう。 ○ 「脇」「出し入れ口」「持ち手」の縫う順番を、ホチキスで試作布を留めながら考える。 ★順序だてる・修正する手段 	① ③ ④	【知・技】① ワークシート・発言
4	<ul style="list-style-type: none"> ◆製作計画を立てよう。 ○ 今までの学習を基に、製作計画を立てる。 ○ 製作計画を班でアドバイスをし合う。 ★見通す・製作を見通すための手段 	① ④	【知・技】① 【思・判・表】① ワークシート・発言
5	<ul style="list-style-type: none"> ◆型紙を作ろう。 ○ 製作計画を基に、型紙を作成する。 	① ④	【知・技】① 型紙
6	<ul style="list-style-type: none"> ◆布を裁ち、印を付けよう。 ○ 縫い代の部分に注意し、印を付ける。 ○ 無駄のない裁断をする。 	① ③ ④	【知・技】①② 布・観察
8	<ul style="list-style-type: none"> ◆脇をまっすぐに縫おう。 ○ ポケットを付けたり、刺しゅうをしたりする。 ○ 袋の脇を縫う。 	① ③ ④	【知・技】①② 製作物・観察
10	<ul style="list-style-type: none"> ◆出し入れ口を縫おう。 ○ 出し入れ口を三つ折りにし、アイロンを掛けて端を縫う。 	① ③ ④	【知・技】①② 製作物・観察
12	<ul style="list-style-type: none"> ◆持ち手を付けて仕上げをしよう。 ○ 持ち手の付け位置を測り、左右均等な位置で縫い付ける。巾着タイプは紐を通す。 	① ③ ④	【知・技】①② 製作物・観察
13	<ul style="list-style-type: none"> ◆袋の作り方についてまとめよう。 ○ 袋を実際を使用して評価を行い、よくできたところや改善策をワークシートに書く。 ○ 班で発表会をして、相互評価を行い、改善策やみんなに紹介したい工夫、新たな課題について検討し、まとめる。 ○ これまでの学習を通して成長したことを振り返る。 ★多面的、多角的に見る・自分の考えを広げる手段 	⑤	【思・判・表】① 【態度】① ワークシート

教科名	小学校 生活科	学 年	第 2 学年
単元名	めざせ生きものはかせ	児童数	36 名
		授業者	中山 竜太
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 生き物を飼育する活動を通して、生き物たちが住んでいた場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、適切な世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付く、生き物への楽しみをもち、大切にすることができるようにする。 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ①生き物を飼育する活動を通して、適切な世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ②生き物を飼育する活動を通して、生き物たちが住んでいた場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ③生き物を飼育する活動を通して、生き物への楽しみをもち、大切にしようとしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 自らの課題を解決するためにタブレット端末を用いたり、図鑑で調べたりすることで根拠をもって課題解決に取り組めるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を解決するために、生き物に詳しい人を探したり友達と対話したりすることで、効果的な情報収集を行うことができるようにする。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報から、自分の課題に合ったものをまとめてポスターにすることで、より一層自分事として捉えられるようにする。 			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、今日の自分の課題設定をし、授業の最後には分かったことを全体で共有することで、次時の自分の課題を明確にしていける。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> ①（学びの自覚）分かったことやできるようになったこと。 ②（学びの見直し）今後の学習で取り組みたいこと。 ③（新たな学びの創造）疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと。 ④（他者の振り返りを自分の学びに生かす）友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 			

5 単元の指導と評価の計画（全 8 時間）			
時間	◆学習課題 ○主な学習活動 ★対話の視点・自己決定の場	初回の視点	【評価規準】 評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆クラスで育てる生き物を考えよう。 ○ クラスの中で生き物係を新設する。 ○ 自分が育ててみたい生き物を決める。 ○ 育てるために何が分かっているかを考え、課題設定を行う。 ★多面的・多角的に見る・対話の相手 	③	【思・判・表】① ワークシート・発言
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題解決のために情報を集めよう。 ○ 今日の自分の課題を決める。 ○ タブレット端末・本・聞き取りの中から自分で情報収集の方法を決め、課題解決のための情報を集める。 ○ 今日の自分の課題のまとめを全体で共有する。 ★理由付ける・課題解決の手段 	③ ④	【知・技】① ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> ◆新しい課題を決め、解決のために情報を集めよう。 ○ 前時に調べたことから、新たに出てきた疑問を、今日の自分の課題として設定する。 ○ タブレット・本・聞く、の中から自分で情報収集の方法を決め、課題解決のための情報を集める。 ○ 今日の自分の課題のまとめを全体で共有する。 ★理由付ける・課題解決の手段 	③ ④	【知・技】① ワークシート
5	<ul style="list-style-type: none"> ◆調べたことをポスターにしてみよう。 ○ 自分で設定した課題から調べたことをまとめてポスターにしている。 ○ ポスターを見ただけで、その生き物を育てることができるような内容にする。 	①	【思・判・表】① ポスター
7	<ul style="list-style-type: none"> ◆ポスターを発表しよう。 ○ ポスターを見せながら、自分が調べたい生き物について発表する。 ○ 友達の発表に対して質問する。 ★焦点化する・対話の相手 	③	【思・判・表】① 【態度】① 観察
8	<ul style="list-style-type: none"> ◆みんなの発表を振り返ろう。 ○ 前時で発表した友達のポスターの感想を伝え合う。 ○ グループでよい点と改善点について振り返る。 ○ 振り返りを全体で交流する。 ★評価する・対話の相手 	④	【思・判・表】① ワークシート・発言

V 参考資料

教科名	小学校 算数科	学 年	第3学年
単元名	大きい数のしくみ	児童数	26名
		授業者	土橋 真理
1 単元の目標			
万の単位や1億までの整数について知り、十進位取り記数法や4桁区切りによる命数法(万進法)を基に、大きな数の読み方や計算の仕方考えをともに、整数の表し方について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
●万の単位や1億までの整数を知り、十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、10倍、100倍、1000倍した数、10で割った数、数や式の相等、大小関係を等号や不等号を用いて表す方法を理解している。	●数の構成や仕組みに着目し、万の単位を用いた数の仕組みについて類推して考え、大きな数の大小の比べ方や表し方を統合的に捉え、説明している。	●1億までの数のしくみや表し方について、統合的に捉えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気付く今後の生活や学習に活用しようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもへの育成に向けた手立て			
(1) 考えの模範をもち、多様な表現で伝えようとする姿 ・課題に対して、十分にに取り組める時間を確保し、個人で考えたことを他者と交流し、解決へ向かおうとする。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 ・共通点や相違点を見つけるなど、視点をもって対話をさせる。			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 ・自分で決める活動や決め直す活動を取り入れ、自分の考えを更新していく場面を取り入れる。			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿 ・振り返りの視点を提示し、学びを振り返る。 ・振り返りを共有する。			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ② (学びの見通し) 今後の学習で取り組みたいこと。 ③ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達や書いた振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ④ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。			

5 単元の指導と評価の計画(全10時間)			
時間	◆学習課題 ○主な学習活動 ★対話の視点・自己決定の場	振り返りの視点	【評価規準】 評価方法等
1	◆1000枚の束24個で何という? ○ 361、7598を位ごとに何が何個ある数なのか確認する。 ○ 入場券の絵を見せて、1000の束に注目させ、どのように表すか考える。 「1000の束が24個あるよ」 「1000の束が10個で一万だったね」 「一万が2個あるから二万になるね」 「千が4つで四万だから…」 ★関連付ける・対話する相手 ○ 位取り表で確認する	① ②	【知・技】① 【態度】① ノート・発言
2・3	◆人口を読んだり書いたりしよう。 ○ 一万より大きい数を表すことに気付く。 ○ 一万が10個で十万であることを知る。 ○ 佐賀県の人口812,193人の読み方を考える。 「八十一万二千九百九十三と読むね」 「じゃあ他の人口はどう読むかな」 ○ 宮城県、東京都の人口を読む。 「それぞれ位の数が何個あるかに注目して読んだり書いたりしよう」 ★応用する	① ②	【知・技】① 【思・判・表】① 観察・ノート
4	◆1000を基にして考えよう。 ○ 1000が23個でいくつ? 「千が10個で一万だったよね」 「23を20と3で分けて考えてみよう」 「千が20個で二万、千が3個で三万だから…」 「位取り表で書いてみると…」 ★変換する・対話する相手 ○ 34000は千がいくつ? 「位取り表を使って、4000は1000が4個」 「10000は1000が10個だから、40000は…」	①	【思・判・表】① 観察・ノート
5	◆大きい数を数直線を使って調べよう。 ○ 数直線を知る。 ○ 1目盛はいくつを示しているか確認する。 「0と10000の目盛は10等分されているから1目盛は1000」 ○ 目盛が表している数を書く。 「0から5つ進んでいるから…」 「20000より1目盛大きいから…」 ★関連付ける・対話する相手、説明する手段 ○ 29000と87000を数直線で表す。 「29000は30000より1000小さいよね」 「85000より2目盛大きいのが87000だね」	① ②	【知・技】① 【思・判・表】① 観察・ノート
6	◆不等号で表そう。 ○ 不等号の意味を確認する。 ○ 5000=3000+2000を考える。 「3000は千が3個だから3」 「千を基にして考えると3+2で5」 「千が5個で五千。だから等号だね」 ★多面的に見る	① ②	【知・技】① ノート・発言
7	◆数をいろいろな言い方で説明しよう。 ○ 16000などんな数が説明してみよう。 「10000と6000を合わせた数」 「20000よりいくつ小さい数かな」 「1000をいくつ集めた数かな」 ○ 式で表してみよう。 「合わせるは足し算だから…」 「いくつ小さいは引き算かな…」 ★関係付ける・対話する相手、説明する手段	① ②	【思・判・表】① 観察・ノート
8	◆10倍したり、10で割ったりすると…? ○ 25を10倍すると? ・お金を使って考える。 「25円が10個分で…」 ・分けて考える 「25は20と5を合わせた数。それぞれ10倍すると…」 ○ 250を10で割った数は? ・10倍の反対であることに気付く。 ○ 位取り表で10倍すると位が1つ上がる、10で割ると位が1つ下がることに気付く。 ★関係付ける	① ②	【知・技】① 観察・ノート
9	◆10倍した数をさらに10倍すると…? ○ 25の10倍を復習する。 ○ 250を10倍すると? 「10倍は1つ位上がるんだよね」 ○ 10倍の10倍は100倍であることを押さえる。 「100倍するということは位が2個上がるということだね」 ○ 10倍の10倍の10倍は? 「位が3つ上がるということだね」 「100の次だから1000かな」 ★応用する・対話する相手	①	【思・判・表】① 観察・ノート 【態度】① ノート・発言
10	◆いろいろな問題に取り組もう。 ○ 練習問題に取り組み、学習内容の定着を図る。 ★応用する	④ ⑤	【知・技】① ノート 【思・判・表】① 観察・ノート

教科名	小学校 国語科	学 年	第1学年
単元名	けんかした山	児童数	7名
		授業者	原田 憲未
1 単元の目標			
<p>・配当されている漢字を読むことができる。 [知識及び技能] (1)工</p> <p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 [知識及び技能] (1)ク</p> <p>・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1)イ</p> <p>・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1)イ</p> <p>・進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら、今までの学習に生かして音読しようとする。 [思考力、判断力、表現力等] (1)工</p>			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
①配当されている漢字を読むことができる。(1)工	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(1)イ	①進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら、学習課題に沿って山の怒りの気持ちの強さを読み取ろうとしている。	
②語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク	②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(1)イ		
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・本文や挿絵から登場人物の様子を読み取り、気持ちを想像するように声を掛ける。 ・吹き出しに記述する、登場人物になりきって演技するなど、様々な表現を体験させる。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・対話の視点を明確にして、その視点に沿った対話を行うように伝える。 ・発表者の意見だけでなく、発表の仕方よさを採る観点でも対話を行わせる。 ・ギャラリワークを行い、他者の考えを生かす機会を作る。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの変化の有無を記録する。 ・自分の考えを見直す時間を確保する。 			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を提示し、学びを振り返る。 ・振り返りの例示を行ったり、うまく振り返りができている子どもの記述を共有したりすることで、全員が振り返りの仕方を身に付けられるようにする。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ol style="list-style-type: none"> ① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ② (学びの見通し) 今後の学習で取り組みたいこと。 ③ (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もっとやってみよう。 ④ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ⑤ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから、自分の変化や成長を自覚する。 			

5 単元の指導と評価の計画 (全7時間)			
時間	◆学習課題 ○主な学習活動 ★対話の視点・自己決定の場	彫削の視点	【評価規準】 評価方法等
1	◆学習計画を立てよう。 ○ 物語を読んで物語の設定とあらすじを確認する。 ○ 自分のお気に入りの場面を発表する。 ○ 学習計画を立てる。 ★分類する・対話の相手	① ② ④	【知・技】② ワークシート 発言
2	◆(登場人物)の様子を考えて音読しよう。 ○ (一)の場面の挿絵と文章から(登場人物)の様子を読み取る。 ○ 山の「いかりチャート」に怒りの度合いを表す。 ○ 様子が伝わるような登場人物の気持ちを吹き出しに記述する。 ○ 記述した内容を交流し、音読の練習をする。 ★多角的、多面的に見る・対話の相手	① ② ④	【思・判・表】①② 【態度】① ワークシート 発言
3	◆(登場人物)の様子を考えて音読しよう。 ○ (二)の場面の挿絵と文章から(登場人物)の様子を読み取る。 ○ 山の「いかりチャート」に怒りの度合いを表す。 ○ 様子が伝わるような登場人物の気持ちを吹き出しに記述する。 ○ 記述した内容を交流し、音読の練習をする。 ★多角的、多面的に見る・対話の相手	① ②	【思・判・表】①② 【態度】① ワークシート 発言
4	◆(登場人物)の様子を考えて音読しよう。 ○ (三)の場面の挿絵と文章から(登場人物)の様子を読み取る。 ○ 山の「いかりチャート」に怒りの度合いを表す。 ○ 様子が伝わるような登場人物の気持ちを吹き出しに記述する。 ○ 記述した内容を交流し、音読の練習をする。 ★多角的、多面的に見る・対話の相手	① ②	【思・判・表】①② 【態度】① ワークシート 発言
5	◆(登場人物)の様子を考えて音読しよう。 ○ (四)の場面の挿絵と文章から(登場人物)の様子を読み取る。 ○ 山の「いかりチャート」に怒りの度合いを表す。 ○ 様子が伝わるような登場人物の気持ちを吹き出しに記述する。 ○ 記述した内容を交流し、音読の練習をする。 ★多角的、多面的に見る・対話の相手	① ②	【思・判・表】①② 【態度】① ワークシート 発言
6	◆山の怒った気持ちの変わり方を説明しよう。 ○ 今までに書いた「いかりチャート」を見て、場面と怒りの強さをまとめる。 ○ 怒りの強さに関連する言葉を本文から採り出す。 ○ 記述した内容を交流し、自分の意見と比べる。 ★広げている・考えを広げたり、修正したりする手段	① ④	【思・判・表】① ワークシート 発言
7	◆お気に入りの場面を絵と言葉で紹介しよう。 ○ 学習を終えた自分のお気に入りの場面を選び、1時間目に選んだ場面と理由を比べる。 ○ 画用紙にお気に入りの場面の絵を描き、発表する。 ★広げている・考えを広げる手段	① ② ③ ④ ⑤	【知・技】② ワークシート 発言

教科名	小学校 社会科	学 年	第5学年
単元名	水産業のさかんな地域	児童数	18名
		授業者	名越 正道
1 単元の目標			
我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料で調べ、まとめることで、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることが理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
①水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。	①水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだし、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。	①我が国の水産業の様子について予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直ししたりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。	
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり、輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	②水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きをふまえて、我が国の水産業の現状をふまえて、水産業の抱える課題を見いだしたりするとともに、これからの水産業の発展において大切なことについて、自らの考えを適切に表現している。		
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題への疑問や予想を基に、自分の考えや意見をもち、ノートやタブレット端末を使ってそれらを整理し、自分に合った方法で記述できるようにする。 			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・考えを伝え合う活動を設定し、自分の考えを広げたり、深めたりできるようにする。 ・ペア、グループ、全体交流など様々な交流を取り入れ、その意図を明確にする。 			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・交流後に課題に立ち戻り、自分の考えを見直す時間を確保する。 			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿			
<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を提示し、学びを振り返る。 ・授業の導入で、前時までの振り返りや、振り返りを通して生まれた疑問を活用する。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ol style="list-style-type: none"> ① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ② (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もっとやってみよう。 ③ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ④ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。 			

5 単元の指導と評価の計画 (全8時間)			
時間	◆学習課題 ○主な学習活動 ★対話の視点・自己決定の場	彫削の視点	【評価規準】 評価方法等
1	◆わたしたちの食生活と水産業について考え、学習問題をつくろう。 ○ 教科書の資料から水産業について知っていることや疑問を出し合う。 ○ 水産業や用語について知り、学習問題を考える。 ★広げている	③	【思・判・表】① ノート・発言 【態度】① ノート
2	◆どのようにして魚をとっているのだろう。 ○ 教科書の資料から巻き網漁や一本釣りなど漁の種類を知る。 ○ 漁業の種類や工夫について知る。	① ③	【知・技】① ノート・発言
3	◆水揚げされた魚はどのようにして食卓に届くのだろう。 ○ 食卓に届くまでの過程を予想する。 ○ 食卓に届くまでの工程や関わる人、販売価格について資料から読み取る。 ※ 既習の米の生産の学習を基に考える。	① ⑤	【知・技】① ノート・発言 【思・判・表】① 発言
4	◆どのようにして水産加工品は作られるのだろう。 ○ かつお節を作る工程や工夫について知る。 ○ かつお節以外の水産加工品について調べ、まとめる。 調べ手段・まとめる方法	①	【知・技】① ノート・発言 【知・技】② ノート・タブレット端末
5	◆なぜ作り育てる漁業を行う必要があるのだろう。 ○ 教科書の写真を見て、何をしている様子か予想する。 ○ なぜ育てる必要があるのか考え、交流する。 ★理由づける・交流の相手	① ④	【知・技】① ノート 【思・判・表】② 発言・ノート
6	◆日本の水産業にはどのような課題があるのだろう。 ○ 既習の内容を基に水産業の課題を予想する。 ○ 資料から日本の漁業の現状を読み取り、変化の理由を考える。 ★多面的・多角的に見る	① ④	【思・判・表】① 発言・ノート 【態度】① 発言・ノート
7 ・ 8	◆水産業についてまとめよう。 ○ 学習した内容をさらに深めたいと思い調べたものを、プレゼンテーションソフトを用いてまとめる。 ○ まとめたことを交流する。 ★評価する・交流する相手	④ ⑤	【知・技】④ タブレット端末 【思・判・表】② タブレット端末・発言

V 参考資料

教科名	小学校 国語科	学 年	第5学年
単元名	ミニディベートA1とのくらし	児童数	23名
		授業者	幾島 佑真
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 原因と結果など情報との関係について理解することができる。 【知識及び技能】②ア 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】A11オ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
①原因と結果など情報との関係について理解している。(②ア)	①「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A11オ)	①進んで、テーマについて自分の立場を明確にし、学習課題に沿って計画的に話し合い、自分の考えを広げようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 図書や新聞、インターネットやインタビューによる聞き取り調査など、様々な視点から考えて、自分の立場や考えに根拠をもつことができるようになる。 ノートやワークシート、タブレット端末を用いて、自分が表現しやすい方法で考えを記述できるようにする。 (2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> グループ活動の時間を設け、自分の考えを強化したり、広げたりできるようにする。 自分の考えと異なる立場とのディベートを通して、他者の考えに共感したり、自分の考えを深めたりする時間を設ける。 (3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 対話を行った後に、テーマについて改めて考えを整理する時間を設ける。 (4) 振り返りを通して生まれた新たな気付きや課題を、次の学びにつなげようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 毎時間の学びの振り返りを Microsoft Forms で入力させ、全体で共有する。自分や周りの学びを可視化することで、次の学習につながるきっかけとなるようにする。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ② (学びの見直し) 今後の学習で取り組みたいこと。 ④ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達や先生の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ⑤ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。			

5 単元の指導と評価の計画 (全6時間)					
時間	◆学習課題	○主な学習活動	★対話の視点・自己決定の場	創りの視点	【評価規準】 評価方法等
1	◆ミニディベートの意図や目的をつかもう。	○ 単元の見直しをもち、単元計画を立てる。 ○ あるテーマに対して、自分の立場を明確にして、話し合うことを確認する。 ○ 「ミニディベート」とは、それぞれ役割を決めて話し合うものであることを確認する。		② ④	【知・技】① ノート・発言・ タブレット
2 ・ 3	◆テーマを決め、利点と問題点の立場から意見を組み立てよう。	○ グループごとにミニディベートのテーマを設定する。 ○ テーマについての利点や問題点を情報収集する。(タブレット端末、図書、インタビュー) ○ 集めた情報をノートやワークシートに整理する。 ○ 根拠を示す資料を作成する。(画用紙、タブレット端末) ★多面的、多角的に見る・対話の相手、テーマ決め、情報収集の手段、根拠を示す手段		① ④	【思・判・表】① ノート・発言・ タブレット
4 ・ 5	◆自分の立場を意識しながら話し合い、テーマに対する考えを広げよう。	○ 話し合いの流れを再確認する。 ○ グループごとにミニディベートを行う。 ○ 話し合いから、テーマについて考えたことを整理する。 ★比較する、広げてみる		① ④	【思・判・表】① ノート・発言・ タブレット 【態度】① 発言
6	◆単元の振り返りしよう。	○ ミニディベートを行う際に、大切だと感じたことをまとめる。 ○ ミニディベートを行い、自分ができたことや意識したこと、今後の学習に生かしていきたいことをまとめ、交流する。 ★評価する		① ④ ⑤	【知・技】① 観察・ノート 観察・ノート

教科名	小学校 算数科	学 年	第2学年
単元名	長方形と正方形	児童数	10名
		授業者	高松ななみ
1 単元の目標			
平面図形に進んで関わり、図形についての感覚を豊かにしながら、三角形、四角形などの構成要素を捉え、それらの意味や性質を理解し、図形を構成する要素に着目して捉える力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
①三角形や四角形、直角について意味や性質を理解している。 ②正方形、長方形、直角三角形について意味や性質を理解している。 ③紙を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりすることができる。	①辺や頂点など図形を構成する要素に着目し、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見だし、身の回りのものや形と関連付けながら説明している。	①図形に進んで関わり、数学的に表現、処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き、生活や学習に活用しようとしている。	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 図形の特徴を表現するために、どこに着目するかを伝え、表現できるようにする。 身近なものを例として挙げることで、長方形や正方形の定義をまとめられるようにする。 (2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 図形の特徴を調べる活動で、どんなツールを使ったのかを他者と交流することで、様々なツールを使った考え方ができるようにする。 (3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする活動を通して、自分の考えを整理したり、見直ししたりすることができる機会を設ける。 (4) 振り返りを通して生まれた新たな気付きや課題を、次の学びにつなげようとする姿 <ul style="list-style-type: none"> 用語の意味や前時までの振り返りをこまめに行うことで、既習事項を活用して問題を解決できるようにする。 			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ③ (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もっとやってみようとしたこと。 ④ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達や先生の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ⑤ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。			

5 単元の指導と評価の計画 (全10時間)					
時間	◆学習課題	○主な学習活動	★対話の視点・自己決定の場	創りの視点	【評価規準】 評価方法等
1 2	◆三角や四角の形の特徴を調べよう。	○ 教科書のページにあるパズルを使い、教科書に示された形を構成する。 ○ パズル(ピース)の形について話し合う。 ○ 教科書にある形を仲間分けする。 ○ 直線の数に注目して、仲間分けをする。 ○ 「三角形」「四角形」「へん」「ちょう点」を知る。 ★分類する・対話の相手		① ③	【態度】① 観察・ノート 【知・技】① 観察
3	◆三角形や四角形を見付けたり、書いてみよう。	○ 三角形や四角形の形の特徴に注目して、問題に取り組む。		① ⑤	【思・判・表】① 【知・技】① 観察・ノート
4	◆身の形には、どんな特徴があるか調べよう。	○ 身の回りにおける四角形を探し、共通点について話し合う。 ○ 紙を折って角の形を作り、作った角の形を教科書やノートに当てる。 ○ 「直角」を知る。 ○ 三角定規の角に直角があることを確かめる。 ○ 身の回りにおける四角形に直角があるか調べる。 ★比較する・対話の相手		① ③	【知・技】① 観察・ノート
5	◆長方形には、どんな特徴があるか調べよう。	○ 紙を折って四角形を作る。 ○ 紙で作った四角形の角について調べる。 ○ 「長方形」を知る。 ○ 長方形の特徴を調べる。		① ③ ⑤	【思・判・表】① 観察・ノート
6	◆できた四角形の特徴を調べよう。	○ 長方形の紙を切って四角形を作る。 ○ できた四角形の角や辺の長さを調べる。 ○ 調べたことを発表し、特徴をまとめる。 ○ 「正方形」を知る。 ★比較する・まとめる方法		① ③ ④	【思・判・表】① 観察・ノート
7	◆2つの三角形の特徴を調べよう。	○ 長方形、正方形の紙を切り、三角形を作る。 ○ できた三角形の角の形に着目して調べる。 ○ 調べたことを発表し、特徴をまとめる。 ○ 「直角三角形」を知る。 ★関連付ける・交流の手段		① ⑤	【知・技】② 観察・ノート
8	◆長方形や正方形、直角三角形の書き方を考えよう。	○ 長方形、正方形、直角三角形の定義を振り返る。 ○ マス目を用いて、長方形、正方形、直角三角形を作図する。		① ③ ⑤	【知・技】③ 観察・ノート 【思・判・表】① 観察・ノート
9	◆長方形や正方形、直角三角形を隙間なく並べて、きれいな模様を作ろう。	○ 身の回りから、長方形や正方形を探す。 ○ 色紙や色紙を隙間なく並べ、模様を作る。 ★応用する・対話の相手		③ ⑤	【思・判・表】① 【態度】① 観察・ノート
10	◆長方形や正方形の問題を解こう。	○ 練習問題に取り組み、学習内容の定着を図る。		④ ⑤	【知・技】①②③ 観察・ノート

教科名	中学校 音楽科	学 年	第 1 学年
題材名	器楽「アルトリコーダー」	生徒数	41 名
		授業者	柴山 貴大
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。 音色やタンギング、サミングを知識し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫する。 アルトリコーダーの構造や奏法による音色の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組みるとともに、音楽に対する感性を豊かにする。 			
2 題材の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> アルトリコーダーの音色やタンギング、サミングを知識し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、器楽表現としてどのように音階演奏するかについて創意工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> アルトリコーダーの構造や奏法による音色の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
・練習しなければいけないところやポイントを理解し、自分に必要な練習方法を選択する。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
・チームとして、困っている人のうまくいかないところを見つけ出し、SKYMENU を使って改善策を考える。また、完璧だと思える音階演奏に、更に変化を加えてみようとする。			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
・他の人がどんなことを難しいと感じているのかを知ること、その克服に向けてグループの中で試行錯誤をしながら、よりよい演奏や練習方法を、SKYMENU を使って模索していく。			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿			
・毎回の授業の中で個人とグループの目標を SKYMENU で設定し、どれだけ達成できたかを話し合いながら、次回への改善策にしている。			
4 題材で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> ① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ② (学びの見通し) 今後の学習で取り組みたいこと。 ③ (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もってやってみようとしたこと。 ④ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ⑤ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。 			

5 題材の指導と評価の計画 (全5時間)					
時間	◆学習課題	○主な学習活動	★対話の視点・自己決定の場	振り返りの視点	【評価規準】 評価方法等
1	◆ソプラノリコーダーとの違いを理解しよう	○ 練習を通して音名、音色、連指が異なることを感受する。	○ タンギング、サミングについて理解する。		① 【知・技】① SKYMENU 机間指導
2	◆難しいところを見つけ出して、音階の練習をしよう	○ 個人練習でうまくいかないところの確認し、グループ交流を通して、他者の状況を確認する。	★多面的・多角的にみる・確認方法		② 【思・判・表】① SKYMENU 【態度】① 振り返り
3	◆グループ全員ができるように、コツを考えよう	○ グループ練習でお互いに聞き合い、課題を見つけ、練習方法を考える。	★応用する・対話の相手		③ 【思・判・表】① SKYMENU 机間指導 【態度】① 振り返り
4	◆アルトリコーダーの練習ポイントをまとめよう	○ グループ交流で次の1年生のためにグループでアドバイスを考える。	○ 最終確認で音階演奏に変化(テンポ、音色、リズム等)を付けられるか考える個人練習を行う。		③ 【思・判・表】① SKYMENU 【態度】① 振り返り
5	◆完璧な音階演奏から、自分が考えた違った演奏をしよう	○ 変化について考え、その実現に向けた練習をした上で、演技試験を行う。			③ 【知・技】② 演技試験演奏 【思・判・表】① ワークシート

教科名	中学校 理科	学 年	第 2 学年
単元名	地球の大気と天気の変化 2章 大気中の水の変化	生徒数	25 名
		授業者	高原 悠輔
1 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。 霧や雲の発生について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、霧や雲の発生についての規則性や関係性を見いだして表現すること。 霧や雲の発生に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。 			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 霧や雲の発生について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、霧や雲の発生についての規則性や関係性を見いだして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 霧や雲の発生に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。 	
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿			
・文章や図を用いながら自分の考えを表現し、自分の考えやその根拠について正確に他者に伝えるための工夫ができるようにする。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿			
・自分の考えをまとめる時間を確保し、それを基に他者と交流する時間を設定する。			
・自然現象の中でも身近な例を課題にし、子どもが主体的に取り組めるようにする。			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿			
・ワークシートなどを活用し、自分の考えを整理したり、自分の表現を見直したりすることができるようにする。			
・他者との交流から得た情報を自分なりに解釈し、自分の考えを再構築できるようにする。			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿			
・単元を通して、1 単位時間ごとの振り返りを記入することで、自分の学びや考えの発容などを見直したり比較したりすることができるようにする。			
4 単元で提示する振り返りの視点			
<ul style="list-style-type: none"> ① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。 ② (学びの見通し) 今後の学習で取り組みたいこと。 ③ (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もってやってみようとしたこと。 ④ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。 ⑤ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。 ⑥ (批判的検討) これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す。 			

5 単元の指導と評価の計画 (全7時間)					
時間	◆学習課題	○主な学習活動	★対話の視点・自己決定の場	振り返りの視点	【評価規準】 評価方法等
1	○ パフォーマンス課題を提示し、章の最終目標を確認する。	「パフォーマンス課題」『結露ができる理由とその対策』	◆霧はどのような条件で発生するのだろうか。		② 【思・判・表】① ワークシート
2	◆霧のでき方を考えよう	○ 前時の霧のでき方から、雲の正体を考える。	○ 霧と同様に雲も水滴からできていることを知る。		② 【知・技】① ワークシート 【思・判・表】① 発言 ワークシート
3	◆空気中の体積を変化させて、雲ができるときのしくみを調べよう。<実験2>	○ 雲が発生・消滅するときの空気中の体積変化や温度変化を調べて、記録する。	○ 自然界における雲のでき方についてまとめる。		① 【知・技】① ワークシート 【思・判・表】① ワークシート
4	◆水蒸気が水滴に変わるのには、どのようなときだろうか。	○ 気温が同じ日でも霧ができる日とできない日があるのはなぜかを考える。	○ 一定の体積の空気中に含むことのできる水蒸気量には限界があることを知る。表やグラフで確認する。		① 【知・技】① 【態度】① 発言 ワークシート
5	◆露点を測定して、理科室の空気の水蒸気量を調べよう。	○ 前時に学習した露点は、空気中に含まれる水蒸気量によって変わることを振り返る。	○ 理科室の空気中の露点を測定し、その結果から空気 1 m ³ 中に含まれる水蒸気量を求める。		③ 【知・技】① 観察 【思・判・表】① ワークシート
6	◆水蒸気量から湿度を求められるようになる。	○ 湿度の定義を知り、湿度と水蒸気量によって変わることを確認する。	○ 湿度の求め方を知り、問題演習を行う。		① 【知・技】① 発言 ワークシート 【思・判・表】① ワークシート
7	◆結露ができる理由とその対策を考えよう。(パフォーマンス課題)	○ 結露ができる条件を考え、説明する。また、結露ができにくくなるような対策を考え、説明する。			⑤ 【思・判・表】① パフォーマンス課題 【態度】① 振り返り

V 参考資料

教科名	中学校 音楽科	学 年	第1学年
題材名	シューベルト「魔王」	生徒数	32名
		授業者	山下 喜久
1 題材の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・シューベルトの「魔王」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。 ・シューベルトの「魔王」の音色、テクスチャを知識し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、よさや美しさを味わって聴く。 ・シューベルトの「魔王」のような、世界の様々な音楽の文化的役割に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 			
2 題材の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
①シューベルトの「魔王」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。	①シューベルトの「魔王」の音色、テクスチャを知識し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。	①シューベルトの「魔王」のような世界の様々な音楽の文化的役割に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	②生活や社会における音楽の意味や役割について考え、シューベルトの「魔王」のよさや美しさを味わって聴いている。		
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 ・楽曲を聴いて、「曲名」などの予想を立ててタブレット端末などを活用しながら交流する。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 ・他の作品と比較することで、歌曲の特徴やドイツリートについてまとめる。			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 ・他の作品と比較し、シューベルトの「魔王」の楽曲のよさを再確認し、紹介カードを作る。			
(4) 振り返りを通して生まれた新たな気づきや課題を、次の学びにつなげようとする姿 ・ライヒャルトの「魔王」と比較し、シューベルトの「魔王」の楽曲のよさや美しさを味わって聴き、学習を振り返りながら紹介文を書く。			
4 題材で提示する振り返りの視点			
① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。			
② (学びの見通し) 今後の学習で取り組みたいこと。			
③ (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もっとやってみようこと。			
④ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達の振り返りを読んで気づいたことや考えたことを生かす。			
⑤ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。			

5 題材の指導と評価の計画 (全4時間)					
時間	◆学習課題	○主な学習活動	★対話の視点・自己決定の場	彫削の観点	【評価規準】 評価方法等
1	◆シューベルトの「魔王」の詩と音楽を聴いて、楽曲の背景などについて知る。	○ 楽曲を聴いて、「曲名」などの予想を立てて交流する。 ○ 「魔王」の特徴や作曲者などについて調べる。	★推論する・交流の相手	① ③ ④	【知・技】① 【態度】① 観察 ワークシート
2	◆「魔王」の物語の内容や3人の登場人物の行動や心情を理解し、表現の特徴を抜き取る。	○ 登場人物ごとに聞き、詩と音楽の関係性や音楽の雰囲気などについて感じ取ったことや音楽的な特徴について気付いたことを話し合い、ワークシートにまとめる。	★広げてみる・交流の相手	② ③	【思・判・表】① 【態度】① 観察 ワークシート
3	◆他の作品と比較することで、改めてシューベルトの歌曲の特徴やドイツリートについてまとめる。	○ シューベルトの「魔王」の楽曲紹介カードを作成する。	作成の方法	⑤	【知・技】① 【思・判・表】① 観察 ワークシート
4	◆シューベルトの「魔王」についてまとめたカードを交流し評価する。	○ 作成したシューベルトの「魔王」の楽曲紹介カードを交流する。	★評価する・交流の相手	④ ⑤	【思・判・表】② 【態度】① 観察 ワークシート

教科名	中学校 外国語科	学 年	第2学年
単元名	Lesson 6 Castles and Canyons	生徒数	18名
		授業者	添田佑生子
1 単元の目標			
有名な建造物や観光地の説明を聞いて、その特徴などの要点などを捉えたり、自分が住んでいる街と他の街を比較した説明を簡単な語句や文を用いて書いたりすることができる。			
2 単元の観点別評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
①形容詞や副詞を用いた比較表現の特徴やよさを理解している。(聞くこと、読むこと、書くこと)	①話されたことのリポートを書くために、有名な建造物や観光地、スポーツなどの日常的な話題の話を聞いて、要点を捉えている。(聞くこと)	①話されたことのリポートを書くために、有名な建造物や観光地、スポーツなどの日常的な話題の話を聞いて、要点を捉えようとしている。(聞くこと)	
②形容詞や副詞を用いた比較表現の特徴やよまの理解を基に、人物や事柄などの説明について読み取る技能を身に付けている。(聞くこと、読むこと)	②新聞として相手に情報を伝えるために、自分が住んでいる街と他の街の比較の記事を、まとめよく書いている。(書くこと)	②新聞として相手に情報を伝えるために、自分が住んでいる街と他の街の比較の記事を、まとめよく書こうとしている。(書くこと)	
③人物や事柄などについて、形容詞や副詞を用いた比較表現を用いて書く技能を身に付けている。(書くこと)			
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもの育成に向けた手立て			
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿 ・新聞記事の書き方や伝え方のイメージをもたせ、自分が英語で表現したいことをタブレット端末など活用しながら、相手に伝えることができるようになる。			
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿 ・対話活動中の教え合いや立ち歩きを可とし、自由に発言をしたり、協力しながら学び合ったりできる環境を設定する。			
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿 ・新たに得た情報をロイロノートなどにまとめて言語化し、全体で共有する。			
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿 ・1時間ごとにまとめたノートを基に、今日分かったことを記入したり、自分が表現したいことを英語で書いたり話したりできたかを確認する。			
4 単元で提示する振り返りの視点			
① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。			
② (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もっとやってみようこと。			
③ (批判的検討) これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す。			

5 単元の指導と評価の計画 (全8時間)					
時間	◆学習課題	○主な学習活動	★対話の視点・自己決定の場	彫削の観点	【評価規準】 評価方法等
1	◆自分の街とほかの街の違いをどのように伝えることができるか。	○ 比較級と最上級の使い方について自ら学び、交流する。 ○ パフォーマンス課題を提示し、何を学習するのか見通しをもつ。		① ③	【知・技】① ロイロノート
2	◆自分の街とほかの街の違いをどのように伝えることができるか。	○ 比較級と最上級の使い方の概要をまとめる、交流する。		① ③	【知・技】① スマイルネクスト 【態度】② ライティングノート
3	◆自分の街とほかの街を比較し、その違いを伝えることができる。	○ 教科書の内容理解を通して、比較級や最上級の文の仕組みを理解する。		① ③	【知・技】② 【態度】① ワークシート 観察
4	◆自分の街とほかの街を比較し、その違いを伝えることができる。	○ 教科書の内容理解を通して、比較的長い形容詞の文の仕組みを理解する。		① ③	【知・技】② 【思・判・表】①
5	◆自分の街とほかの街の共通点や一番好きな点をどのように伝えることができるか。	○ as 形容詞・副詞 as ~ / like ~ the best の使い方について自ら学び、交流する。		① ③	【知・技】① ロイロノート
6	◆自分の街とほかの街を比較し、その共通点や一番好きな点をどのように伝えることができるか。	○ as 形容詞・副詞 as ~ / like ~ the best の使い方の概要をまとめ、交流する。		① ③	【知・技】① スマイルネクスト 【態度】② ライティングノート
7	◆自分の街とほかの街の共通点や一番好きな点を伝えることができる。	○ 教科書の内容理解を通して、as や the best の文の仕組みを理解する。		① ③	【知・技】② 【思・判・表】①
8	◆自分の街とほかの街を比較し、これまでの学習をまとめる。	○ パフォーマンステスト ○ 振り返り		⑥	【知・技】①② 【思・判・表】② 【態度】② パフォーマンステスト

教科名	中学校 数学科		学 年	第1学年
単元名	方程式		生徒数	3名
			授業者	田口 宏子
1 単元の目標				
<ul style="list-style-type: none"> 方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 文字を用いて数量の関係や法則などを考察し表現することができる。 方程式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。 				
2 単元の観点別評価規準				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
<ul style="list-style-type: none"> ①一元一次方程式や比例式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。 ②等式の性質や移項の意味を理解している。 ③簡単な一元一次方程式を解くことができる。 ④事象の中の数量やその関係に着目し、一元一次方程式をつくることことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ②一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。 ③比例式を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①一元一次方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を考えようとしている。 ②一元一次方程式や比例式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 		
3 自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもへの育成に向けた手立て				
(1) 考えの根拠をもち、多様な表現で伝えようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> 式や図を使って自分の考えを表現し、その考えや根拠について数学的な表現を用いて説明できるよう工夫する。 				
(2) 他者や自己との対話を通じ、考えを広げようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> 個人で考え、まとめる時間を十分確保するとともに、意見交流後も、改めて考え直す時間を確保し、多角的・多面的に捉えられるようにする。 				
(3) 対話を通して得られた様々な情報を精査して、自分の考えを再形成しようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> それぞれの類似問題を解くことにより、ほかの問題との情報の比較を行い、根拠をもって自分で考えられるようにする。 				
(4) 自分の学習活動を振り返り、学んだことを次につなげようとする姿				
<ul style="list-style-type: none"> 小単元や単元の終わりに振り返りシートを使い、学びの自覚や自己の成長の自覚、次の学習に向けて学びの自己調整ができるようにする。 				
4 単元で提示する振り返りの視点				
① (学びの自覚) 分かったことやできるようになったこと。				
② (学びの見直し) 今後の学習で取り組みたいこと。				
③ (新たな学びの創造) 疑問に思ったこと、もっとやってみたいこと。				
④ (他者の振り返りを自分の学びに生かす) 友達の振り返りを読んで気付いたことや考えたことを生かす。				
⑤ (自己の成長の自覚) これまでの振り返りから自分の変化や成長を自覚する。				
⑥ (批判的検討) これまでの振り返りから自分の考えを捉え直す。				

5 単元の指導と評価の計画 (全16時間)					
時 間	◆学習課題	○主な学習活動	★対話の視点・自己決定の場	彫削の視点	【評価規準】 評価方法等
1	◆集まった紙バックの枚数を求めてみよう。	○ 紙バックの回収について分かったことから、式や図を使って集まった紙バックの枚数を求める。		②	【知・技】① 観察・発言・発表
2	◆等式を成り立たせる文字の値について考えよう。	○ 方程式とその解の意味を知る。 ○ 方程式の中の文字に値を代入して、解であるかどうかを確かめる。		①	【知・技】① 観察・ノート
3	◆方程式の解を求める方法について考えよう。	○ 方程式を解く方法を、てんびんの操作と結び付けて考える。 ○ 等式の性質を使って方程式を解く。 ★推論する・解く方法		①	【知・技】② 【思・判・表】① 観察・発言・発表
4	◆方程式を効率よく解く方法を考えよう。	○ 等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見いだす。 ○ 移項の考えを使って方程式を解く。 ○ 移項の考えを使って方程式を解く手順を確認する。		①	【知・技】②③ 観察・ノート・ 発言・発表
5 ・ 6	◆いろいろな方程式の解き方を考えよう。	○ 括弧を含む方程式を解く。 ○ 係数に小数を含む方程式を解く。 ○ 1次方程式を解く手順を確認する。 ★順序立てる・解く手順		①	【知・技】③ 【思・判・表】① 観察・ノート・ 発言・発表
7	◆基本の問題 ◆小テスト ◆振り返り		★評価する・振り返りの内容	① ② ③ ④	【知・技】③ 【思・判・表】① 観察・テスト 【態度】① 振り返りシート・発表
8	◆方程式を利用して問題を解決しよう。	○ 合唱コンクールの交代の時間を逆算の考えや方程式を使って求め、それらの考えを比較する。 ★多面的・多角的に見る・問題解決方法 ○ 方程式を利用して問題を解決するときの手順を確認する。 ★順序立てる・解決する手順		①	【知・技】④ 【思・判・表】② ワークシート
9	◆方程式を利用して問題を解決しよう。	○ 個数と代金に関する問題を、方程式を利用して解決する。		①	
10	◆方程式を利用して問題を解決しよう。	○ 過不足に関する問題を、方程式を利用して解決する。		①	
11	◆方程式を利用して問題を解決しよう。	○ 速さ・時間・道のりに関する問題を、方程式を利用して解決する。		①	
12 ・ 13	◆比の考えを利用して問題を解決しよう。	○ 比の値が等しいことを表す式を変形して、比例式の性質を見いだす。 ○ 比例式の性質を利用して、文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりする。		①	【知・技】①⑤ 【思・判・表】⑤ ワークシート・観察
14	◆基本の問題・章の問題 ◆小テスト ◆振り返り		★評価する・振り返りの内容	① ② ③ ④	【思・判・表】②⑥ 観察・テスト 【態度】② 振り返りシート・発表
15 ・ 16	◆単元テスト ◆振り返り		★評価する・振り返りの内容	① ④ ⑤ ⑥	【知・技】④④ 【思・判・表】②⑥ 観察・テスト 【態度】①②⑤ 振り返りシート・発表

VI 研究のまとめ

1 今年度の研究の成果と課題

(1) 考えを広げ深める対話の工夫について

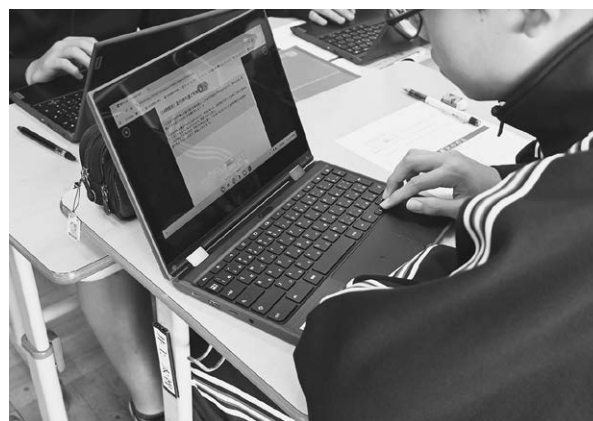
- 単元の課題やゴールを子どもと教師で繰り返し確認し、その達成につなげるために対話を行うという目的意識を共有することによって、主体的に学習や対話に取り組む姿が見られた。
- シンキングツールを活用したり、問題・課題解決の手段を自己決定したりしながら対話の形態を工夫することで、子ども同士が様々な相手や手段で交流することができ、考えの幅を広げることにつながった。
- 対話を通して自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたり質問したりすることで、自分に足りないことや新たな視点・気づきを得るきっかけとなり、学びを深める姿が見られた。
- 対話を積み重ね、質を向上させていくことが重要である。子どもの発達段階に応じた「目指す対話の姿」があると、対話に取り組みやすいのではないだろうか。特に低学年では、対話の視点を子どもに分かりやすく伝え、対話の型を示すことや、仲のよい子ども同士の対話に偏らず、幅を広げるよう促すこと等も有効だと考えられる。
- 話すことが得意ではなく、書いたものを見せて読み合う子どももいた。特に小学校低学年の段階では、書いたものを読み合うことも重要な対話の手段と言えるのではないだろうか。

(2) 学びをつなげる振り返りについて

- 振り返りの視点を明示し、それに沿って文章をまとめることで子どもの思考や学習内容が整理され、「次はこうしたい」「これをやってみたい」という次時以降の課題が明確になり、学びの自己調整につなげる姿が見られた。
- 振り返りを継続的に積み重ねることで、書く力が付いたことや、分からなかったことが分かるようになったこと、学んだ内容をこれからの学習にも活用できること等を子どもが実感し、達成感や学びの意欲につながった。
- 振り返りを共有・比較することによって、他者の記述から新たな気づきを得たり、次の学びにつながる課題やアイデアを取り入れたりすることができ、学びを深める姿が見られた。
- ロイロノート等のICTによる振り返りは即時共有に優れ、紙媒体で一覧になっている振り返りは、見返しやすさや学びの足跡を実感する点において効果的であった。日頃の積み重ねによってそれぞれのやり方に子どもたちが慣れ、効果的に活用されていた。
- 子どもの発達段階や実態に合わせて、振り返りの視点の数を絞ると、思考がぶれず記述がしやすくなるのではないだろうか。
- 振り返りを共有・比較する機会を毎時間確保することは難しいが、学びの深まりや次へのつながりを生み出すために、教師がよい記述を全体に紹介して価値付け、子ども同士で振り返りを共有・比較する機会を作る必要があるだろう。

2 2か年の研究の成果と課題

- 課題や目的意識を共有し、対話の視点を明確にした上で話し合うことによって、他者の考えを取り入れながら自分の考えを深め、よりよい課題解決に向かおうとする主体的な子どもの姿につながった。
- 他者との対話の時間だけでなく、自己との対話の時間を確保することで、対話を通して得られた多面的な考えを自分の考えと比較しながら広げたり深めたりし、自分の考えを再形成しようとする姿につながっていた。
- 振り返りを継続的に積み重ねることで、記述内容の質と量が向上した。また、蓄積した振り返りを共有・比較することで、自己の変容を実感したり、他者から気づきを得たり、次の課題を見付けたりすることができ、これからの学びにつなげようと自己調整する姿が見られた。
- 振り返りは、授業のねらいと子どもの学びが結び付いているかを確認したり、子どもの理解度や疑問点を把握したりする上で教師にとっても有効である。振り返りの記述を子どもたちに紹介して価値付ける・教師の授業改善に生かす・新たな課題に結び付ける等、様々な活用が期待できる。
- 対話・振り返りは、継続的に行うことで質を高めていくことが重要である。2か年の授業実践では、授業者による日頃からの積み重ねと、丁寧な見取りや励ましによって、子どもたちが対話・振り返りに慣れ、集中して取り組んだり成長を実感したりする姿を見ることができた。



- 対話の相手・タイミング・手段などを、子ども自身が考えて選択する機会を教師が意図的に作り、経験を重ねる必要があるのではないだろうか。自己決定を重ねていくことが、学びの主体性を高めることにつながると考えられる。
- 振り返りの効果的な実践例の共有、授業のタイムマネジメント、継続できるシステム作り等を通して、振り返りを更に広めていくことが今後の課題である。

Ⅶ 共同研究員紹介／参考・引用文献

十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員

市町村	共同研究員名	所属（所属校）	備考	市町村	共同研究員名	所属（所属校）	備考
芽室	中村 俊太	芽室町教育研究所 （芽室南小）	推 進 幹 事	帯 広	藤原 悠大	帯広市教育研究所 （大空学園）	推 進 幹 事
足 寄	程野 純貴	足寄町生涯学習研究所 （足 寄 小）	推 進 副幹事	音 更	上野 純子	音更町教育研究所 （音 更 中）	推 進 副幹事
大 樹	齊藤 織斗	大樹町教育研究所 （大 樹 小）	授業者	幕 別	長澤 翔太	幕別町教育研究所 （幕 別 中）	授業者
土 幌	土屋 英之	土幌町教育研究所 （上居辺小）		新 得	柴山 貴大	新得町教育研究所 （新 得 中）	
上土幌	杉浦 亜弓	上土幌町教育研究所 （上土幌小）		清 水	高原 悠輔	清水町教育研究所 （御 影 中）	
鹿 追	中山 竜太	鹿追町立教育研究所 （鹿 追 小）		広 尾	山下 喜久	広尾町教育研究所 （広 尾 中）	
中札内	土橋 真理	中札内村教育研究所 （中札内小）		豊 頃	添田佑生子	豊頃町教育研究所 （豊 頃 中）	
更 別	原田 憲未	更別村教育研究所 （上更別小）		浦 幌	田口 宏子	浦幌町教育研究所 （上浦幌中）	
池 田	名越 正道	池田町教育研究所 （池 田 小）		陸 別	高松ななみ	陸別町教育研究所 （陸 別 小）	
本 別	幾島 佑真	本別町総合教育研究所 （本別中央小）		十勝教育研究所 柴田 悠二／山本 由佳／佐藤 悠樹			

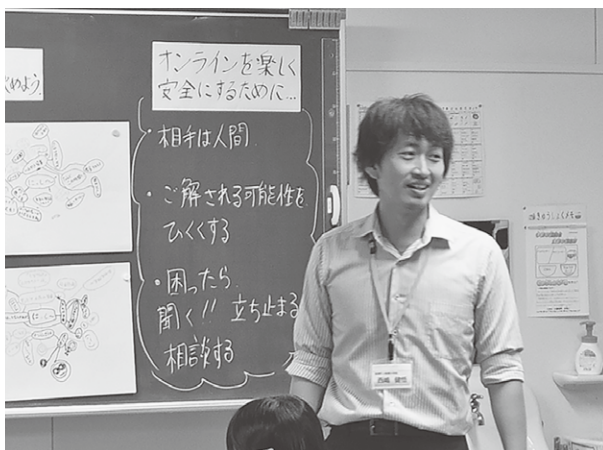


参考・引用文献

- 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 数学編（平成29年7月） 文部科学省
- 生徒指導提要 第2章 教科の指導と教育課程（令和4年12月） 文部科学省
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語 国立教育政策研究所
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 数学 国立教育政策研究所
- 「対話的学び」をつくる 聴き合い学び合う授業 ぎょうせい
- すべての子どもを深い学びに導く『振り返り指導』 教育報道出版社
- まんがで知るデジタルの学びーICT教育のベースにあるものー さくら社

他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究

～日常モラルを生かした学習内容と一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して～
(2か年継続研究 1年次)



授業者
新得町立新得小学校
教諭 西嶋 健悟



授業者
音更町立共栄中学校
教諭 青木 大地

I 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の仮説と内容、構造図
- 4 研究計画
- 5 検証計画
- 6 研究の推進
- 7 研究の組織
- 8 研究推進計画

II 研究の視点と内容

- 1 研究の視点
- 2 研究の内容

III 授業実践

- 1 小学校授業実践1
- 2 小学校授業実践2
- 3 小学校授業実践記録
- 4 中学校授業実践1
- 5 中学校授業実践2
- 6 中学校授業実践記録
- 7 資料「行動の選択肢の議論のアクティビティ」

IV 研究のまとめ

- 1 研究の内容に関わる本時の検証
- 2 授業実践前後のアンケート結果からの検証
- 3 研究内容の検証
- 4 研究1年次の成果と課題

V 研究協力校紹介／参考・引用文献

I 研究の概要

1 研究主題

他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究

～日常モラルを生かした学習内容と一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して～

2 主題設定の理由

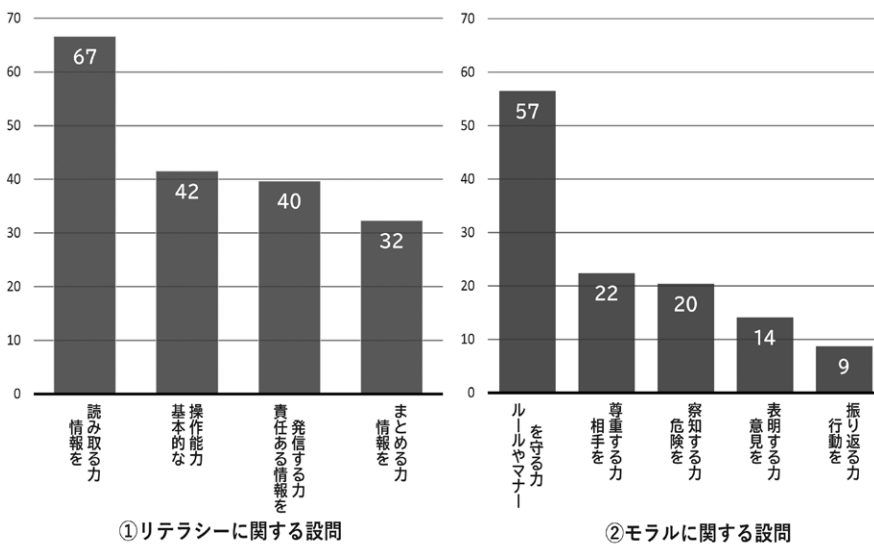
今日的な課題 学習指導要領の趣旨等から

Society5.0時代の到来やグローバル化等により急速に社会が変化し、予測が困難な時代になっている。そのような情勢の中で、平成29年告示の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」による資質・能力の育成を図り、「持続可能な社会の創り手」の育成を目指して、「何を学ぶか」だけにとどまらず、「どのように学ぶか」や「何ができるようになるか」が重視されている。さらに、学習指導要領総則第2教育課程の編成2(1)では、「各学校においては、児童（生徒）の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」ことが求められている。

また、2022年6月内閣府発行の「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関するパッケージ」において、一人一人の多様な幸せ（Well-being）の実現のためのロードマップの1つとして、多様な子どもたちに対してICTも活用し個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが述べられている。

十勝の現状から

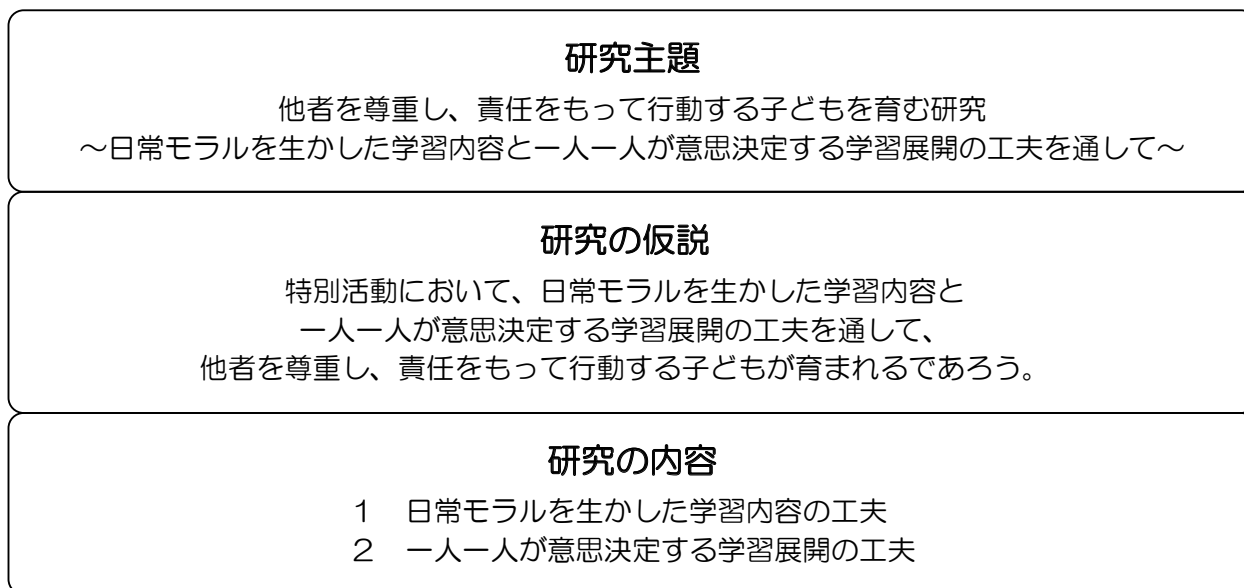
十勝教育研究所が令和6年1月から2月に掛けて、十勝管内の教職員へアンケート調査を行った。右グラフ①では、情報を読み取る力や責任をもって発信する力が挙げられた。真偽を確かめる力（ファクトチェック）を育成していくことは、喫緊の課題となるだろう。一方で、グラフ②では、ルールやマナーを守る力が過半数を超える結果となっている。



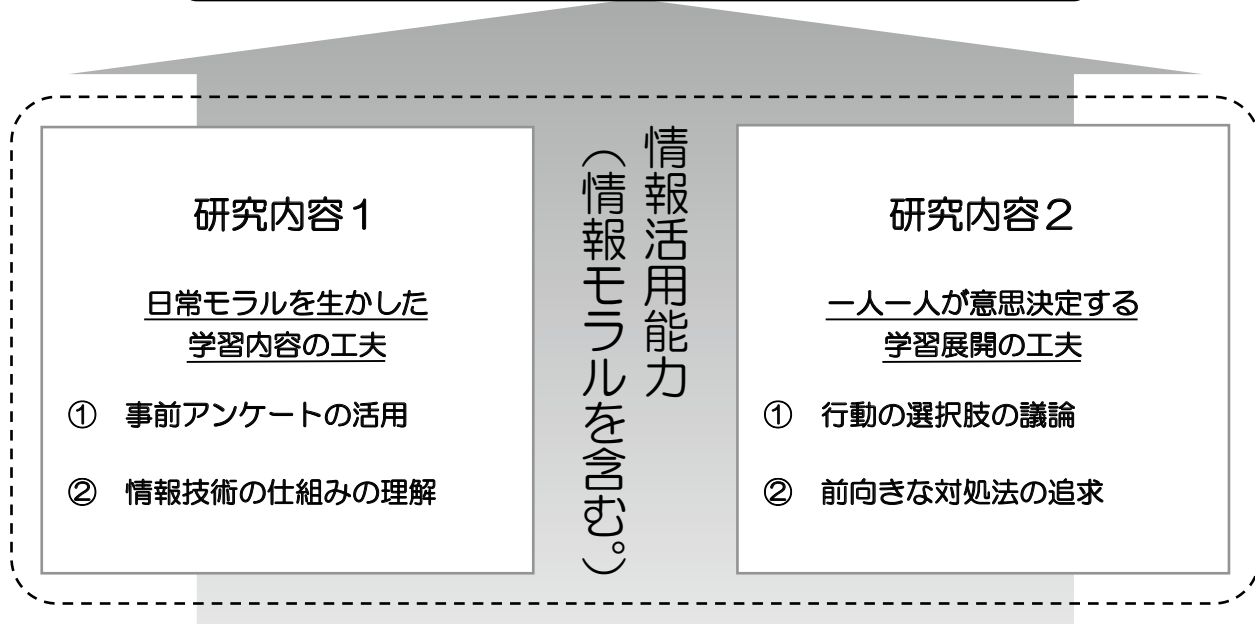
【デジタル化が急速に進む中で、どのような力を付けることが必要と感じているか】

また、自由記述欄の内容をAIテキストマイニングで集計すると次頁図のような結果となった。「活用」のほか、「モラル」「指導」という名詞のポイントが高い。さらに、「正しい」「望ましい」「難しい」という形容詞もあることから、課題意識はあるものの、その解決や実現に難しさを抱えているのではないかと推察される。加えて、「つながる」「感じる」という動詞のポイントも高いことから、他者への意識や関わり方についても必要感があるのではないかと考えられる。

3 研究の仮説と内容、構造図



他者を尊重し、責任をもって行動する子ども



4 研究計画

(1) 第1年次(令和6年度)	(2) 第2年次(令和7年度)
<ol style="list-style-type: none"> ① 理論研究 ② 子どもの実態把握 ③ 日常モラルを生かした学習内容の工夫 ④ 一人一人が意思決定する学習展開の工夫 ⑤ 協力員による授業実践 ⑥ 1年次の検証のまとめ ⑦ 2年次に向けた仮説、研究内容、研究計画、検証計画の修正 	<ol style="list-style-type: none"> ① 理論研究 ② 子どもの実態把握 ③ 他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育むための研究内容の検討 ④ 協力員による授業実践 ⑤ 2年次の検証のまとめ ⑥ 2年間の研究の成果

5 検証計画

(1) 検証内容

- ① 日常モラルを生かした学習内容の工夫により、他者を尊重しようとしていくことができていたか。
- ② 一人一人が意思決定する学習展開の工夫により、自分事として問題を捉え、責任をもって行動をしようとしていくことができていたか。

(2) 検証方法

- ① ノートや端末などへの記述の見取り
- ② 題材前後の子ども・授業者へのアンケート調査・インタビュー調査の分析（全体・抽出）
- ③ 授業に参加する姿からの見取り

6 研究の推進

・ 研究方法

十勝教育研究所と研究協力校との共同研究とし、研究協力員の実践を通して検証する。

7 研究の組織

(1) 担当所員

靱山 修斗 ・ 白澤 大輔

(2) 研究協力校

新得町立新得小学校 西嶋 健悟 教諭

音更町立共栄中学校 青木 大地 教諭

8 研究推進計画（令和6年度 1／2年次）

月	研究の推進内容	諸会議
4	・ 研究主題、研究計画等の作成	十勝教育研究所業務計画会議 十勝教育研究所運営委員会
5	・ 研究の視点、方向性の確認	
6	・ 研究協力員の委嘱及び研究の概要説明 ・ 理論研究 ・ 子どもたちの実態把握	第1回協力員会議（6/4） 十勝教育研究所調査委員会 第2回協力員会議（6/20）【Zoom】
7	・ 研究実践計画と検証実践計画の策定 ・ 授業実践における検証方法の検討 ・ 授業実践1の内容検討・実践（7/23）	十勝教育研究所モニター会議 第3回協力員会議（7/9）【Zoom】 第4回協力員会議（7/23）
8	・ 授業実践2の内容検討	第5回協力員会議（8/22）【Zoom】
9	・ 授業実践2の実施（9/10） ・ 子どもたちの変容の分析、授業実践の分析 ・ 協力校での継続的な実践	第6回協力員会議（9/5）【Zoom】 第7回協力員会議（9/10） 第8回協力員会議（9/17）【Zoom】
10	・ 授業実践3の内容検討・実践（10/3） ・ 授業実践4の内容検討・実践（10/17）	第9回協力員会議（10/3） 第10回協力員会議（10/10）【Zoom】 第11回協力員会議（10/17）
11	・ 1年次の検証 ・ 研究紀要原稿の検討	
12	・ 研究発表大会用パワーポイント作成	十勝教育研究所運営委員会
1	・ 研究発表大会打合せ、リハーサル ・ 研究のまとめ	
2	・ 研究発表大会（2/6） ・ 研究紀要の刊行	十勝教育研究所研究発表大会

Ⅱ 研究の視点と内容

1 研究の視点

(1) 本研究における「他者を尊重し、責任をもって行動する子ども」

本研究では、目指す子ども像を、「他者を尊重し、責任をもって行動する子ども」とする。

「他者を尊重し」とは、「多様な他者を理解し、相手の意見を聴き自分の考えを正確に伝えることができる」ことである。平成23年中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、キャリア教育において育成すべき力「基礎的・汎用的能力」として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つの能力が示されている。

特に、「人間関係形成」は、特別活動において育成を目指す資質・能力の3つの視点のうちの1つとされており、子ども一人一人が互いを尊重し、よさや可能性を発揮し、生かし、伸ばし合うなど、よりよく成長し合えるような集団活動としていくことが求められている。これらは、生徒指導提要の内容とも合致する。

「責任をもって行動する」は、2019年にOECDから発表された「ラーニングコンパス（学びの羅針盤）」の中心的な概念である「エージェンシー」と重なる。「エージェンシー」は、「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」と表されており、予測が困難な状況を乗り越えていくためには、「結果の予測（目標設定）」や「目標実現に向けた計画立案」「自分が使える能力や機会を評価・振り返り、自身のモニタリング」「逆境の克服」などの多様な能力が必要とされると述べられている。

また、子ども自らの目標設定やその実現には、自分たちの欲求の実現にとどまらず、自分たちが所属する社会に責任を負うことが求められており、自らの目標や実現のための行動が、社会にどう受け止められるのかを考えたり、振り返ったりする能力も重要視されている。

さらに、教育基本法第2条第3号では、「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」という教育の根本に関わる記述がある。これは、「エージェンシー」の理念に重なるものであると文部科学省が見解（OECDの「教育とスキルの未来2030プロジェクト」の途中経過を示したポジションペーパーの日本語版）を示しており、日本の教育は既にこれを含んで行われてきていると考えられる。

これらのことから、「責任をもって行動する」ことは、自らを律し、自己を振り返る能力を身に付け、その後のよりよい行動を考えることができる力ということができらるだろう。

そこで、本研究では、「他者を尊重し、責任をもって行動する子ども」を次のように考える。

本研究における「他者を尊重し、責任をもって行動する子ども」

- ・多様な他者を理解し、相手の意見を聴き、自分の考えを正確に伝えることができる子ども
- ・自らを律し、自己を振り返る能力を身に付け、その後のよりよい行動を考えることができる子ども

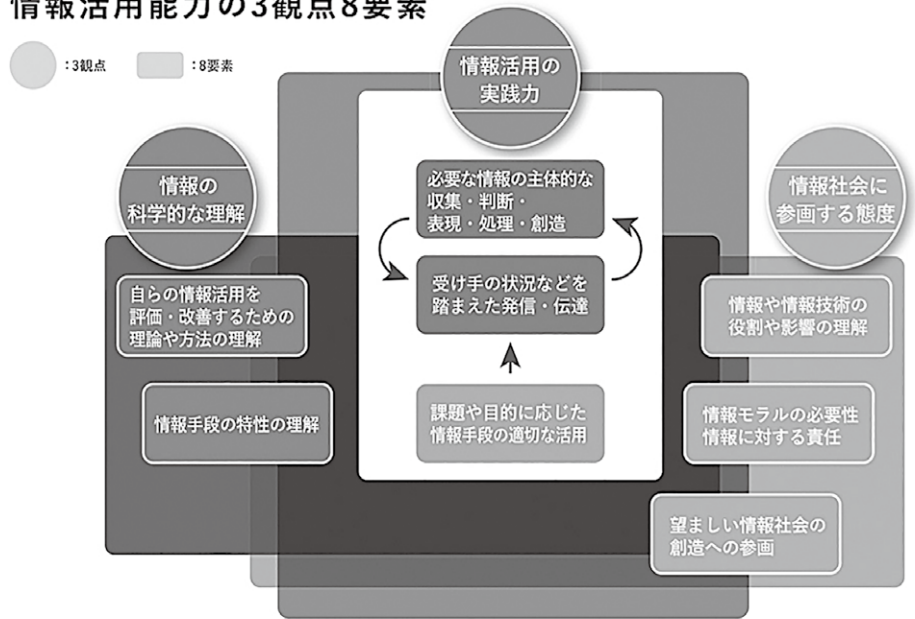
(2) 情報活用能力

学習指導要領にある情報活用能力は、情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質であり、文部科学省では、図のように3観点8要素に整理している。この3つの観点が相互に関連し、連携して発揮されるべき力とされている。

これらの能力を身に付けることで、将来、様々な情報を活用して、自分の考えを形成したりほかの人と協力して新しい価値を生み出したりすることができるようになる」と述べられている。

そのためには、細分化された8つの要素を、情報を使う際の具体的なスキルや考え方として捉え、授業を展開し、子どもたちが身に付ける必要があると考える。

情報活用能力の3観点8要素



【文部科学省「21世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために」2015年P2より】

(3) 情報モラル教育

学習指導要領では、情報活用能力（情報モラルを含む。）は、言語能力と同様に、「学習の基盤となる資質・能力」とされている。中でも情報モラルは、右図のように「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」と定義され、各教科等や生徒指導との連携を図りながら実施することが重要とされている。

○ 小学校学習指導要領解説 総則編における「情報モラル」関係の記述概要

情報モラルとは	情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度			であり、
具体的には	他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと	犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること	コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること	などである。
このため、	情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習活動 ネットワーク上のルールやマナーを守ることを意味について考えさせる学習活動 情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動 情報には誤ったものや危険なものがあることを考えさせる学習活動 健康を害するような行動について考えさせる学習活動			などを通じて、児童に情報モラルを確実に身に付けさせるようにすることが必要である。
その際	情報の収集、判断、処理、発信など情報を活用する各場面での情報モラルについて学習させることが重要である。			
また、	情報技術やサービスの変化、児童のインターネットの使い方の変化に伴い、学校や教師はその実態や影響に係る最新の情報の入手に努め、それに基づいた適切な指導に配慮することが必要である。			
併せて	児童の発達の段階に応じて、例えば、インターネット上に発信された情報は基本的には広く公開される可能性がある、どこかに記録が残る完全に消し去ることはできないといった、情報や情報技術の特性についての理解に基づく情報モラルを身に付けさせ、将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できるようにすることが重要である。			
さらに	情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、各教科等との連携や、さらに生徒指導との連携も図りながら実施することが重要である。			

【令和元年 文部科学省青少年タスクフォースより】

一方で、指導に関しては、44ページで提示したとおり、多くの先生方が困り感を抱えており、「継続的、日常的に指導することの必要性」「子どもの実態が分からない」「詳しくないので指導しづらい」なども挙げられている。

これらのことから、事前アンケートから子どもの実態を把握した上で、情報の活用場面を具体的に想起し対応を考える活動を通じて、情報モラルの「他人への影響を考える」「自他の権利を尊重する」「行動への責任をもつ」などについて考えることで、本研究主題である「他者を尊重し、責任をもって行動する子ども」の育成につながると考えた。

2 研究の内容

本研究では、他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育むための具体的な内容として、日常モラルを生かした学習内容の工夫（研究内容1）と、一人一人が意思決定する学習展開の工夫（研究内容2）の2つを行うこととした。

(1) 日常モラルを生かした学習内容の工夫

① 事前アンケートの活用

令和2年6月文部科学省から出された「教育の情報化に関する手引―追補版―」（以下、手引）では、「児童生徒の情報活用能力がどの程度育成されているか、本体系表例（文部科学省委託事業「次世代の教育情報化推進事業『情報教育の推進等に関する調査研究』による情報活用能力の体系表例）を実態把握に活用するとともに、各学校・学年の実態に応じた育成及び指導の改善・充実を行う目安としても活用するという一連の流れが重要である」と述べられている。子どもたちのデジタル機器を使う頻度が高まっている中、どれだけの時間やどのような場面で使っているのか、そこにどのような傾向があるのかなどについて、しっかり押さえた上で授業づくりを行うべきだろう。

そこで、事前アンケートを実施し、子どもたちのデジタル機器の状況の傾向をつかむ。その結果を体系氷冷に照らし合わせ、どのような問題場面に遭遇するかを検討し、より「自分事」として考えやすい環境を整えることで、「他者を尊重し、責任をもって行動する子ども」を育成することができる考えた。

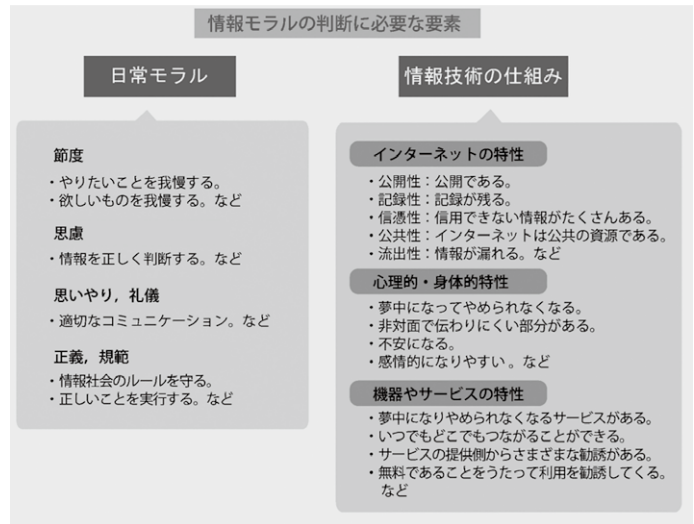
分類		ステップ1	ステップ2
B 思考力、判断力、表現力等	1 問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）	体験や活動から疑問を持ち、解決の手順を見通したり分解して、どのような手順の組み合わせが必要かを考えて実行する 身近なところから課題に関する様々な情報を収集し、簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて、情報を整理する 情報の大体を捉え、分解・整理し、自分の言葉でまとめる 相手を意識し、わかりやすく表現する 問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付くことができる	収集した情報から課題を見つけ、解決に向けた活動を実現するために情報の活用の見直しを立て、実行する 調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見つけたり、観点を決めた簡易な表やグラフ等や習得した「考えるための技法」を用いて情報を整理する 情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見いだす 表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせて適切に表現する 自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いのかを考える
	2 情報モラル・情報セキュリティについての態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 a 事象と関係する情報を見つけようとする b 情報を複数の視点から捉えようとする ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度 a 問題解決における情報の大切さを意識して行動する b 情報の活用を振り返り、良さを見つけようとする c 情報の活用を振り返り、改善点を見いだそうとする a 人の作った物を大切にし、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする b コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする	情報同士のつながりを見つけようとする 新たな視点を受け入れて検討しようとする 目的に応じて情報の活用の見直しを立てようとする 情報の活用を振り返り、改善点を見いだそうとする 自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする 情報の発信や情報をやりとりする場面にもルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする
C 学びに向かう力、人間性等	1 問題解決・探究における情報活用への態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 c d e f	情報通信ネットワークを協力して使おうとする 情報や情報技術を生活に活かそうとする
	2 情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	②情報社会に参画しようとする態度 a 情報や情報技術を適切に使おうとする b	情報通信ネットワークを協力して使おうとする 情報や情報技術を生活に活かそうとする

【文部科学省委託事業「次世代の教育情報化推進事業『情報教育の推進等に関する調査研究』による情報活用能力の体系表例】より一部抜粋】

② 情報技術の仕組みの理解

手引によると、情報モラルは、「日常モラル+情報技術の仕組みの理解」とされている。日常モラルを発揮した上で情報技術の仕組みを理解することができれば、具体的なトラブル場面に遭遇したときにも落ち着いて状況を整理し、その後のよりよい行動へつなげられるようになるだろう。

そこで、授業の中で具体的な問題場面に出合った際に、どのような特性によって、その問題が発生しているのかを冷静に見極める場面を設定する。インターネット上のコミュニケーションも日常生活と同様に、画面の向こう側に人がいることを意識させることが重要であると考えられる。顔が見えない分、日常生活以上に勘違いが起こる可能性は高く、注意すべき点があるということについて理解を深めることが必要であろう。個々が持っている日常モラルを活用して、問題場面について「自分事」として考えることが、「他者を尊重する」子どもにつながるだろう。



【教育の情報化に関する手引】

(2) 一人一人が意思決定する学習展開の工夫

① 行動の選択肢の議論

「行動の選択肢の議論」とは、デジタル上の問題の解消のため、実現可能な行動の選択肢を考え、議論をすることを指している。ここでいう議論は、討論とは異なり、自分の意見を表明したり、相手の意見を聴いたりすることで、改めて自分の考えを形成していく活動を指すこととする。結論を出すための作業ではなく、様々な立場や考え方に触れることで、多様性を認め、「他者を尊重する」子どもを育てることができるのではないかと考える。

また、行動の選択肢について、子どもがメリット・デメリットを考える活動を通して、異なる意見を受け入れたり、更に別の解決方法を見いだしたりすることが、その後の展開における意思決定に生きるだろう。その際には、決して、結論を1つにするような方法は取らないように留意することが大切である。

さらに、議論の際にはICTを効果的に活用していくことで、思考を整理したり、即時的に意見を共有したりすることができるだろう。

② 前向きな対処法の追求

授業の終末場面において、具体的な場面で自分だったらどのような行動をしたいか、最終的な考えを記述してまとめる活動を設定する。

この活動では、特に、前向きな対処法を考えることを重視する。「危険だから使わない、全く触れない」という思考ではなく、「身の回りにあふれている情報や情報機器をよりよく活用していく」という考え方をもち、「正しく理解して、もっと便利に、もっと楽しく、幸せな社会生活ができるように活用する力を付けよう」というウェルビーイングにつながるポジティブな学びをすることで、「責任をもって行動する」スキルを獲得することができるであろう。そうすることで、いざ問題場面に遭遇したとしても、冷静に判断し、行動することができる子どもになるのではないだろうか。

このように、行動の選択肢を議論した上で、前向きな対処法を追求することを通して、他者の考え方に触れ、情報技術への理解を深めながら、自己の行動について考えることが、「他者を尊重し、責任をもって行動する子ども」の育成につながると思う。

Ⅲ 授業実践

1 小学校授業実践 1

「オンラインコミュニケーション」

新得町立新得小学校 第6学年
授業者 西嶋 健悟

1 題材 どう返答するのが正解？～オンラインコミュニケーションでのやり取り～ 学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成

2 題材について

(1) 子どもの実態

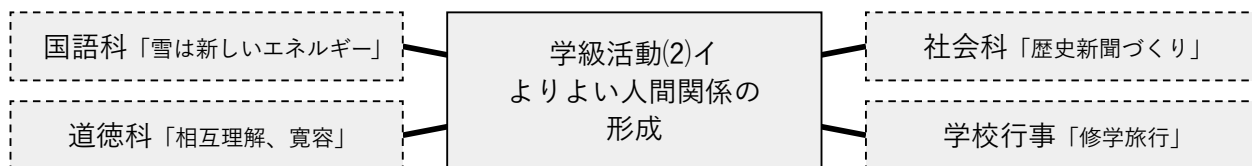
子どもたちは非常に活発で、何事にも意欲的に取り組む姿が多く見られる。よりよいと思ったことを友達と共有し、積極的に気付きを行動に移すことができる場面が多く、他者を尊重する態度も随所に見られており、日常生活の中で友達を褒める言葉が行き交う雰囲気がある。

(2) 題材設定の理由

事前アンケートから、対人関係では「相手の気持ちを考え、傷付けないよう配慮する」と答える子どもが多く、ふだんから他者意識をもっているという傾向が強く出ていた。また、LINEなどのツールにおいては子どもによって経験が大きく分かれている。

今回は、チャットのような文面のみでのコミュニケーションを題材とする。チャットを疑似体験しながら、画面の向こうにいる相手の様子を想像することで、相手を尊重する大切さを理解できるようにし、具体的にどのような行動が取れるかを考えることで、責任をもって行動するスキルを身に付けることをねらいとする。

(3) 他教科等との連携



3 評価規準

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自らの課題解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりしている。

4 事前の指導

子どもの活動	指導上の留意点	目指す子どもの姿と評価方法
アンケートに記入する。	自分自身の生活を適切に振り返るよう知らせる。	アンケートを記入し、オンラインの長所と短所について考えることができる。また、人との関わりについて考えている。 【思考・判断・表現】(アンケート)
アンケートの結果をまとめる。	アンケートの結果をまとめ、学級の実態をつかむ。	

5 研究内容との関わり

(1) 研究内容 1

- 事前アンケートから子どもの実態を把握した上で、題材の設定をする。子どもが自分事として捉えやすいよう、疑似体験を取り入れ、実感を伴う学習を設定する。
- 情報技術の特性「相手が存在するが見えにくい」「誤解が生まれやすい」について取り扱う。

(2) 研究内容2

- ・オンライン上では、「相手の顔が見えない」「画面の奥に相手がいることが想像しにくい」という特性について考え、どのように情報を受け取り、返答をするのか考える場を設定する。
- ・返信について交流した後、安心してオンラインコミュニケーションを取るためにふだんのコミュニケーションの中で意識していくことについて記述する場を設定する。

6 本時の展開

(1) 本時のねらい (目指す子どもの姿)

- ・責任をもった発信をする大切さを学び、よりよい人間関係を築くことができるようにする。

(2) 学習過程

指導過程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応 	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導入 つかむ	<p>オンラインコミュニケーションでの問題について例題を通して押さえる 「明日学校いきたくねー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ このLINEにどんな返事をしますか？ ・ 何かあった？と聞く ・ 既読スルー ・ いじりすぎてごめん ・ 面倒くさい <p>オンラインコミュニケーションの特徴を押さえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の顔が見えないということや相手の様子を想像しにくく誤解が生まれるといった特性があります。また発信する方も勘違いされる可能性があります。 	<ul style="list-style-type: none"> □事前アンケートで返事を集めておく。 □発信側の意図も確認し、発信側が誤解を招く可能性についても触れる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【①】 情報技術の仕組みの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の顔が見えづらい特性 ・ 思い込み、誤解が生まれやすいという特性 </div>
展開 さぐる 見つける	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題 相手の様子を想像して返答を考え、オンラインで楽しくやり取りするときに自分が気を付けることを決めよう。</p> </div> <p>文面だけのメッセージから相手を想像し返信を考える 「明日学校いきたくねー」(20:12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ この文に対しての返信をグループで考えましょう。考える際にはどんな様子を想像したか、何と答えるかをマッピングしながら相談してください。 ・ 様子が読めないから聞く→どうして？ ・ ただの絡み→スルー、俺も、私も(同調) <ul style="list-style-type: none"> ○ ほかの班の様子を見て交流をしましょう。 ・ 「いじりすぎて元気ない」なら「いじったの気にしてる?」とか聞く方がいいんじゃない? <ul style="list-style-type: none"> ○ マッピングを基に出た意見を共有しましょう。 <p>実際にチャットに返信する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Teams上でチャットに返信してみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆多様な意見のよさを生かして自己の考えを形成しているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【②】 行動の選択肢の議論 それぞれの行動をしたときのよさや影響等を考慮して考えている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>オンラインで楽しく、安全にするためには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン上でも相手は人間である。 ・ 誤解される可能性を低くする工夫ができる。 ・ 困ったときには、立ち止まる・相談することが必要である。 </div>
終末 決める	<p>今後の自分自身の行動について考え、決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、オンラインコミュニケーションを取るときに気を付けていきたいことは何ですか？ またふだんの学校生活でも気を付けられることはありますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ☆今後のコミュニケーションについて前向きに考えていたか。(記述) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【②】 前向きな対処法の追求 今後の自己の前向きな行動について意思決定している。</p> </div>

7 事後の活動

子どもの活動	指導上の留意点	目指す子どもの姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で立てためあてや取組について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み等の家庭でのオンラインとの向き合い方について考えるよう知らせる。 ・ オンラインだけでなくふだんのやり取りの中で意識していることについても考えるよう知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見を参考にしながら、どのように生活に生かしていきたいかを考えて立てた具体的なめあてや実践方法に進んで取り組んでいる。 <p>【知識・技能】(観察)</p>

2 小学校授業実践 2

「動画へのコメント投稿」

新得町立新得小学校 第6学年
授業者 西嶋 健悟

1 題材 「世界でだれかが君を見ている」
学級活動(2)イ よりよい人間関係の形成

2 題材について

(1) 子どもの実態

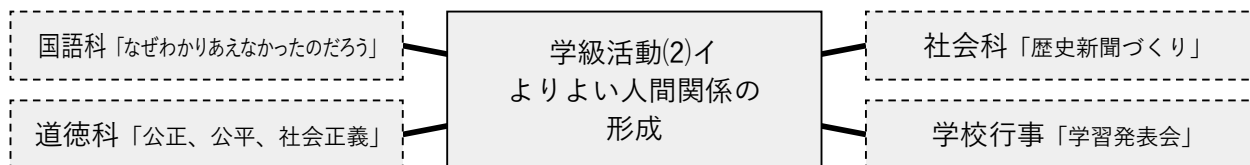
事前アンケートから、子どもたちがふだん使用しているSNSは、LINEのような連絡ツールやYouTubeでの動画視聴が多い。一方で、不特定多数の人が見るXやTikTokなどに対して投稿をしたり書き込みをしたりしたことがある子どもは、約17%と多くはない。

(2) 題材設定の理由

インターネット上への投稿は日常のつぶやきや近況報告、告知など多岐にわたり、個人情報や肖像権、著作権など多方面への思慮が必要となる。今回は、情報発信の入り口として自分自身の情報の発信ではなく、投稿動画へのコメント投稿の場面を設定した。

授業実践1と違い、全世界への発信には違った特性が多く含まれることにも目を向け、「オンライン上におけるTPO」と捉え、場面に応じた意識すべきことへの理解を深める。また、場面に応じて話すのはふだんの生活の中でも必要な能力であるため、この題材を通し、日常生活におけるTPOをも意識できるようにする。

(3) 他教科等との連携



3 評価規準

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自らの課題解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしていたりしている。

4 事前の指導

子どもの活動	指導上の留意点	目指す子どもの姿と評価方法
アンケートに記入する。	自分自身の生活を適切に振り返るよう知らせる。	アンケートを記入し、場面に応じた話し方について考えている。 【思考・判断・表現】(アンケート)
アンケートの結果をまとめる。	アンケートの結果をまとめ、学級の実態をつかむ。	

5 研究内容との関わり

(1) 研究内容 1

- 事前アンケートから子どもの実態を把握した上で、題材の設定をする。子どもが自分事として捉えやすいよう、疑似体験を取り入れ、実感を伴う学習を設定する。
- 1対1でのオンラインコミュニケーションと比較し、世界中で見られる情報を発信するときの特性の違いを理解し、オンラインにおけるTPOを理解する。

(2) 研究内容2

- ・コメント投稿についてどんな問題があり、どうコメントするのがよいか考える場を設定する。
- ・ふだんの生活の中でもTPOについて意識していくことを記述する場を設定する。

6 本時の展開

(1) 本時のねらい（目指す子どもの姿）

- ・1対1でのオンラインコミュニケーションと比較し、世界中で見られる情報を発信するときの特性の違いを理解する。
- ・責任をもった発信をする大切さを学び、オンラインでもTPOを考えて発信しようとすることができるようにする。

(2) 学習過程

指導過程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主な発問や教師の指示 ・予想される子どもの反応 	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導入 つかむ	<p>事前アンケートで、仮想新人動画投稿者にコメントを付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 動画のコメント見てみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・～さんの繰り返しがおもしろ ・時代が古い ○ 1対1のオンラインコミュニケーションではどんな特性がありましたか？ <ul style="list-style-type: none"> ・相手の様子が見えない ○ 世界中で見られる情報を発信するときの特性について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報注意 ・その一言があなたの評価になる可能性 <p>《畏》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接じゃ言えないけどインターネット上なら言えるかも 	□コメントは肯定的なもの以外のものも扱う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【①】 情報技術の仕組みの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報注意 ・自分自身の投稿は消してもなくなる可能性 ・その一言が自分の評価になる可能性 <p>《畏》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接じゃ言えないけどインターネット上なら言えるかも。 (自分の顔が見えないと安心) ・意図とは違う切り取りで情報が変わる!? </div>
展開 さぐる 見つける	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題 全世界が見ています。よりよい表現に変えよう。</p> </div> <p>世界中で見られるという特性を踏まえ、コメントをよりよい表現の仕方に変える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートにあるコメントを、コメントの特性を考えてよりよい表現に変えましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さんの繰り返しおもしろ」は個人情報だし、言葉がくだけ過ぎているから「女の子の繰り返し面白いね」にする。 ○ グループの中で特によいと思った理由やコメントを選んで黒板に貼りましょう。(全体で理由の共通点や表現の仕方について共有する) ○ 実際の動画にコメントをしましょう。 	□コメントを変える際に意識したポイントを扱う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【②】 行動の選択肢の議論</p> <p>世界中で見られるという特性を考えて議論している。</p> </div> <p>□Teams内の動画にコメントを付ける。(コメント同士のやり取りもOK)</p>
終末 決める	<p>今後の自分自身の行動について考え、決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、情報を発信する際はどのようなことに気を付けますか？また、ふだんの生活の中で伝え方について意識していくことは何ですか？ 	☆学習内容を振り返り、伝え方を前向きに考えていたか。(記述) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【②】 前向きな対処法の追求</p> <p>今後の自己の前向きな行動について意思決定している。</p> </div>

7 事後の活動

子どもの活動	指導上の留意点	目指す子どもの姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で立てためあてや取り組みについて振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中で見られる情報発信との向き合い方について考えるよう知らせる。 ・ふだんのやり取りの中でも、伝え方を意識していくことができるよう知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を参考にしながら、どう生活に生かしていきたいかを考えて立てた具体的なめあてや実践方法に進んで取り組んでいる。 <p>【知識・技能】 (観察)</p>

3 小学校授業実践記録

新得町立新得小学校 第6学年
 授業者 西嶋 健悟 教諭
 研究の内容1 日常モラルを生かした学習内容の工夫
 研究の内容2 一人一人が意思決定する学習展開の工夫

「オンラインコミュニケーション」
 学級活動 (2)イ よりよい人間関係の形成
 題材 「どう返答するのが正解？」
 ～オンラインコミュニケーションでのやり取り～

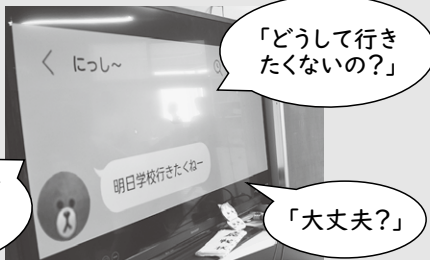
導入

1 オンラインコミュニケーションでの問題について例題を通して押さえる



「皆さんだったらどんな返信を返しますか？」というアンケートをしました。

「別に無理して行かなくてもいいんじゃない？」



「どうして行きたくないの？」

「大丈夫？」

2 オンラインコミュニケーションの特徴を押さえる

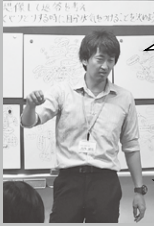
- ・相手の顔が見えづらい特性
- ・思い込み、誤解が生まれやすいという特性

【研究との関わり】
 日常モラルを生かした学習内容の工夫

課題：相手の様子を想像して返答を考え、オンラインで楽しくやり取りするときに自分が気を付けることを決めよう。

展開

3 相手を想像しながら返信を考える



マッピングをしながら、投稿への返信を考えましょう。

どんな様子を想像したか、何と答えるかも想像して書き込みましょう。

夜遅いから、スルーしちゃうかも…。

様子が分からないから、「どうして？」って聞いてみようか。

【研究との関わり】
 一人一人が意思決定する学習展開の工夫

俺も～って共感するな。

4 グループごとのマップを共有する

確かに本気で悩んでいるのかも。

でも、本人も軽い感じで言っているかもしれないし…。

オンライン上でも相手は人間。誤解される可能性を低くする工夫ができる。困ったときには立ち止まる・相談することが必要。

5 実際にチャットに返信する

本当に困っていると思うから、どうしたのか聞きます！



絵文字だけの投稿に何て返そう…。

終末

6 今後の自分自身の行動について考え、決定する

ふだんの生活でも、言葉遣いに気を付けたい。

相手のことを考えて話したい。



相手の様子を考えて自分の言いたいことをしっかり伝えるようにしたいな。

新得町立新得小学校 第6学年
 授業者 西嶋 健悟 教諭
 研究の内容1 日常モラルを生かした学習内容の工夫
 研究の内容2 一人一人が意思決定する学習展開の工夫

「動画へのコメント投稿」
 学級活動 (2)イ よりよい人間関係の形成
 題材 「世界でだれかが君を見ている」

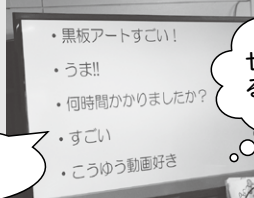
導入

1 「動画へのコメント」について事前アンケートの結果を知る



「皆さんだったらどんな返信を返しますか？」というアンケートをしました。

そんなこと言うの？



- ・黒板アートすごい！
- ・うま!!
- ・何時間かかりましたか？
- ・すごい
- ・こーゆー動画好き

世界中で見られるとしたら…。

2 世界中で見られる情報を発信するときの特性を押さえる

- ・個人情報注意
- ・自分自身の投稿は消してもなくなる可能性
- ・その一言が自分の評価になる可能性

【研究との関わり】
 日常モラルを生かした学習内容の工夫

直接じゃ言えないけど、インターネット上なら言えるかも

課題：全世界が見ています。よりよい表現に変えよう。

3 動画へのコメントをよりよい表現へ変える

個人情報を書いてしまっているな…。



【研究との関わり】
 一人一人が意思決定する学習展開の工夫



みんなの動画へのコメントの表現を変えてみましょう。

どんな視点で考えたかもワークシートに書き込みましょう。

これは相手のことを考えてないね。



言葉遣いが悪いし、これが消せないのはちょっと…。

4 グループで表現について話し合い、意見を共有する

この表現は、変えたいね。「違う雰囲気」はどうか？



顔が見えなくても相手はいるんだよな～。

5 実際の動画にコメントをしてみる

投稿には名前も表示されるから…。



次のバージョンも楽しみだから、期待していることを書こう。

6 今後の自分自身の行動について考え、決定する

消したくても消せない可能性があるから発信する前にちゃんと確認しないと。



日常生活でも相手に失礼にならないように言葉を伝えていきたい!!

展開

終末

4 中学校授業実践 1

「SNSのよりよい使い方を考える」

音更町立共栄中学校 第1学年
授業者 青木 大地

- 1 題材 「LINEのトラブルを避けるには？」
学級活動(2)ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

2 題材について

(1) 子どもの実態

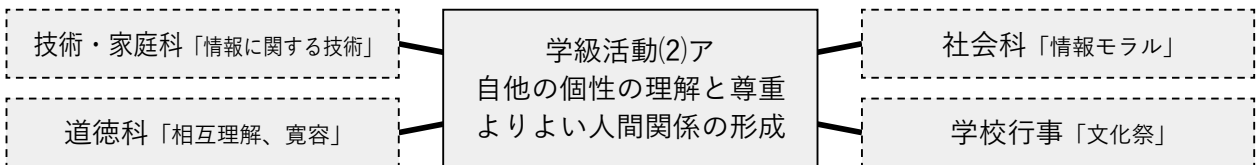
子どもたちは、学校行事のあらゆる場面で積極的に行動したり、自ら考えて行動したりしようとする姿が見られる。しかし、抽象的な表現で伝えると他人事として捉えてしまうことがある。そこで、身近に起こり得ることを題材として取り上げ、当事者意識を常にもたせながら、自らの行動について考えさせたい。

(2) 題材設定の理由

事前アンケートによると、クラスの子どもの約8割が自分専用のスマートフォンを所持している。また、「友達に何かを伝えたいとき、どの方法を使いますか」という質問では、約8割の子どもがスマートフォンを使用すると回答しており、主にLINEを利用していることが分かる。

本時では、LINEのグループトークの一場面を取り上げる。返信を考える活動を取り入れ、自分の意見を表明したり、相手の意見を聞いたりしながら、様々な考え方に触れることで多様性を認め、他者尊重する大切さを理解できるようにする。また、具体的な場面においてよりよい行動を考えることで、責任をもって行動するスキルを身に付けることをねらいとする。

(3) 他教科等との連携



3 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。 適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見いだしている。 多様な意見を基に自ら意思決定している。	他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。 他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。

4 事前の指導

子どもの活動	指導上の留意点	目指す子どもの姿と評価方法
アンケートに記入する。	自分自身の生活を適切に振り返るよう指導する。	アンケートを記入し、オンラインコミュニケーションの長所と短所について考えることができる。 【思考・判断・表現】(アンケート)

5 研究内容との関わり

(1) 研究内容 1

- 事前アンケートから子どもの実態を把握した上で、子どもたちが自分事として考えやすいLINEのグループトークの場면을題材として取り上げる。
- 心理的特性における「非対面で伝わりにくい部分がある」について取り扱う。

- (2) 研究内容2
- 架空のグループトークのやり取りから、オンライン上の発言がどう受け取られ、どのような結果を生むのかを予想する場を設定し、話し合いを通して多様な視点から考えを深めることができるようにする。
 - 話し合いを通して得られた多様な視点を基に、自分だったらどのような行動をするか、考えを再形成する場を設定する。

6 本時の展開

- (1) 本時のねらい（目指す子どもの姿）
- 適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。
 - 多様な意見を基に自ら意思決定している。
- (2) 学習過程

指導過程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主な発問や教師の指示 ・ 予想される子どもの反応 	指導上の留意点（□）評価（☆） 研究との関わり
導入 つかむ	<p>SNSに関する事前アンケートの結果を確認し、本時の題材を自分事として捉え、課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ クラスの多くの人が、友達とのコミュニケーションの手段としてLINEを使っています。 オンラインコミュニケーションの経験を振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・ お祝いメッセージが何件も来た ・ 自分の発言に既読は付くが反応がない LINEにおけるコミュニケーションの特徴を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> □事前アンケート結果を提示し、本時の課題につなげる。 □発信側、受取側それぞれの視点から特性について理解を促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【①】 情報技術の仕組みの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の顔が見えづらい特性 ・ 思い込み、誤解が生まれやすいという特性 </div>
展開	<p>課題 友達とコミュニケーションを取るためのSNSのよりよい使い方を考え、自分自身が気を付けることを決めよう。</p>	
さぐる 見つける	<p>トラブルを起こさず、みんなが楽しくコミュニケーションを取ることができる返信を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分だったらどのような返信をしますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 余計なこと言わなくていいんじゃない ○ 考えた返信が最終的にどのようなストーリーを描くか考えてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「〇〇時集合にしよう！」といった返信だと、あかねが置いてきぼりになってかわいそう。 ○ ほかの班とワークシートを交換し、どのようなストーリーを描くか予想し合ひましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ あかねに気遣いすぎると逆に気まずい。 ○ ほかの班の予想から、自分たちの考えをもう一度考え直してみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが考えた結末とは違う捉え方だな。 ○ 気付いたことをまとめましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> □タブレット端末を活用して、お互いの考えを共有することができるようにする。（Google ドキュメント） □返信の内容によって、ハッピーエンド～バッドエンドのどの結末になるかを考えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【②】 行動の選択肢の議論</p> <p>返信によるストーリーの変化や違いを予想しながら考えている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> □答えをまとめるのではなく、そのときの状況や立場によって捉え方が異なることに気付くことができるようにする。
終末 決める	<p>これからのよりよい関わり方について意思決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、オンラインコミュニケーションを取る上で意識したいことは何ですか。また、今回の学習をふだんの生活のどのような場面で生かすことができますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆多様な意見を基に自ら意思決定している。（記述、観察） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【②】 前向きな対処法の追求</p> <p>今後の自己の前向きな行動について意思決定している。</p> </div>

7 事後の活動

子どもの活動	指導上の留意点	目指す子どもの姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、オンライン上で自分自身に起こり得る状況に合わせて、よりよい使い方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインだけではなく、ふだんのやり取りの中で意識していくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的な視点から物事を捉えることの重要性を理解し、進んで実践している。 <p>【思考・判断・表現】（観察）</p>

5 中学校授業実践2

音更町立共栄中学校 第1学年
授業者 青木 大地

「SNSのよりよい使い方を考える」

1 題材 「いいねの感じ方」
学級活動(2)ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

2 題材について

(1) 子どもの実態

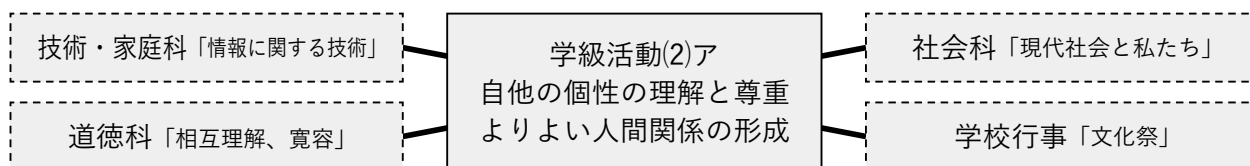
授業実践1のほか、学校生活のあらゆる場面でスマートフォンの利用についてやSNSの危険性について扱っているため、子どもたちはスマートフォンやSNSを正しく利用しようとする態度が養われていると考えられる。

(2) 題材設定の理由

事前アンケートによると、LINEと比べると公開系のSNS（InstagramやXなど）の使用率は低い傾向にある。アカウントは所持しているものの、写真やメッセージなどを投稿したことがある子どもはほとんどおらず、他者の投稿を見ること为中心となっている。

そこで、本時ではInstagramやXなどで写真を投稿することを想定した疑似体験を行う。#（ハッシュタグ）を付けたコメントを投稿し、フォロワーから「いいね」をもらうための投稿や、炎上する投稿がどのような結果になるかを予想し合いながら、個人の価値観と他者の価値観の違いについて理解できるようにする。また、具体的な場面においてよりよい行動を考えることで、責任をもって行動するスキルを身に付けることをねらいとする。

(3) 他教科等との連携



3 評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。 適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見いだしている。 多様な意見を基に自ら意思決定している。	他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。 他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。

4 事前の指導

子どもの活動	指導上の留意点	目指す子どもの姿と評価方法
アンケートに記入する。	自分自身の生活を適切に振り返るよう指導する。	アンケートを記入しInstagramやXなどを使って投稿する人の気持ちについて考えている。 【思考・判断・表現】（アンケート）

5 研究内容との関わり

(1) 研究内容1

- 事前アンケートから子どもの実態を把握した上で、子どもたちが今後使用する可能性が高いSNS（InstagramやXなど）を題材に扱う。
- 授業実践1で取り扱った心理的、具体的特性に加え、本時では「受け取る状況や場面によって同じ情報でも感じ方や捉え方が違う場合がある」という特性について取り扱う。

- (2) 研究内容2
- 写真に#（ハッシュタグ）付きで投稿する疑似体験を通して、見ている人が楽しめる適切な言葉について考える活動を行う。
 - 話し合いを通して得られた多様な視点を基に、自分だったらどのような行動をするか、考えを再形成する場を設定する。

6 本時の展開

- (1) 本時のねらい（目指す子どもの姿）
- 適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。
 - 多様な意見を基に自ら意思決定している。
- (2) 学習過程

指導過程	○ 主な発問や教師の指示 • 予想される子どもの反応	指導上の留意点 (□) 評価 (☆) 研究との関わり
導入 つかむ	SNSに関する事前アンケートの結果を確認し、本時の題材を自分事として捉え、課題をつかむ • クラスの多くの人々が、公開系のSNS（InstagramやXなど）に興味を示している。 LINEにおけるオンラインコミュニケーションについて振り返り、InstagramやXなどとの違いを確認し、本時の課題につなげる • InstagramやXなどは知り合いなど、多くの人から見られるようになってきているため、更に誤解が生まれやすい。	□事前アンケート結果を表で提示し、本時の課題につなげる。 □受け取る相手によって感じ方や捉え方が違う場合がある特性について理解を促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【①】 情報技術の仕組みの理解 • 相手の顔が見えない • 思い込み、誤解が生まれやすいという特性</div>
展開	課題 1対多数におけるSNSの利用について考え、自分自身が気を付けることを決めよう。	
さぐり 見つける	写真に合った一言を考える ○ 自分だったらどんな一言を付けるか考えましょう。 • 72時間ぶりのちゅ〜る • 大好物だニャー ○ 班で話し合い、それぞれの投稿のいいね数を予想して分類しましょう。 • この一言は不快に思うからいいね少なそう。 ○ 班の中で一番いいねが多そうな投稿を決めていいねをもらってみましょう。 ○ 実際のいいね数から自分たちの考えをもう一度考え直してみよう。 • 自分たちとは違う捉え方をしているな。 ○ 班の中で一番いいねが多そうな投稿を決めていいねをもらってみましょう。 • グループの中ではあまり人気がなかったけどクラスの中でいいねが多もらえた。 ○ 気付いたことをまとめましょう。	□タブレット端末を活用して、お互いの考えを共有することができるようにする。(Google スライド) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【②】 行動の選択肢の議論 見えない相手の反応を予想しながら議論し選んでいる。</div> ☆適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。 【知識・技能】（観察） □答えをまとめるのではなく、そのときの状況や立場によって捉え方が異なることに気付くことができるようにする。
終末 決める	これからの友達とのよりよい関わり方について意思決定する。 ○ 今後、コミュニケーションを取る上で意識したいことは何ですか。また、今回の学習をふだんの生活のどのような場面で生かすことができますか。	☆多様な意見を基に自ら意思決定している。(記述、観察) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【②】 前向きな対処法の追求 今後の自己の前向きな行動について意思決定している。</div>

7 事後の活動

子どもの活動	指導上の留意点	目指す子どもの姿と評価方法
• 今後、SNS上で自分自身に起こり得る状況に合わせて、よりよい使い方を考える。	• SNS上だけでなく、ふだんのやり取りの中で意識していくようにする。	• 客観的な視点から物事を捉えることの重要性を理解し、進んで実践している。 【思考・判断・表現】（観察）

6 中学校授業実践記録

音更町立共栄中学校 第1学年
 授業者 青木 大地 教諭
 研究の内容1 日常モラルを生かした学習内容の工夫
 研究の内容2 一人一人が意思決定する学習展開の工夫

「SNSのよりよい使い方を考える」
 学級活動 (2)ア 自他の個性の理解と尊重
 よりよい人間関係の形成
 題材 「LINEのトラブルを避けるには？」

導入

1 SNSに関する事前アンケートの結果から題材を捉え、課題をつかむ

みんなに知らせることができて便利!

内容を考えないと、トラブルになるかも。

「皆さんだったらどんな返信を返しますか?」というアンケートをしました。



2 LINEにおけるコミュニケーションの特徴を押さえる

- ・相手の顔が見えづらい特性
- ・思い込み、誤解が生まれやすいという特性

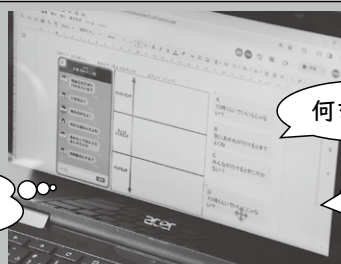
【研究との関わり】
 日常モラルを生かした学習内容の工夫

課題: 友達とコミュニケーションを取るためのSNSのよりよい使い方を考え、自分自身が気を付けることを決めよう。

3 みんなが楽しくコミュニケーションを取ることができる返信とその後のストーリーを想像する

自分だったらどのような返信をするか考え、その後のストーリーを想像しましょう。

【研究との関わり】
 一人一人が意思決定する学習展開の工夫



何を歌う?

あかねに触れるべきか、触れないべきか…。

その返信は、バッドエンドでしょ。

展開

4 ほかの班で作った返信を使ってその後のストーリーを想像する

行けないと言っているんだから、放っておいてあげた方がいいんじゃない?

これは言葉遣いが悪いなあ。

気まずい雰囲気になりそうだから、ちょっとバッドエンドかなあ。



5 それぞれ想像したストーリーを見比べる

これがハッピーエンドってどういうこと!?

同じ返信でも、違う捉え方をしているなあ。



終末

6 今後の自身の行動について考え、意思決定する

ふだんの生活でも、言葉遣いに気を付けたい。

文化祭でも連絡でChromebookを使うから、気を付けよう。

伝わり方がそれぞれだから、よく考えて送信しないといけないな。



音更町立共栄中学校 第1学年
 授業者 青木 大地 教諭
 研究の内容1 日常モラルを生かした学習内容の工夫
 研究の内容2 一人一人が意思決定する学習展開の工夫

「SNSのよりよい使い方を考える」
 学級活動 (2)ア 自他の個性の理解と尊重
 よりよい人間関係の形成
 題材 「いいねの感じ方」

導入

1 SNSに関する事前アンケートの結果から題材を捉え、課題をつかむ

投稿を見たりDMを送ったりするのがメインで、投稿はしていませんね。

前回のLINEとは違って、より多くの人に見られる可能性があるな。

InstagramやXの利用に関するアンケートの結果を見てみましょう。

使っている人が4割で、8割の人は興味をもっていますね。

2 InstagramやXにおけるコミュニケーションの特徴を押さえる

- ・ 思い込み、誤解が生まれやすいという特性
- ・ 受け取り手によって捉え方が違う

【研究との関わり】
 日常モラルを生かした学習内容の工夫

課題：1対多数におけるSNSの利用について考え、自分自身が気を付けることを決めよう。

3 写真に合った一言を#を付けて考え、班でいいね数を予想する

#を付けた一言を班で交流し、いいね数を予想してみましょう。

これは50はいくでしょ!

この言い方は、いいねが少なそうだね。

どんな風に受け止められるんだろう。

【研究との関わり】
 一人一人が意思決定する学習展開の工夫

展開

4 GoogleFormsで各班の投稿に「いいね」をし、結果を確かめる

これ面白いから、いいねが伸びると思ったんだけど...

思った数とは違うなあ。

グループの中での感じ方と、クラスでは違ってましたね。もっと広く、いろいろな人が見ることを考えたらどうでしょう?

5 結果を受けて、再度、各班の投稿に「いいね」をする体験をする

たくさんの人が見るから、言葉を選ばないといけないね。

同じ投稿でも、違う捉え方をしているなあ。

終末


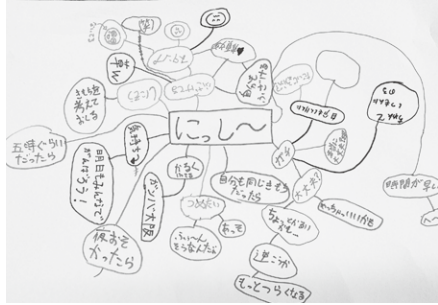

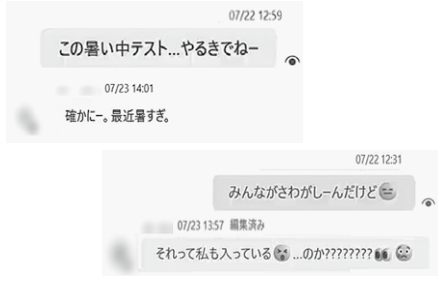
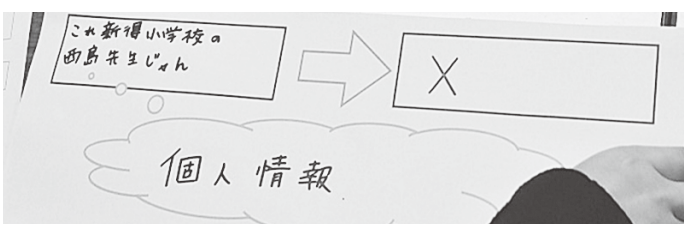

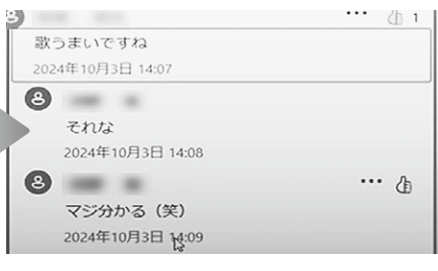
6 今後の自分自身の行動について考え、意思決定する

言葉遣いに気を付けないと誤解が生まれるかも。

みんなが楽しく見られるようにしたいな。

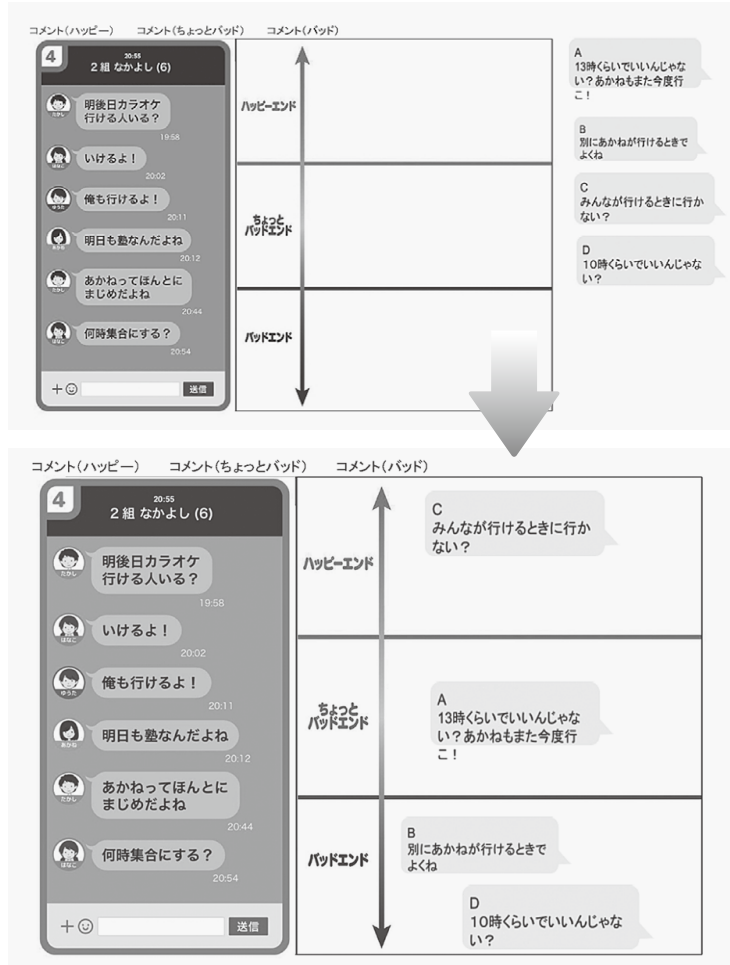
自分は平気と思って、ほかの人からしたら嫌かもしれないな...

7 資料「行動の選択肢の議論のアクティビティ」

	アクティビティ	活動の様子
小学校授業実践 1	<p>○ マッピング</p> 	<p>テーマを中心に配置し、どんな返信をするか書き込んでいます。考える際には、相手のどんな様子を想像したか、何と答えるかについて相談しながら書くように指示をしています。</p> 
	<p>○ チャットへの返信</p> 	<p>Teamsのチャット機能を活用し、先生から送られたメッセージに返信する活動をしています。相手の様子を想像して返信を考える疑似体験となります。</p> 
小学校授業実践 2	<p>○ ビフォーアフター</p> 	<p>事前アンケートで集めていたコメントを一覧で配布しました。その中から個人でいくつか選択し、よりよい表現に変えていきます。その後、班で交流し、シートに記入しています。</p>
	<p>○ 動画へのコメント</p> 	<p>Teamsで動画を共有し、コメント機能を活用しています。「いいね」スタンプなどのリアクションもすることもできます。</p> 

中学校授業実践 1

○ Google ドキュメント (返信投稿のグループ分け)



各グループにGoogleドキュメントを配布します。枠外にある吹き出しに、個人でLINEの返信を記入します。

記入後、グループでそれぞれのコメントについての感じ方を交流し、「Happy End、ちょっとBad End、Bad End」の枠に吹き出しを移動させます。

この後、同じ作業を、違う班で記入された吹き出しで行い、自班のストーリーと他班のストーリーの違いから、受け取り方の違いについて体感する活動です。



中学校授業実践 2

○ Google スライド (スライドの入れ替え)



各グループにGoogleスライドを配布します。1人1スライドを編集し、ハッシュタグを付けたコメントを作成します。

班でコメントの印象を交流しながら「いいねが多い、普通、少ない」の3段階で予想をします。その際、スライドの場所を移動することで、表しています。



VI 研究のまとめ

1 研究の内容に関わる本時の検証

(1) 小学校

① 日常モラルを生かした学習内容の工夫について

- 事前アンケートを活用し、子どもの実態をつかむことで、子どもが自分事として考えることができる題材を設定することができた。
- 導入段階で情報機器の特性について取り上げ理解を図ることで、その後の活動における視点が定まった。
- 相手のことを理解し、尊重しようとするあまり、自分自身が我慢すればよいという思考も見受けられた。

Q：オンラインコミュニケーションが題材でしたが、学習してみてどうでしたか？

思っていたより気を付けなければいけないことがたくさんあるなと思いました。ふだん友達と話すときも相手のことを考えて伝えたいです。



② 一人一人が意思決定する学習展開の工夫について

- 授業の後半部分で、SNSでのやり取りについて疑似体験する活動を取り入れることで、具体的な場面や雰囲気を感じることができた。また、理想論にとどまらず、実感を伴った意思決定をしている子どもが多かった。
- 体験をすることで活動の規模が大きくなることも考えられるため、細かな時間設定が必要である。

Q：今日学んだことをこれからの生活にどのように生かしていきたいですか？

インターネットだけでなく、ふだんの生活でも相手に失礼にならないように言葉を伝えたり気を付けて話したりしたいです。



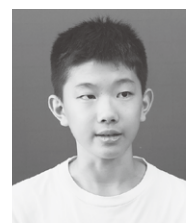
(2) 中学校

① 日常モラルを生かした学習内容の工夫について

- 事前アンケートから、子どもたちがふだんどのようにデジタル機器を使用しているのかなどを把握し、子どもたちの実態に合った題材を設定できたことで、より自分事として捉えられるような授業設計ができた。
- インターネット上のコミュニケーションは、相手の表情や状況が見えにくく、思い込みや誤解が発生しやすいという特性をつかんだ上で、より具体的な場면을想起して学ぶことができた。
- 学級内での疑似体験では、多様な価値観に触れる機会が少ないため、より多角的な視点を獲得するため異なる背景の人との交流があるとよい。

Q：今日学んだことをこれからの生活にどのように生かしていきたいですか？

ほかの人の発言が自分にとってはこんな感じ方をするとか、また別の人はこんな感じ方をするとか、受け取り方がいろいろと違うことが分かったので、相手を思った返信をするのが大事だと思いました。



② 一人一人が意思決定する学習展開の工夫について

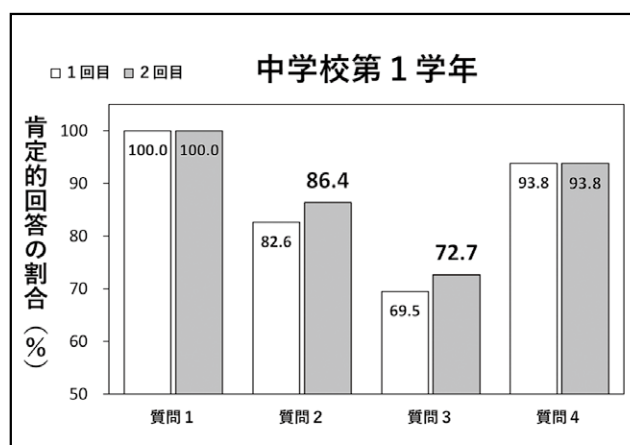
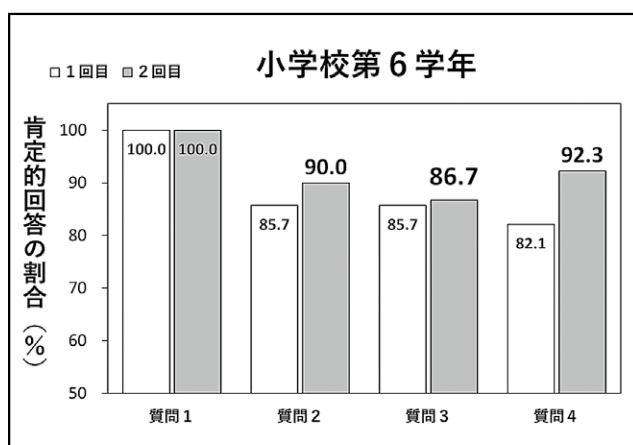
- 疑似体験をする中で、互いの意見を交流し、その意見や捉え方の違いや感覚の違いについて触れることで、SNSの利用経験が少ない子どもでもこれからの使い方を考える授業構成になっていた。また、相手のことを考えた行動をすることについて、オンライン上でも日常でも変わらないということに気が付くことができた。
- 自己の今後の行動に対する意思決定をするため、オープンエンドの形となっており、その後の行動を振り返る場面の設定が必要である。



Q：今日学んだことをこれからの生活にどのように生かしていきたいですか？

自分は平気と思って使っている言葉もほかの人からしたら嫌かもしれないから、ほかの人のことを考えないと自分の思った通りに伝わらないと思いました。

2 授業実践前後のアンケート結果からの検証

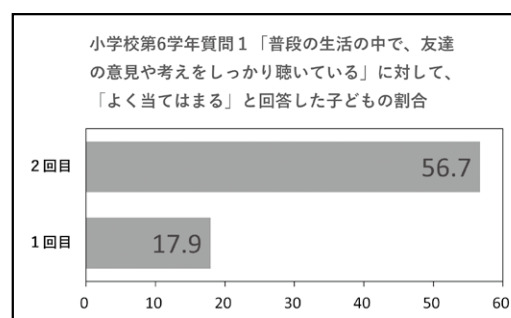


○ アンケート項目（小学校・中学校共通）

- 1 ふだんの生活の中で、友達の意見や考えをしっかりと聴いている。
- 2 ふだんの生活の中で、自分の意見や考えをしっかりと伝えている。
- 3 ふだんの生活の中で、自分の行動を振り返っている。
- 4 自分の行動を振り返って、次に生かしている。

今年度も研究の成果を様々な視点から検証できるように、小学校、中学校ともに、授業実践実施前に1回目、授業実践終了後に2回目のアンケートを実施した。回答形式は的確に実態を把握するため四者択一としたほか、それぞれの項目について選択した理由の記述欄を設けた。全ての質問の選択肢は、「よく当てはまる・まあまあ当てはまる・あまり当てはまらない・当てはまらない」となる。それらのうち前者2つを肯定的回答「当てはまる」として集計したものが上掲のグラフである。

小学校では、全体として高まりが見られた。特に質問1については、1・2回目ともに100%という結果だが、「よく当てはまる」の項目だけを切り取ると、39.8ポイント増となっている（右図）。理由記述からも、日常においてもオンライン上でも相手を意識する必要性について高まっていることが分かった。質問3ではわずかに1%増となっているが、理由記述において、行動だけでなく、その行動が



周囲に与える影響についても深く考える記述が見られたことから、周囲のことを考えて行動する必要があるという責任感の高まりが感じられた。

また、中学校においても意識が高まったと考える。特に質問2の理由記述から、自分の意見を伝えることの大切さや相手への伝え方が意識されたことで、オンラインコミュニケーションだけでなく日常のコミュニケーションについても深く考えるようになったことが分かる。加えて、質問4の理由記述については、「振り返ろうとは思わない」「終わったことは終わったから振り返らない」と記述していた子どもが、自分の行動を振り返ることの重要性や、振り返りを次に生かす方法を学んだことが分かる記述に変化していた。

質問2「ふだんの生活の中で、自分の意見や考えをしっかりと伝えている。」への理由記述から抜粋

その友達は、「こういう意見をもっているんだ」と関係を深める事ができるから。

自分の意見を言うことで間違っていることも気付くことがあるから。

質問4「自分の行動を振り返って、次に生かしている。」への理由記述から抜粋

自分の行動を相手がどう感じているかを振り返って次に生かしたい。

本当にその行動がよいかどうかを考えて、インターネットを活用していきたい。

3 研究内容の検証

(1) 日常モラルを生かした学習内容の工夫について

- 事前アンケートを活用することで、実態を踏まえた学習活動となり、子どもたちが学習内容を自分事として捉えることができた。
- オンラインコミュニケーションの具体的な場面を例にしたことで、情報機器の特性を実感することができ、日常やオンライン上で生かそうとする姿が見られた。
- 日常モラルと結び付けながらオンラインコミュニケーションの特性を十分に理解させ、かつ具体的な行動変容を促すことは学級活動だけでは難しいと考えられる。授業後のフォローアップや、学校全体での取り組みが必要であると同時に、家庭との連携も大事になってくるだろう。

(2) 一人一人が意思決定する学習展開の工夫について

- 実際の子どもの使い方に近い形の疑似体験を通して考えたことで、今後の自分自身の行動に対する意思決定を促進することができた。
- 行動の選択肢の議論を通して、子どもたちは異なる立場や考え方があることを認識し、多様性を認めることで、意見を伝えることの重要性についても実感することができた。
- 疑似体験を通して、一人一人の意思決定に向かうことができたが、取り上げた題材（SNSの使用やコメント投稿）の使用に関しての意思決定に終始してしまう子どももいた。
- 行動の選択肢を議論するために、様々な手法の工夫が必要であるが、その準備に手間と時間が掛かってしまった。

4 研究1年次の成果と課題

- 事前アンケートから把握した実態に合わせた題材設定をすることで、実感を伴う学習過程を構築することができた。
- 導入段階で情報技術の特性を扱ったが、事前アンケートや日常のモラルと関連付けながら授業者から提示することで、短時間で理解が深まり、その後の展開に効果的に繋がった。
- 子どもたちは、様々な意見や情報を踏まえ、オンライン上で起こり得る問題に対して、自分だっ

たらどのような行動を取るかを考え、意思決定を行った。特に、前向きな対処法を追求することを重視したことで、問題を回避するだけでなく、よりよいコミュニケーションを築くための方法を積極的に考える姿勢が見られ、他者を尊重しようとする姿が各所に見られた。

- 情報技術の特性を理解した上で、オンラインコミュニケーションについて学ぶ学習であったが、日常生活との関連も理解することができた。また、他教科の学習活動中や休み時間中に学習したことを意識して過ごす子どもも見られた。
- 冬休み明けに実施した追跡アンケートでは、相手のことを考えたり言葉を選んで伝えたりすることの意識が継続し、実際に取り組もうとする姿が見られた。また、発する情報が他者に与える影響を考え、一旦立ち止まり考えてから行動を取ろうとしていることも分かった。
- 特別活動（学級活動②）の視点から授業づくりを行ったが、実際に行動してみても振り返るという流れを設定することが難しかった。長期的な視点で情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するためには、他教科や学校行事などとのつながりを考えて教科横断的に教育課程に位置付け、教育活動全体で取り組む必要がある。日常的な場面における指導や家庭との連携、学校外の人との交流などより多様な関わりを想定するなど、多角的な取り組みが必要だと考えられる。
- コミュニケーションを例に活動することで、「他者を尊重する」ことは充実していたことが分かる。しかし、「責任をもって行動する」という視点については、友達や近い人への影響だけでなく、より広く社会全体への影響についても考える必要がある。

V 研究協力校紹介／参考・引用文献

研究協力校			研究協力員
新得町立新得小学校	校長	須藤 正博	西嶋 健悟
音更町立共栄中学校	校長	渡辺 弘司	青木 大地

十勝教育研究所 担当 靱山 修斗 / 白澤 大輔

参考・引用文献

- 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月） 文部科学省
- 中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月） 文部科学省
- 「教育の情報化に関する手引－追補版－」（令和2年6月） 文部科学省
- 情報モラル教育ポータルサイト 文部科学省
- 家で学ぶデジタルシティズンシップ～実践ガイドブック～ 総務省
- 「みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」 国立教育政策研究所
- 「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」 国立教育政策研究所
- ネット社会の歩き方 日本教育情報化振興会
- ネット社会の歩き方がおススメする情報モラルポータルサイト 日本教育情報化振興会
- 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集 日本教育情報化振興会
- はじめよう！デジタル・シティズンシップの授業 日本標準

十勝教育研究所

■共同研究担当所員

柴 田 悠 二
山 本 由 佳
佐 藤 悠 樹

■協力員研究担当所員

粕 山 修 斗
白 澤 大 輔

十勝教育研究所では、共同研究として、「十勝管内教育推進の重点」に沿った研究を、管内19市町村の共同研究員と進めてまいりました。昨年度よりスタートした「自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究～考えを広げ深める対話の工夫と、学びをつなげる振り返りを通して～」では、小・中学校2つのグループでのそれぞれ2本の授業実践と、実践協力員に自校で実践を進めていただきながら検証を進め、2年次の成果をまとめました。

また、協力員研究として、小・中学校の先生方にご協力をいただきながら、授業実践に基づいた研究を進めてまいりました。2か年継続研究の1年次となる「他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究～日常モラルを生かした学習内容と一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して～」では、事前アンケートの活用や、行動の選択肢の議論が大切であると考え、授業実践に取り組みました。

どちらの研究も学習指導要領を踏まえ、日常の実践に結び付くものと考えております。本研究が、各学校における教育活動推進の一助となれば幸いです。

末筆になりましたが、本研究紀要の作成に当たり、ご協力いただきました共同研究員、研究協力員、教育関係機関の皆様には厚くお礼申し上げます。

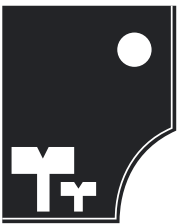
令和7年2月

研究紀要 No. 219

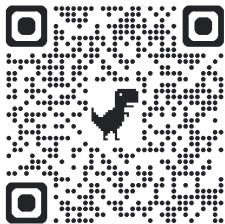
自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究
～考えを広げ深める対話の工夫と、学びをつなげる振り返りを通して～
(2か年継続研究 2年次)

他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究
～日常モラルを生かした学習内容と一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して～
(2か年継続研究 1年次)

発行 令和7年2月
発行所 十勝教育研究所
発行人 山田 洋
印刷所 北洋凸版印刷株式会社



十勝教育研究所



ホームページ

令和6年度教育研究活動促進事業補助金対象事業